

ふくし かん ちようさほうこくしよ
福祉に関するアンケート調査報告書

れいわ ねん がつ
令和6年3月

ひら かた し
枚方市

だい 第1	しょう ちょうさ がいよう 章 調査の概要
1	ちょうさ もくてき 調査の目的
2	ちょうさたいしょう 調査対象
3	ちょうさきかん ちょうさほうほう 調査期間と調査方法と
4	ちょうさひょう かいしゅうじょうきょう 調査票の回収状況
5	ほうこくしょ みかた 報告書の見方

だい 第2	しょう さいいじょう ちょうさけっか 章 「18歳以上」調査結果
1	ぞくせい 属性
2	しょうがい じょうきょう 障害の状況
3	す く 住まいや暮らし
4	にっちゅうかつどう しゅうろう 日中活動や就労
5	しょうがいふくし どう りよう 障害福祉サービス等の利用
6	そうだんあいて 相談相手
7	けんりようご 権利擁護
8	さいがいじ ひなんとう 災害時の避難等

だい 第3	しょう さいみまん ちょうさけっか 章 「18歳未満」調査結果
1	ぞくせい 属性
2	しょうがい じょうきょう 障害の状況
3	す く 住まいや暮らし
4	にっちゅうかつどう しゅうろう 日中活動や就労
5	しょうがいふくし どう りよう 障害福祉サービス等の利用
6	そうだんあいて 相談相手
7	けんりようご 権利擁護
8	さいがいじ ひなんとう 災害時の避難等
9	ほごしゃ せつもん 保護者への設問

だい しょう ていきょうじぎょうしょ ちょうさけっか
第4章 「サービス提供事業所」調査結果

1 ていきょう
提供しているサービスについて

2 じぎょうしょ うんえい しえん
事業所の運営や支援について

だい しょう しょうがいしゃだんたい ちょうさけっか
第5章 「障害者団体」調査結果

1 じゆういけん
自由意見

2 しょうがいしゃふくし
障害者福祉サービスについて

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、令和6年度を初年度とする第7期障害福祉計画、第3期障害児福祉計画、第4次障害者計画改訂版の策定に資するため、市民の障害福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、意向等を把握し、計画策定や施策推進に役立てるために実施するものです。

2. 調査対象

市民アンケート調査対象：「18歳以上」、「18歳未満」の障害者手帳等所持者
事業者・団体アンケート調査対象：障害福祉サービス提供事業者、障害者関係登録団体

3. 調査期間と方法

1) 調査期間

■ 「18歳以上」調査、「18歳未満」調査

調査期間：令和5年7月21日（金）～令和5年8月4日（金）

■ 「サービス提供事業所」調査、「障害者団体」調査

調査期間：令和5年7月21日（金）～令和5年8月4日（金）

2) 調査方法

郵送による、配布・回収

4. 調査票の回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
18歳以上	2,000票	720票	36.0%
18歳未満	300票	99票	33.0%
サービス提供事業所	300票	157票	52.3%
障害者団体	53票	26票	49.1%

4 報告書の見方

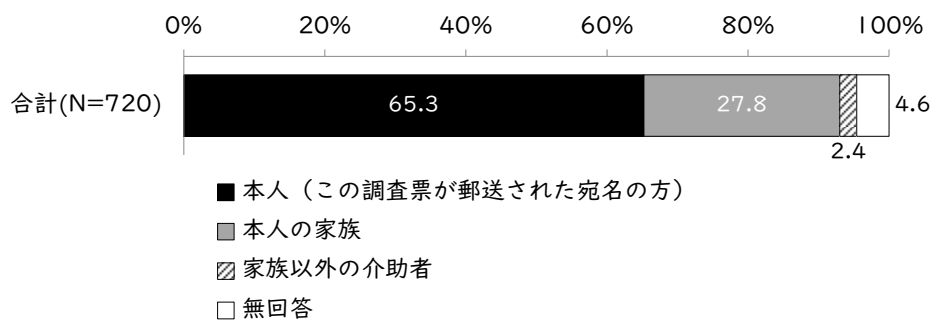
- ・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答の構成比は選択肢ごとの有効回答数に対する割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ・クロス集計のキーとなる項目については、「無回答」の項目を表示していませんが、「合計」の回答数には「無回答」の回答数が含まれます。
- ・図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- ・クロス集計において、回答者数(n)が少数となる場合は参考までに数値を見るにとどめ、結果の利用には注意が必要です。

第2章 「18歳以上」調査結果

I 属性

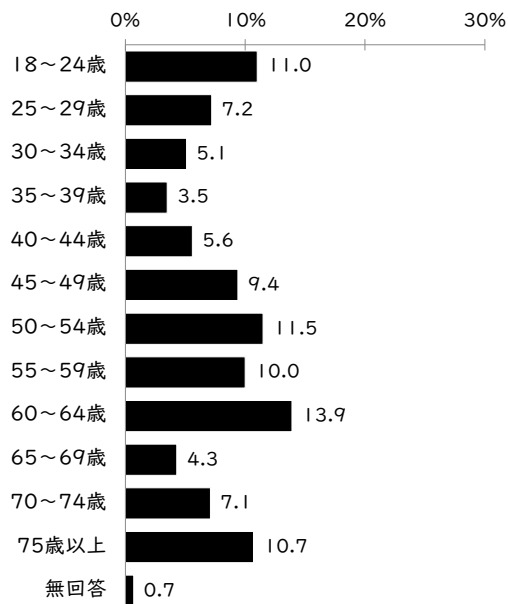
問1 回答者

「本人」(65.3%)、「本人の家族」(27.8%)となっています。



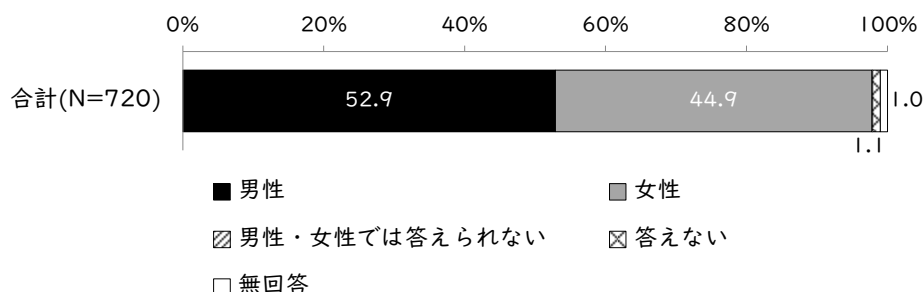
問2 年齢 (令和5年7月1日現在)

「60～64歳」(13.9%)がもっとも高く、次いで「50～54歳」(11.5%)、「75歳以上」(10.7%)となっています。



問3 性別

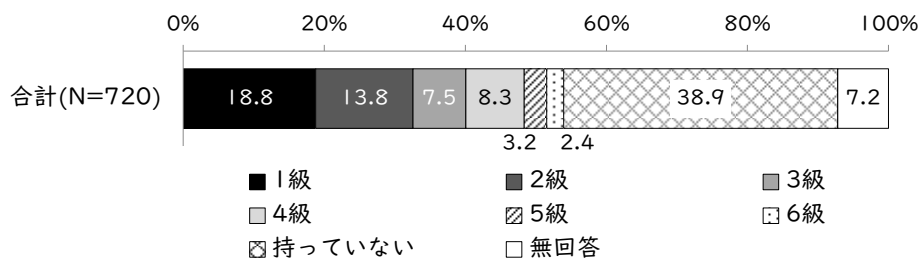
「男性」(52.9%)、「女性」(44.9%)で、「男性・女性では答えられない」(1.1%)
 となっています。



2 障害の状況

問4 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。

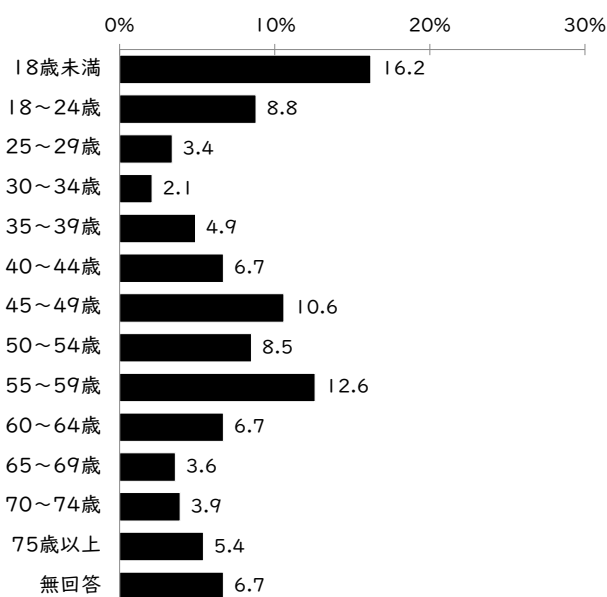
「1級」～「6級」を合わせた『持っている』は54.0%、「持っていない」が38.9%
 となっています。



問4-1 (身体障害者)手帳を取得された時の年齢をお答えください。

(N=388)

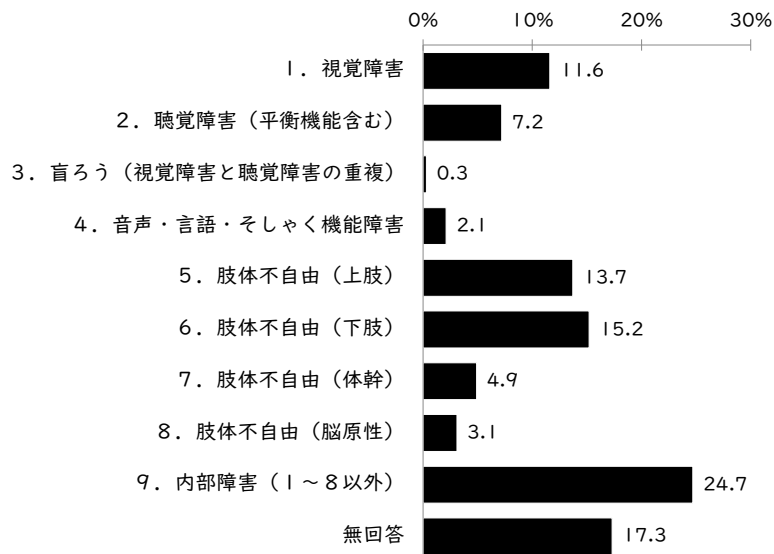
「18歳未満」(16.2%)が最も高く、次いで「55～59歳」(12.6%)、「45～49歳」(10.6%)となっています。



問5 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。

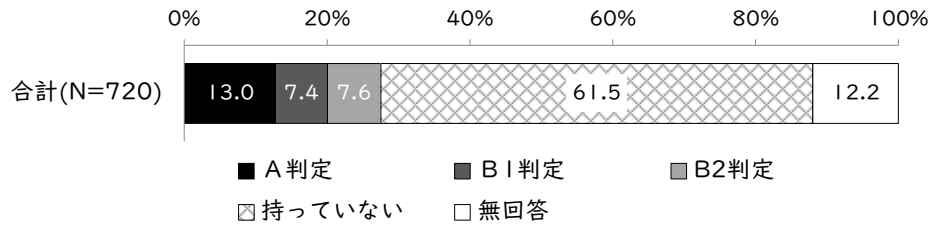
(N=388)

「内部障害(1~8以外)」(24.7%)、「肢体不自由(下肢)」(15.2%)、「肢体不自由(上肢)」(13.7%)、「視覚障害」(11.6%)となっています。



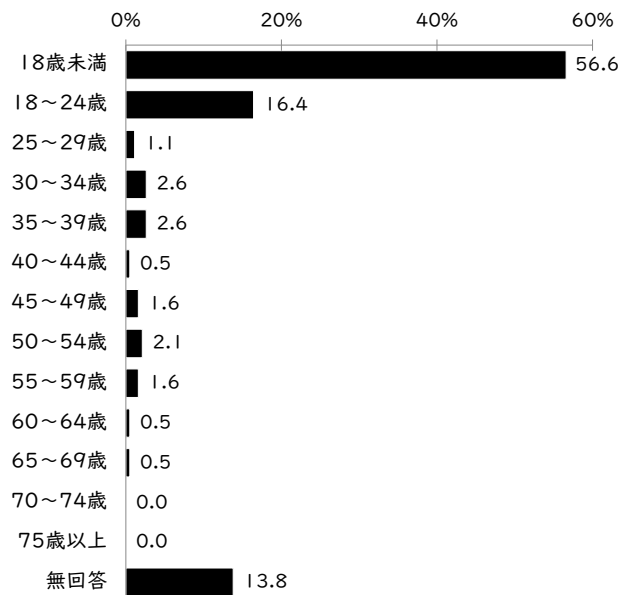
問6 あなたは療育手帳をお持ちですか。

「A判定」「B1判定」「B2判定」を合わせた『持っている』は28.0%、「持っていない」は61.5%となっています。



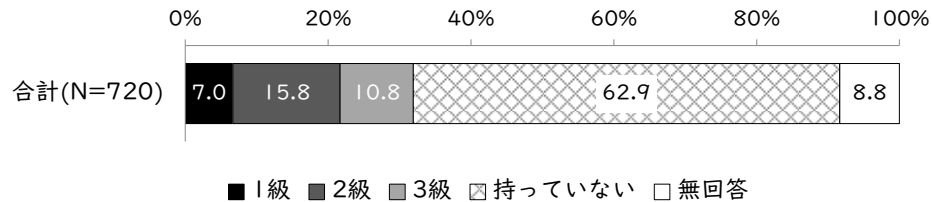
問6-1 (療育)手帳を取得された時の年齢をお答えください。(N=189)

「18歳未満」(56.6%)が最も高く、次いで「18~24歳」(16.4%)となっています。



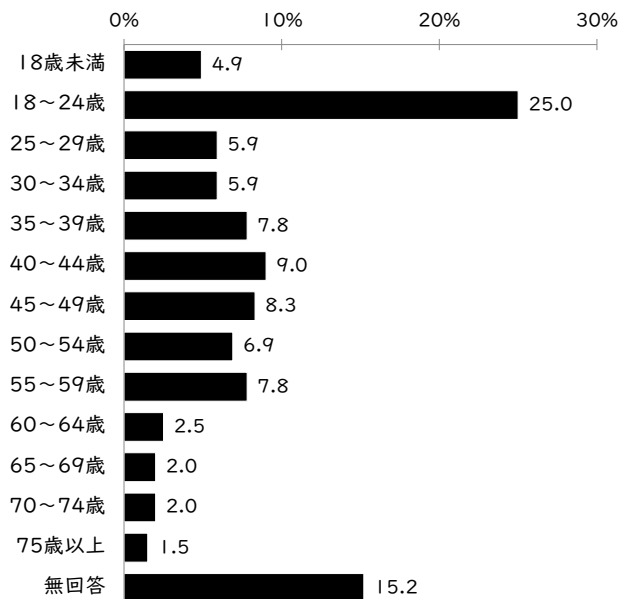
問7 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。

「1級」「2級」「3級」を合わせた『持っている』は33.6%、「持っていない」は62.9%となっています。



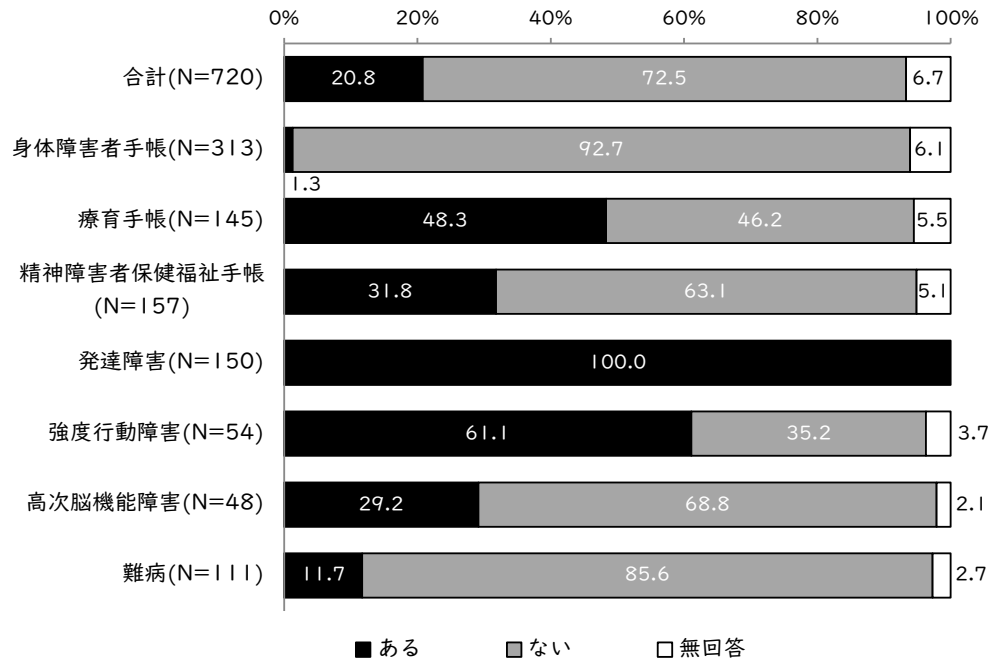
問7-1 (精神障害者保健福祉)手帳を取得された時の年齢をお答えください。(N=204)

「18~24歳」(25.0%)が最も高くなっています。



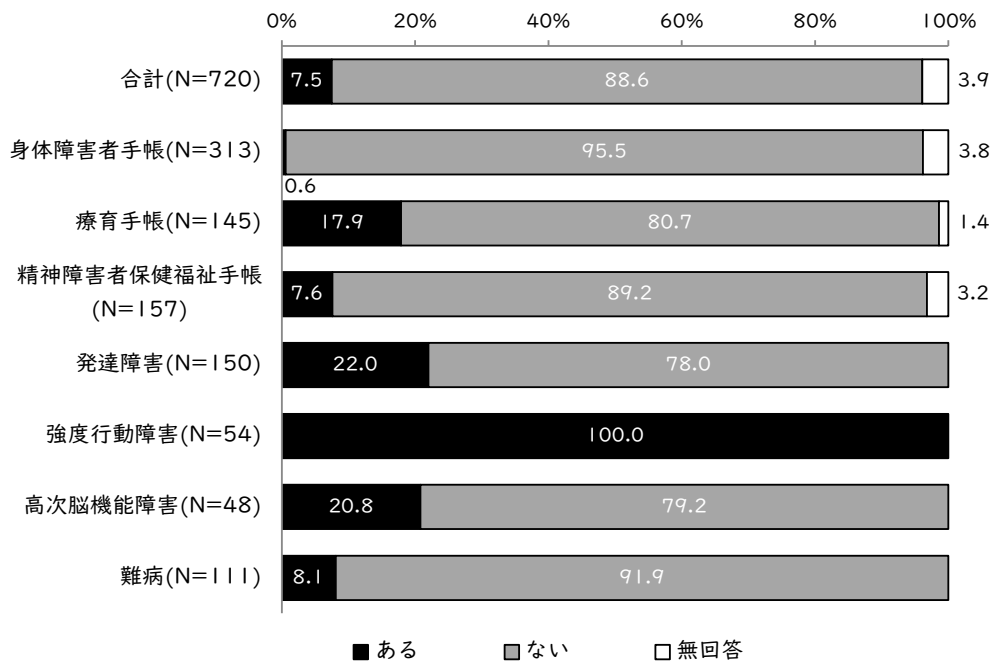
とい
問8 あなたは^{はったつしょうがい}発達障害として^{しんだん}診断されたことがありますか。

「ある」(20.8%)、「ない」(72.5%)となっています。



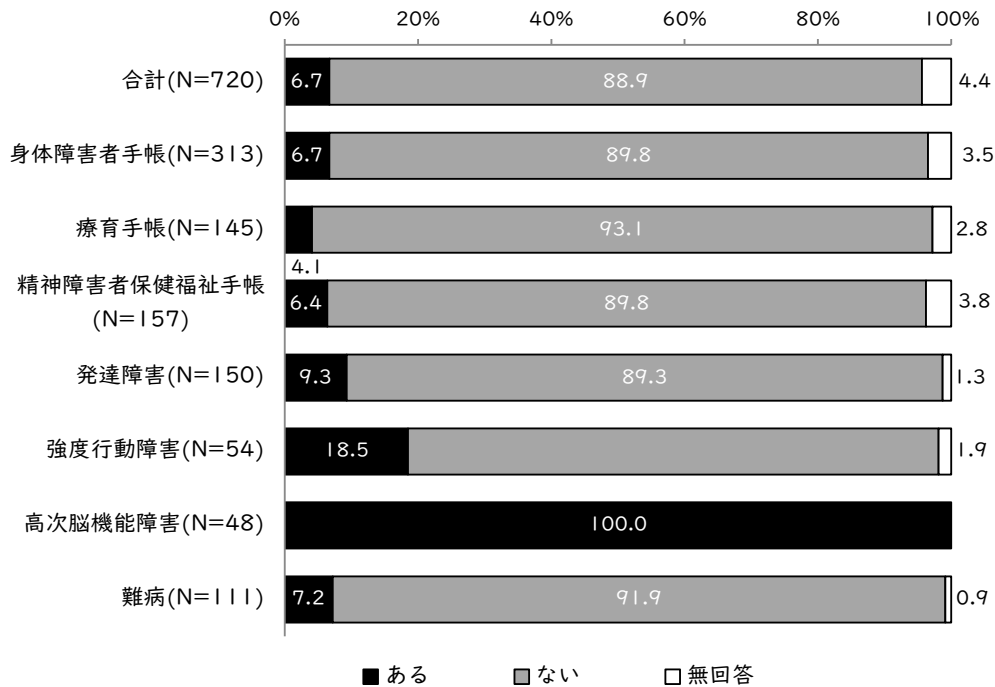
とい
問9 あなたは^{きょうどうどうしょうがい}強度行動障害があると^い言われたことがありますか。

「ある」(7.5%)、「ない」(88.6%)となっています。



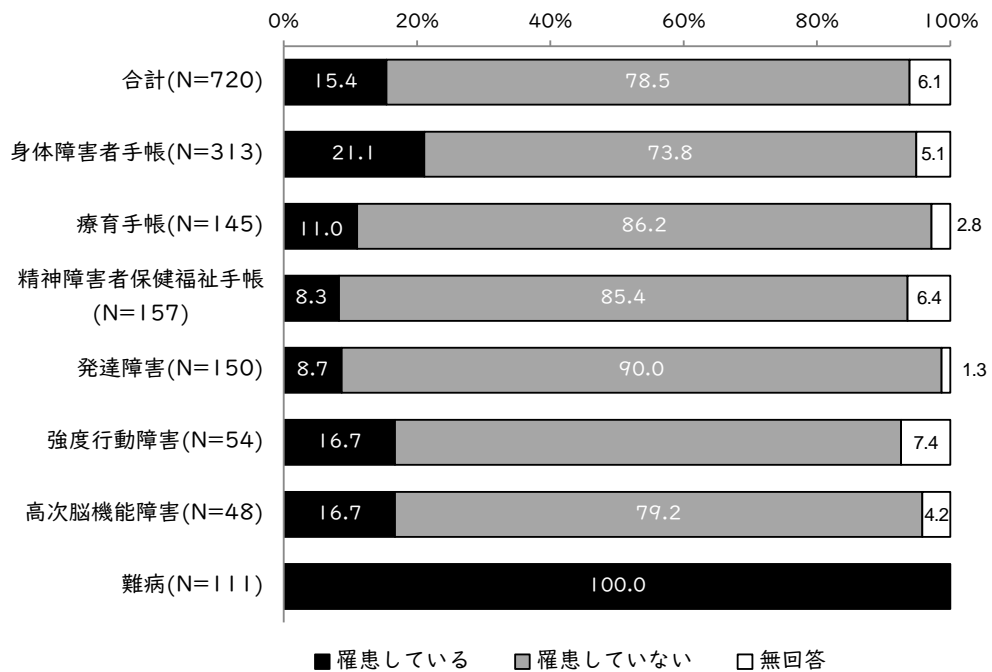
とい
問10 あなたは高次脳機能障害として診断されたことがありますか。

ある」(6.7%)、「ない」(88.9%)となっています。



とい
問11 あなたは難病に罹患していますか。

「ある」(15.4%)、「ない」(78.5%)となっています。



問12 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

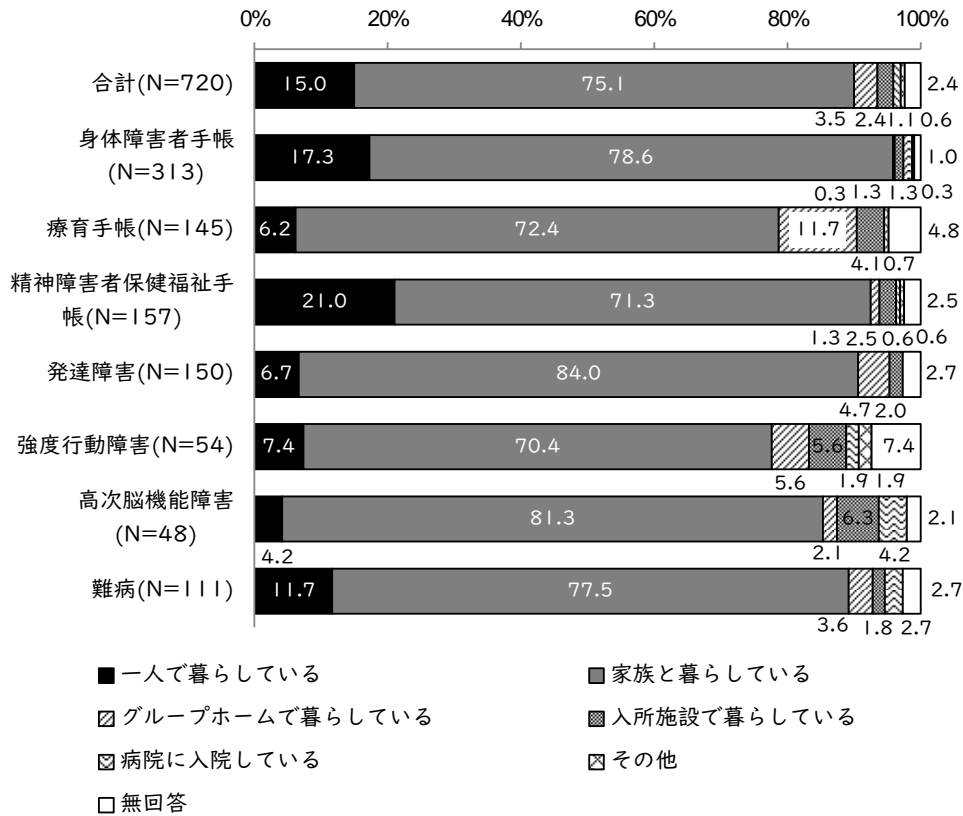
「服薬管理」(23.6%)、「透析」(3.3%)、「胃ろう・腸ろう」(1.9%)、「ストマ(人工肛門・人工膀胱)」(1.9%)、「無回答」(60.3%)となっています。

構成比 (%)	気管切開	人工呼吸器 (レスピレーター)	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養	中心静脈栄養 (I.V.H)	透析	カテーテル留置	ストマ (人工肛門・人工膀胱)	服薬管理	その他	無回答	合計
合計(N=720)	1.0	1.1	1.4	1.7	1.9	0.3	0.1	3.3	1.7	1.9	23.6	9.3	60.3	100.0
身体障害者手帳(N=313)	1.0	1.0	0.6	1.3	2.9	0.0	0.3	7.7	3.8	4.5	20.1	13.4	52.1	100.0
療育手帳(N=145)	0.0	0.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.2	4.1	76.6	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	0.0	0.0	0.6	1.3	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.1	7.6	60.5	100.0
発達障害(N=150)	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	4.0	68.7	100.0
強度行動障害(N=54)	3.7	1.9	5.6	3.7	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	46.3	1.9	53.7	100.0
高次脳機能障害(N=48)	2.1	2.1	2.1	4.2	4.2	2.1	0.0	0.0	2.1	0.0	52.1	10.4	39.6	100.0
難病(N=111)	2.7	2.7	2.7	4.5	6.3	0.9	0.9	3.6	2.7	1.8	40.5	13.5	39.6	100.0

3 すまいや暮らし

問13 あなたは、現在どのように暮らしていますか。

「家族と暮らしている」(75.1%)、「一人で暮らしている」(15.0%)、「グループホームで暮らしている」(3.5%)、「入所施設で暮らしている」(2.4%)、「病院に入院している」(1.1%)となっています。



構成比(%)	一人暮らし	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	入所施設で暮らしている	病院に入院している	その他	無回答	合計
合計(N=720)	15.0	75.1	3.5	2.4	1.1	0.6	2.4	100.0
身体障害者手帳(N=313)	17.3	78.6	0.3	1.3	1.3	0.3	1.0	100.0
療育手帳(N=145)	6.2	72.4	11.7	4.1	0.0	0.7	4.8	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	21.0	71.3	1.3	2.5	0.6	0.6	2.5	100.0
発達障害(N=150)	6.7	84.0	4.7	2.0	0.0	0.0	2.7	100.0
強度行動障害(N=54)	7.4	70.4	5.6	5.6	1.9	1.9	7.4	100.0
高次脳機能障害(N=48)	4.2	81.3	2.1	6.3	4.2	0.0	2.1	100.0
難病(N=111)	11.7	77.5	3.6	1.8	2.7	0.0	2.7	100.0

問13-1 家族の誰と一緒に暮らしていますか。(あてはまるものすべてに○)

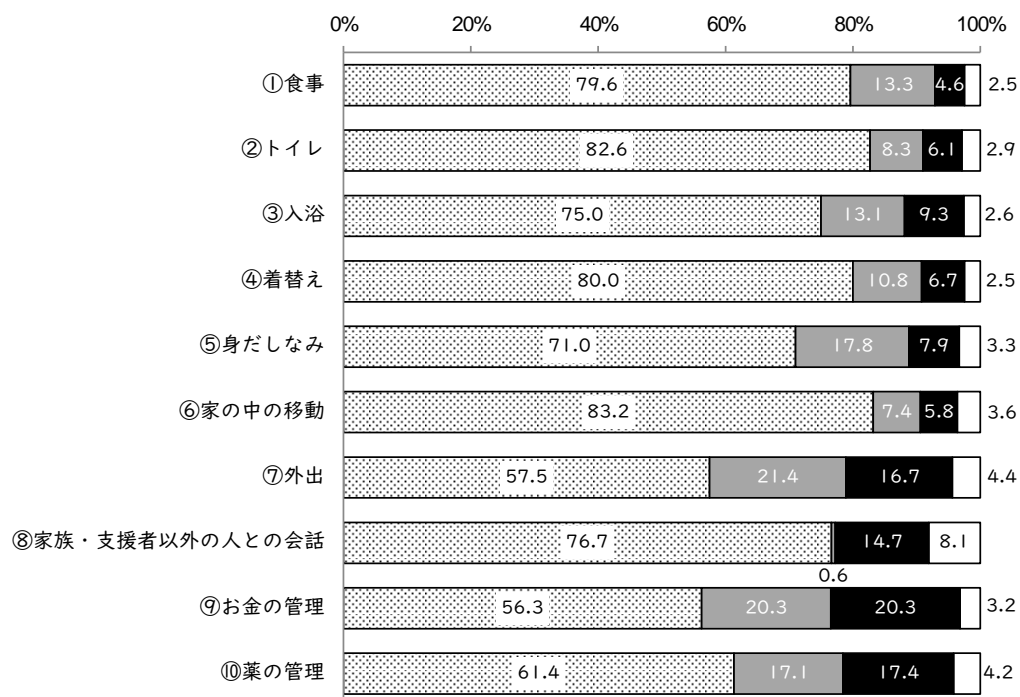
「母(お母さん)」(46.8%)、「配偶者(夫または妻)」(40.9%)、「父(お父さん)」(36.2%)、「子ども」(24.2%)、「兄弟姉妹」(19.8%)となっています。(N=541)

構成比(%)	父(お父さん)	母(お母さん)	祖父母(おじいさん、おばあさん)	兄弟姉妹	配偶者(夫または妻)	子ども	その他	無回答	合計
合計(N=541)	36.2	46.8	3.3	19.8	40.9	24.2	1.1	0.4	100.0
身体障害者手帳(N=246)	13.0	20.3	1.2	6.9	69.1	38.6	0.0	0.8	100.0
療育手帳(N=105)	66.7	82.9	2.9	34.3	4.8	2.9	3.8	0.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=112)	46.4	62.5	6.3	31.3	25.0	19.6	0.0	0.0	100.0
発達障害(N=126)	65.1	79.4	7.1	35.7	12.7	11.9	2.4	0.0	100.0
強度行動障害(N=38)	57.9	73.7	7.9	39.5	18.4	15.8	0.0	0.0	100.0
高次脳機能障害(N=39)	25.6	38.5	0.0	17.9	48.7	25.6	0.0	2.6	100.0
難病(N=86)	33.7	41.9	2.3	15.1	48.8	24.4	0.0	0.0	100.0

問14 日常生活はどのようにしていますか。

「ひとりでする」が7割以上は、①食事、②トイレ、③入浴、④着替え、⑤身だしなみ、⑥家の中の移動、⑧家族・支援者以外の人との会話となっています。

「一部介助が必要」と「全部介助が必要」合わせた『介助が必要』が3割以上は、⑦外出(38.1%)、⑨お金の管理(40.6%)、⑩薬の管理(34.5%)となっています。



□ひとりでする □一部介助が必要 ■全部介助が必要 □無回答

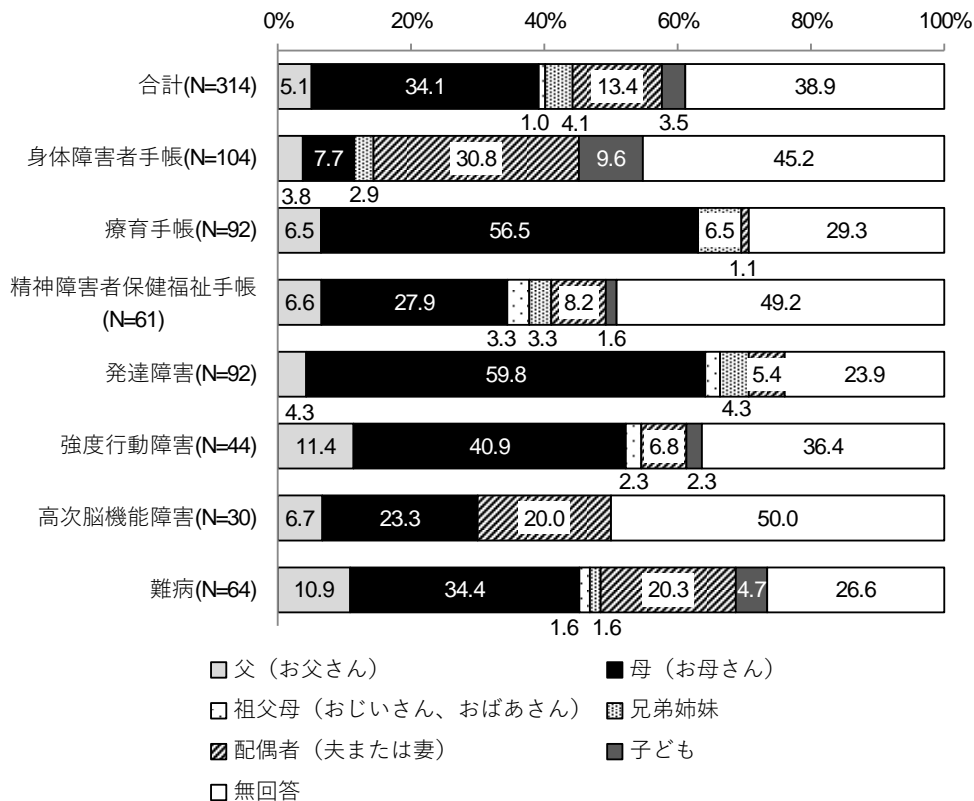
問15 あなたを介助してくれる方は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

「母(お母さん)」(42.6%)、「父(お父さん)」(27.0%)、「配偶者(夫または妻)」(23.0%)、「施設やグループホームの支援員など」(17.1%)、「兄弟姉妹」(14.4%)となっています。

構成比 (%)	父(お父さん)	母(お母さん)	祖父母(おじいさん、おばあさん)	兄弟姉妹	配偶者(夫または妻)	子ども	施設やグループホームの支援員など	ホームヘルパーなどサービス事業所の人	その他	無回答	合計
合計(N=404)	27.0	42.6	2.5	14.4	23.0	8.7	17.1	22.5	4.2	7.4	100.0
身体障害者手帳(N=136)	9.6	14.7	0.0	8.8	47.8	20.6	6.6	30.1	5.9	8.8	100.0
療育手帳(N=119)	42.0	63.9	2.5	21.8	0.8	0.8	36.1	19.3	2.5	5.9	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=78)	24.4	47.4	6.4	10.3	19.2	6.4	6.4	15.4	5.1	6.4	100.0
発達障害(N=105)	41.0	75.2	4.8	23.8	4.8	1.9	19.0	15.2	1.9	4.8	100.0
強度行動障害(N=51)	39.2	68.6	5.9	19.6	11.8	3.9	25.5	19.6	2.0	2.0	100.0
高次脳機能障害(N=36)	25.0	27.8	0.0	11.1	47.2	13.9	16.7	19.4	0.0	8.3	100.0
難病(N=80)	33.8	40.0	2.5	12.5	30.0	10.0	21.3	28.8	6.3	3.8	100.0

問15-1 「1.」～「6.」に複数の○をされた方については、主に介助してくれる方の番号を記入してください。

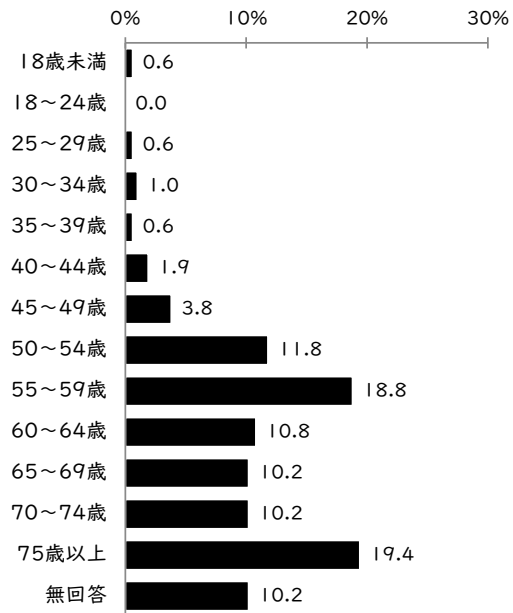
「母(お母さん)」(34.1%)、「配偶者(夫または妻)」(13.4%)となっています。
 身体障害者手帳は「配偶者(夫または妻)」が3割となっています。
 療育手帳では「母(お母さん)」が6割となっています。



問16① あなたを介助してくれる家族で、主に介助をしてくれる方の年齢
 (令和5年7月1日現在) 満年齢

「75歳以上」(19.4%)、「55～59歳」(18.8%)となっています。

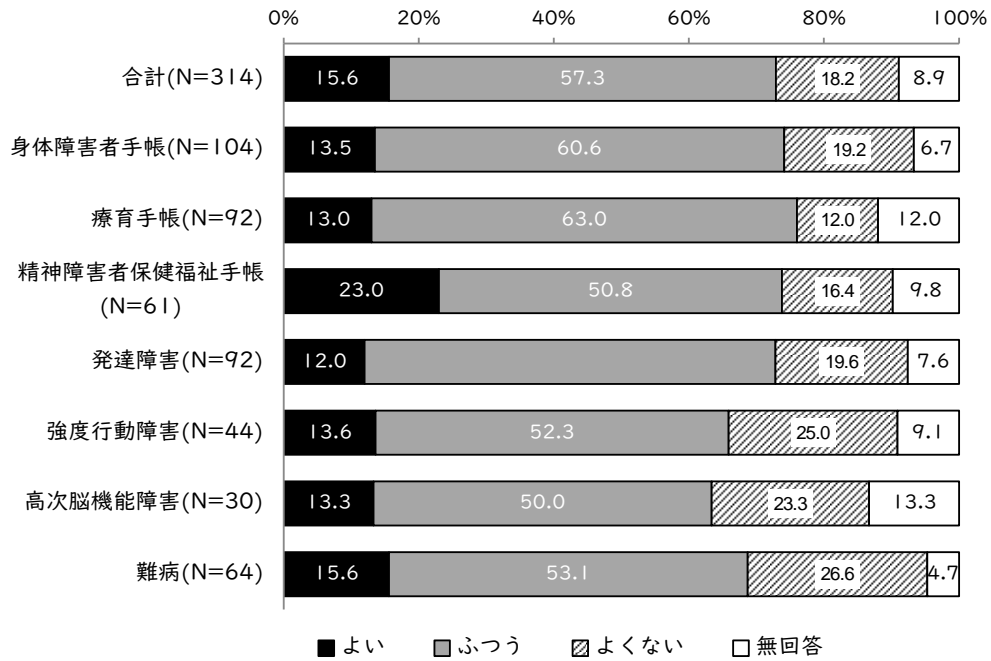
「18歳未満」(0.6%)は低いですが、ヤングケアラーの存在がみられます。



構成比 (%)	18歳未満	18～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	合計
合計(N=314)	0.6	0.0	0.6	1.0	0.6	1.9	3.8	11.8	18.8	10.8	10.2	10.2	19.4	10.2	100.0
身体障害者手帳(N=104)	1.0	0.0	1.9	1.0	1.9	3.8	1.9	8.7	14.4	8.7	11.5	10.6	26.0	8.7	100.0
療育手帳(N=92)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	1.1	4.3	6.5	28.3	14.1	12.0	8.7	10.9	13.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=61)	1.6	0.0	0.0	1.6	0.0	1.6	9.8	21.3	13.1	8.2	9.8	6.6	16.4	9.8	100.0
発達障害(N=92)	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	4.3	21.7	29.3	13.0	7.6	9.8	6.5	6.5	100.0
強度行動障害(N=44)	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	15.9	22.7	9.1	6.8	9.1	18.2	11.4	100.0
高次脳機能障害(N=30)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	10.0	10.0	16.7	10.0	23.3	16.7	100.0
難病(N=64)	0.0	0.0	0.0	1.6	3.1	1.6	1.6	9.4	18.8	12.5	12.5	7.8	26.6	4.7	100.0

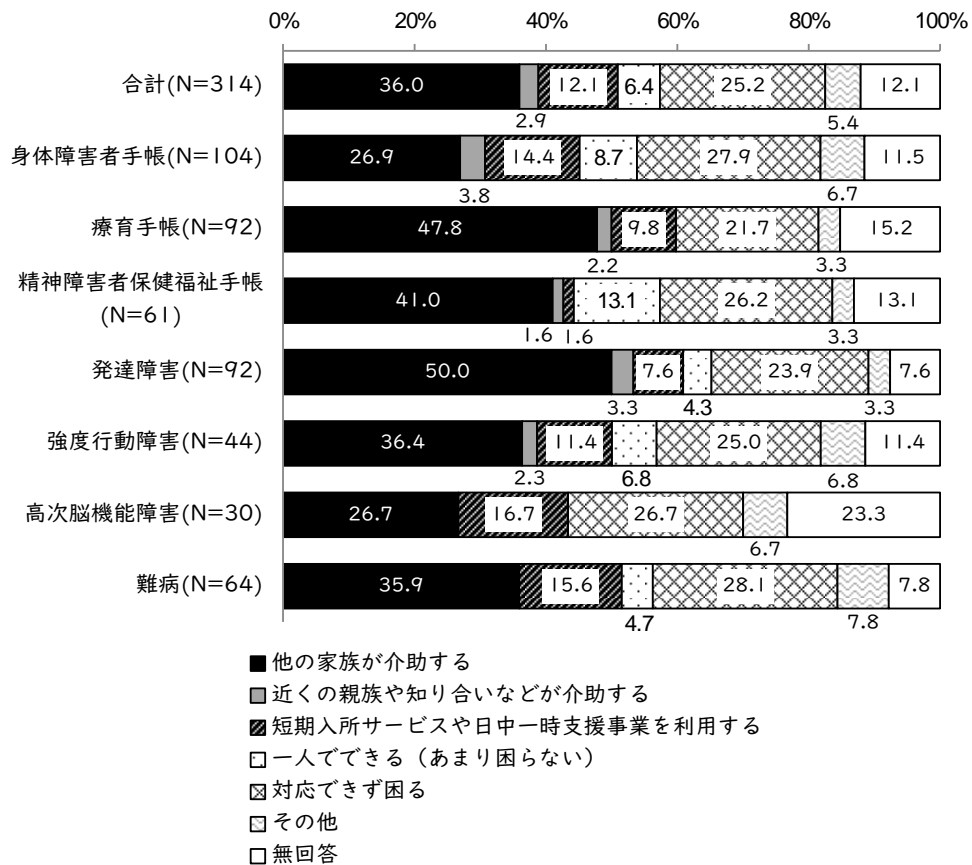
とい
問16② おも かいじょ 主に介助をしている家族の健康状態 かぞく けんこうじょうたい

「よい」(15.6%)と「ふつう」(57.3%)を合わせて7割で、「よくない」(18.2%)は2割となっています。



問16③ 主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった場合の対応についてどのようにされますか。

「他の家族が介助する」(36.0%)、「対応できず困る」(25.2%)、「短期入所サービスや日中一時支援事業を利用する」(12.1%)となっています。



- 他の家族が介助する
- ▣ 近くの親族や知り合いなどが介助する
- ▨ 短期入所サービスや日中一時支援事業を利用する
- 一人でできる (あまり困らない)
- ▩ 対応できず困る
- その他
- 無回答

問16④ 介助を受けていて困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

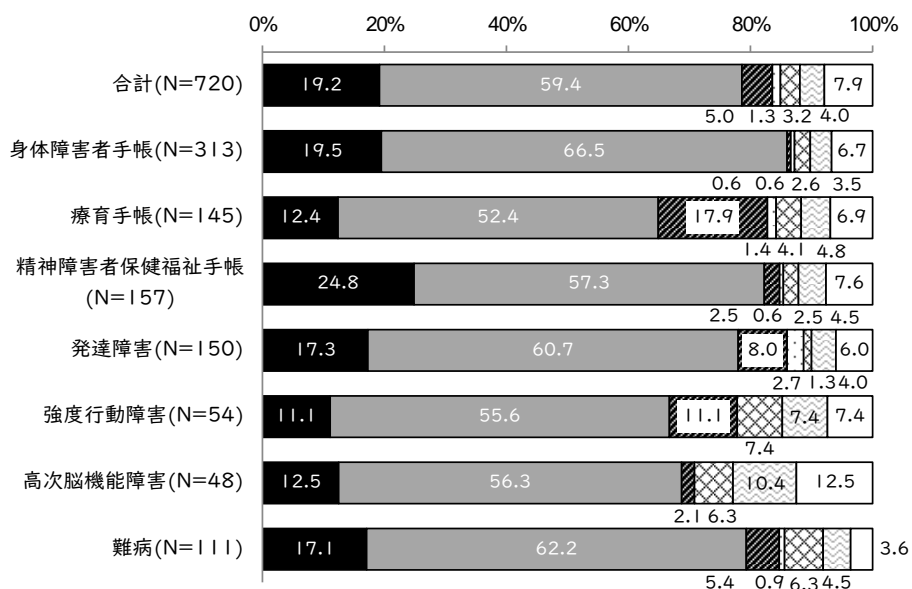
「精神的負担が大きい」(15.8%)、「経済的負担が大きい」(14.6%)、「介助者が少ない」(14.6%)となっています。

強度行動障害では、「精神的負担が大きい」(33.3%)、「介助者が少ない」(27.5%)、高次脳機能障害では、「経済的負担が大きい」(33.3%)、「精神的負担が大きい」(27.8%)となっています。

構成比 (%)	精神的負担が大きい	経済的負担が大きい	身体的負担が大きい	介助者が少ない	望まない異性による介助がある	その他	無回答	合計
合計(N=404)	15.8	14.6	7.2	14.6	0.5	7.2	59.9	100.0
身体障害者手帳(N=136)	16.9	19.9	11.8	16.9	0.0	6.6	54.4	100.0
療育手帳(N=119)	10.1	8.4	3.4	12.6	0.0	7.6	68.9	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=78)	21.8	10.3	5.1	7.7	0.0	5.1	62.8	100.0
発達障害(N=105)	19.0	13.3	6.7	15.2	1.0	8.6	57.1	100.0
強度行動障害(N=51)	33.3	17.6	15.7	27.5	2.0	9.8	37.3	100.0
高次脳機能障害(N=36)	27.8	33.3	13.9	16.7	2.8	8.3	50.0	100.0
難病(N=80)	16.3	15.0	13.8	23.8	1.3	6.3	52.5	100.0

問17 あなたは今後3年以内にどのように暮らしたいと思いますか。

「家族と一緒に暮らしたい」(59.4%)、「一人で暮らしたい」(19.2%)、「グループホームで暮らしたい」(5.0%)となっています。



- 一人で暮らしたい
- ▨ グループホームで暮らしたい
- ▩ 入所施設で暮らしたい
- 無回答
- 家族と一緒に暮らしたい
- ▨ グループホームに入ったのちに一人暮らし
- ▩ その他

問18 通院時や医療を受けるにあたって困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「公共交通機関(バス・電車等)を利用することが困難」(26.1%)、「医者や看護師とのコミュニケーション」(19.2%)、「支援者を見つけることが困難」(10.8%)となっています。

構成比 (%)	公共交通機関(バス・電車等)を利用することが困難	支援者を見つけることが困難	医者や看護師とのコミュニケーション	感染症に感染することが不安なため通院ができなくなった	その他	無回答	合計
合計(N=720)	26.1	10.8	19.7	2.5	14.6	44.4	100.0
身体障害者手帳(N=313)	28.4	7.3	10.2	2.2	15.7	48.9	100.0
療育手帳(N=145)	20.7	17.2	41.4	2.1	8.3	40.7	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	24.8	7.6	17.2	3.2	18.5	44.6	100.0
発達障害(N=150)	24.0	17.3	41.3	2.0	11.3	32.7	100.0
強度行動障害(N=54)	38.9	20.4	37.0	7.4	18.5	18.5	100.0
高次脳機能障害(N=48)	35.4	8.3	27.1	4.2	10.4	37.5	100.0
難病(N=111)	36.0	16.2	12.6	4.5	23.4	32.4	100.0

問19 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

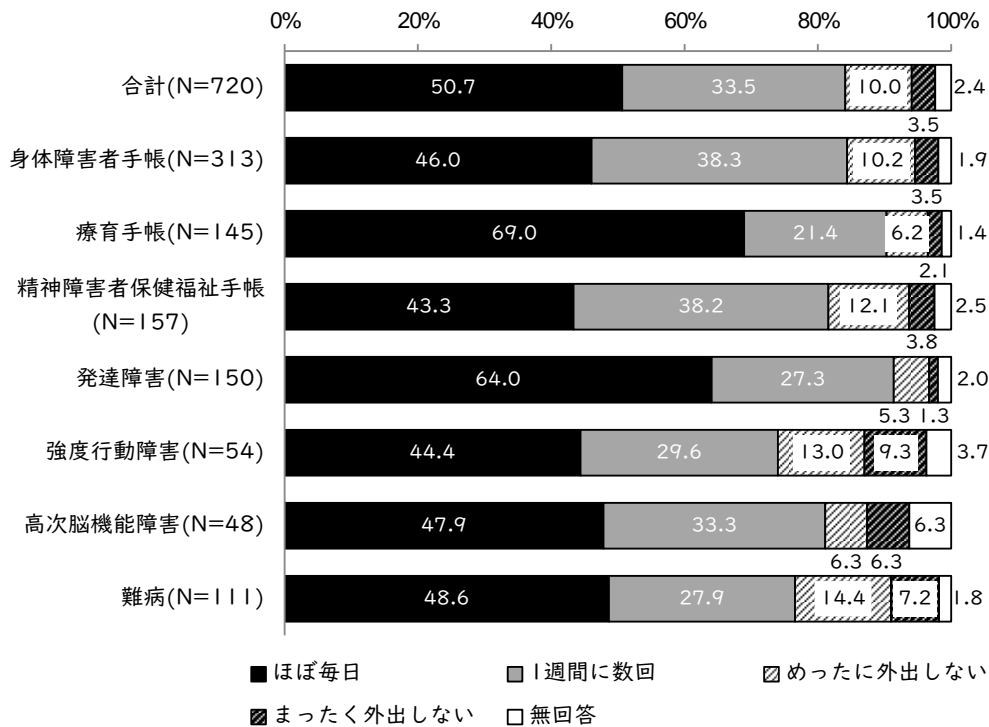
「経済的な負担の軽減」(48.6%)、「相談対応等の充実」(32.6%)、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(27.9%)、「障害者に適した住居の確保」(26.4%)、となっています。

構成比 (%)	在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること	障害者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	自立生活(一人暮らし、結婚生活等)が体験できる場の確保	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実	地域住民等の理解	情報の取得利用や意思疎通についての支援	その他	無回答	合計
合計(N=720)	20.8	26.4	27.9	17.5	48.6	32.6	20.6	24.3	6.1	19.7	100.0
身体障害者手帳(N=313)	22.7	20.8	28.4	7.7	49.5	22.7	11.8	16.0	6.1	22.4	100.0
療育手帳(N=145)	16.6	37.9	31.0	29.7	38.6	40.0	37.2	37.9	4.1	14.5	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	18.5	28.0	20.4	25.5	59.2	42.7	22.9	27.4	8.9	17.2	100.0
発達障害(N=150)	13.3	37.3	30.0	32.7	54.7	44.7	32.0	38.0	6.0	9.3	100.0
強度行動障害(N=54)	25.9	38.9	48.1	29.6	64.8	48.1	42.6	33.3	9.3	7.4	100.0
高次脳機能障害(N=48)	29.2	27.1	33.3	14.6	52.1	41.7	27.1	31.3	6.3	14.6	100.0
難病(N=111)	35.1	30.6	39.6	20.7	47.7	32.4	15.3	27.0	8.1	13.5	100.0

4 日中活動や就労

問20 あなたは1週間にどの程度の外出をしますか。

「ほぼ毎日」(50.7%)、「1週間に数回」(33.5%)、「めったに外出しない」(10.0%)、「まったく外出しない」(3.5%)となっています。



問21 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

「買い物に行く」(61.0%)、「医療機関への受診」(53.1%)、「通園・通所・通学・通勤」(46.1%)、となっています。

構成比 (%)	通園・通所・通学・通勤	訓練やリハビリに行く	医療機関への受診	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	グループ活動に参加する	散歩に行く	その他	無回答	合計
合計(N=720)	46.1	11.7	53.1	61.0	13.3	17.8	6.4	23.8	6.4	3.3	100.0
身体障害者手帳(N=313)	34.8	15.3	59.1	62.6	16.6	16.0	5.8	22.4	6.7	2.9	100.0
療育手帳(N=145)	75.2	3.4	35.2	57.2	10.3	21.4	10.3	25.5	7.6	0.7	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	38.9	10.2	61.8	63.1	13.4	22.9	4.5	29.9	5.1	3.8	100.0
発達障害(N=150)	67.3	6.7	50.0	58.7	12.7	20.0	8.0	22.0	7.3	1.3	100.0
強度行動障害(N=54)	50.0	5.6	55.6	50.0	9.3	5.6	7.4	16.7	13.0	5.6	100.0
高次脳機能障害(N=48)	39.6	27.1	62.5	45.8	8.3	10.4	2.1	16.7	2.1	8.3	100.0
難病(N=111)	45.9	11.7	64.0	55.0	13.5	16.2	4.5	16.2	6.3	3.6	100.0

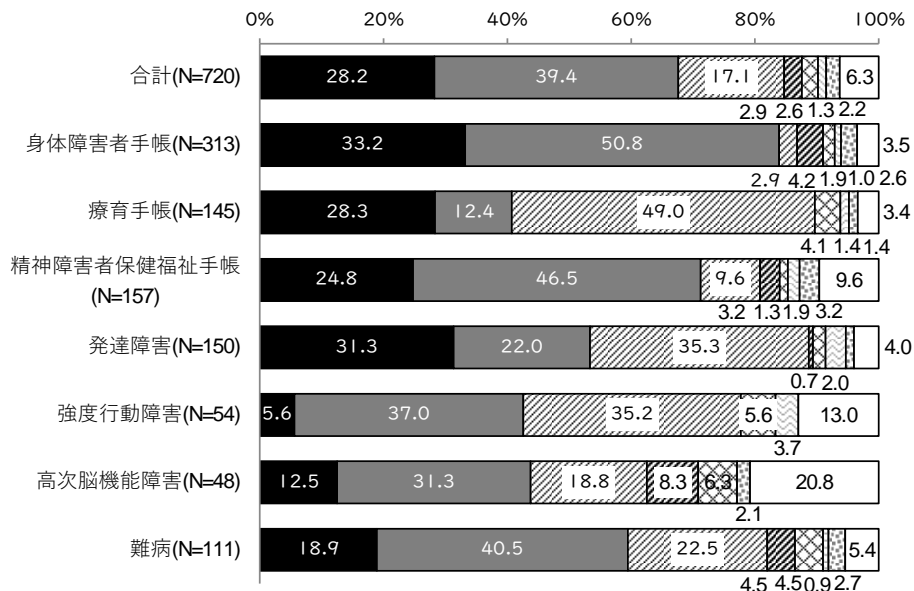
問2 2 外出について困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「困った時にどうすればいいのか心配」(26.1%)、「休憩できる場所が少ない」(22.6%)、「道路や駅に階段や段差が多い」(18.3%)、「列車やバスの乗り降りが困難」(16.4%)、「外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーター等)」(15.8%)となっています。

構成比 (%)	公共交通機関が少ない(ない)	列車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーター等)	介助者が確保できない	外出にお金がかかる(ヘルパーの利用料など)	周囲の目や気にならな	発作等突然の身体の変化が心配	困った時にどうすればいいのか心配	休憩できる場所が少ない	その他	無回答	合計
合計(N=720)	10.4	16.4	18.3	13.8	15.8	10.7	12.2	12.6	14.0	26.1	22.6	12.9	27.8	100.0
身体障害者手帳(N=313)	11.2	22.0	25.9	8.6	22.7	10.5	10.9	6.4	8.0	14.1	22.4	14.7	26.8	100.0
療育手帳(N=145)	6.9	9.0	8.3	28.3	11.0	17.2	11.7	15.2	13.1	46.2	14.5	10.3	26.9	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	9.6	10.2	10.8	8.3	3.8	2.5	14.6	21.0	23.6	27.4	28.0	15.9	29.3	100.0
発達障害(N=150)	6.0	10.0	6.7	17.3	10.0	14.0	14.0	24.0	18.0	46.0	22.7	14.7	22.7	100.0
強度行動障害(N=54)	11.1	25.9	11.1	35.2	14.8	27.8	24.1	24.1	29.6	46.3	29.6	13.0	13.0	100.0
高次脳機能障害(N=48)	25.0	20.8	22.9	12.5	25.0	18.8	22.9	20.8	14.6	20.8	14.6	6.3	22.9	100.0
難病(N=111)	13.5	21.6	27.9	13.5	22.5	20.7	9.9	9.0	19.8	24.3	27.0	12.6	17.1	100.0

問2 3 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。

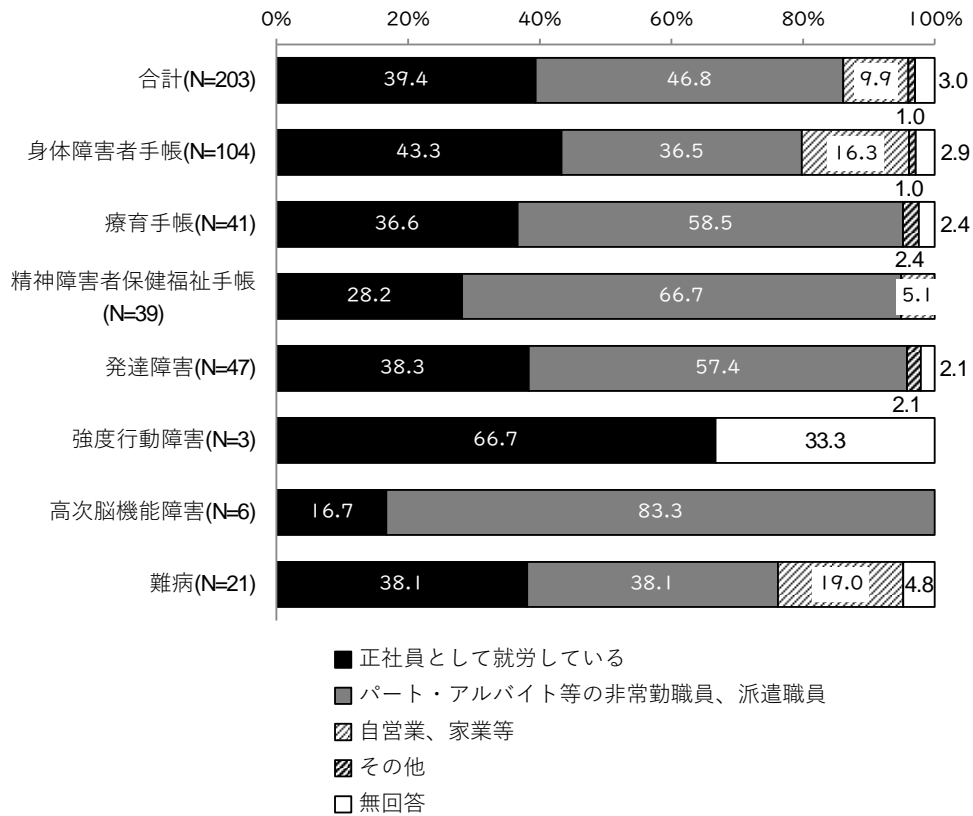
「自宅で過ごしている」(39.4%)、「会社勤めや、自営業、家業等で収入を得る仕事をしている」(28.2%)、「福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援A型を含む)」(17.1%)となっています。



- 会社勤めや、自営業、家業等で収入を得る仕事をしている
- 自宅で過ごしている
- ▨ 福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援A型を含む)
- ▨ 病院などのデイケア、リハビリテーションを受けている
- ▨ 入所している施設や病院等で過ごしている
- 大学、専門学校、職業訓練校等に通っている
- ▨ その他
- 無回答

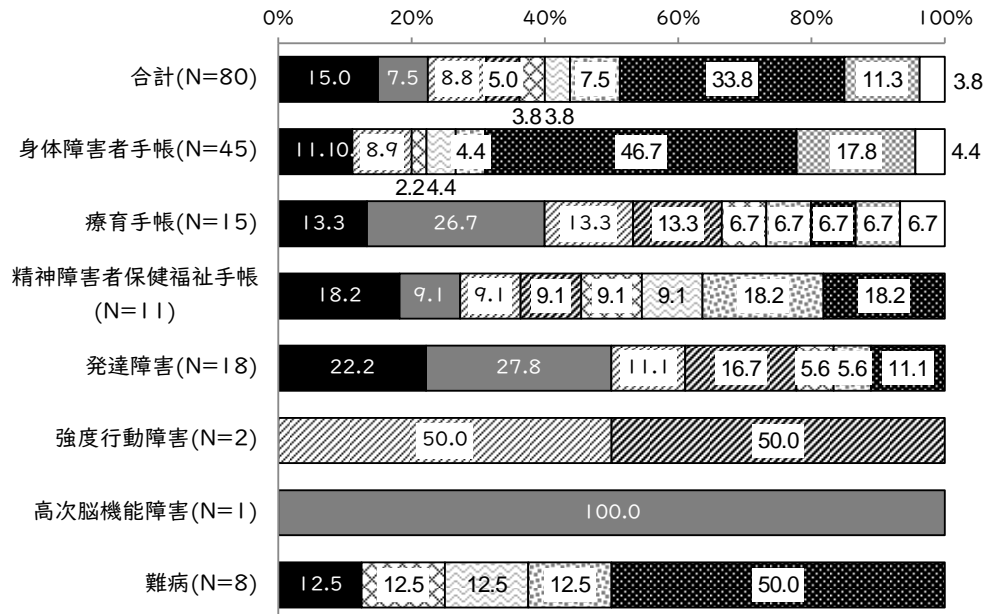
問23-1 どのような勤務形態で働いていますか。

正社員として就労している(39.4%)、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」(46.8%)、「自営業、家業等」(9.9%)となっています。



問23-2 あなたは今の仕事をどちらを通じて見つめましたか。

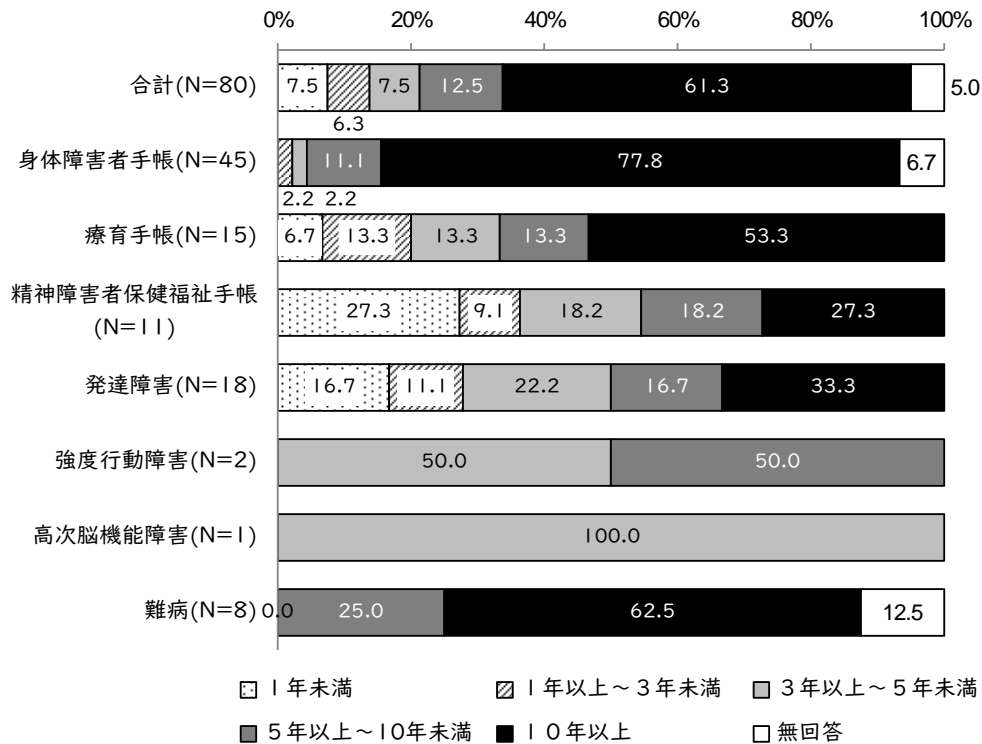
「自分自身で見つけた（インターネットなど）」(33.8%)、「ハローワーク（公共職業安定所）」(15.0%)となっています。



- ハローワーク（公共職業安定所）
- 障害者就業・生活支援センター
- ▨ 学校
- ▨ 職業訓練を受けたところ
- ▨ 施設・障害福祉サービス事業所
- ▨ 知人からの情報
- ▨ 家族からの情報
- ▨ 自分自身で見つけた（インターネットなど）
- ▨ その他
- 無回答

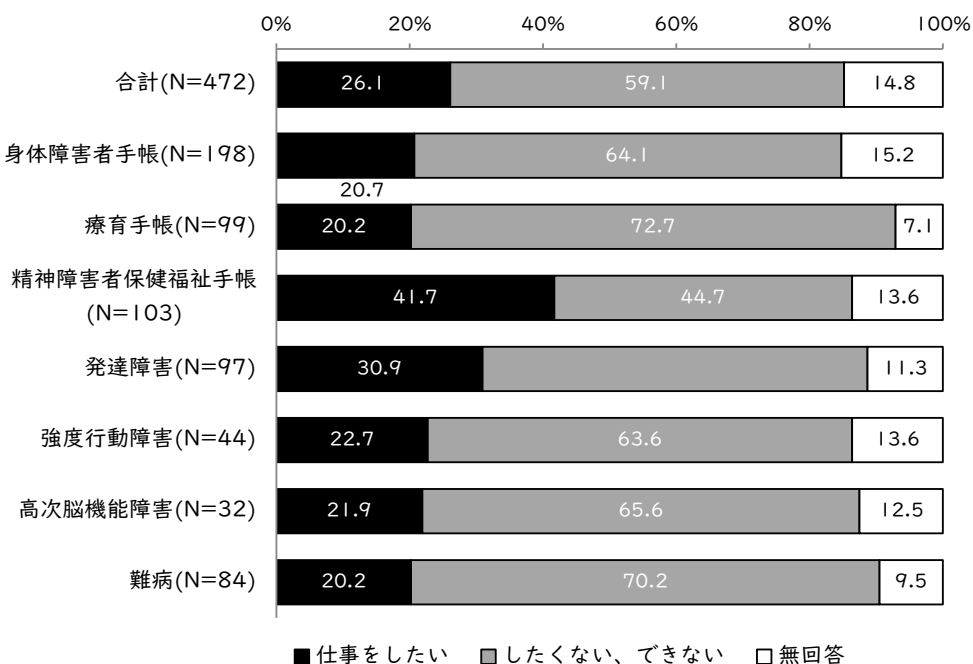
と
問23-3 あなたは今の仕事を始めて何年ですか。

「10年以上」(61.3%)、「5年以上～10年未満」(12.5%)、「3年以上～5年未満」(7.5%) となっています。



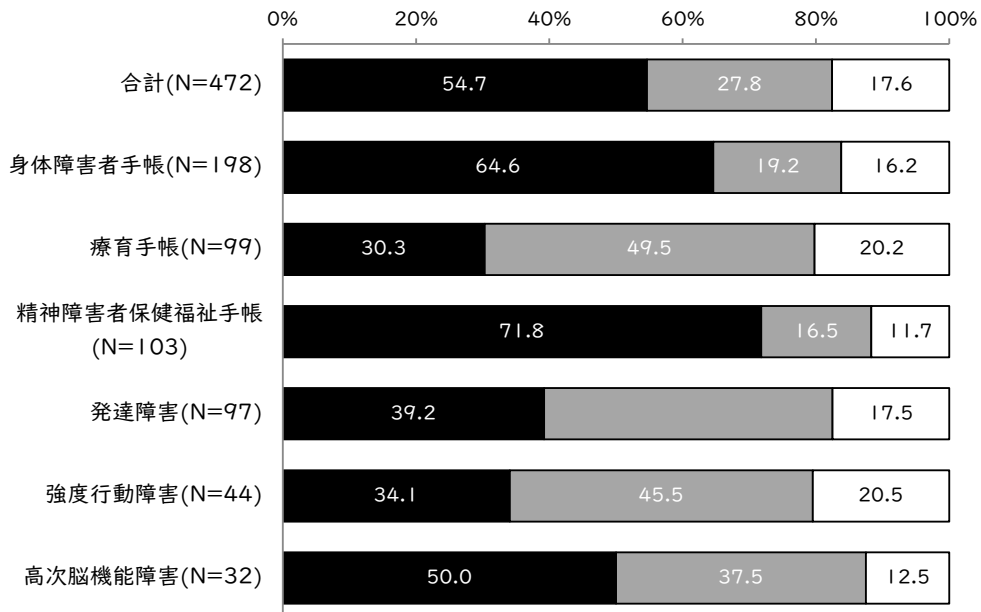
と
問24 あなたは今後、一般就労（収入を得る仕事）をしたいと思いませんか。

「したくない、できない」(59.1%)、「仕事をしたい」(26.1%) となっています。



問25 今までに収入を得る仕事をしたことはありますか。

「仕事をしたことがある」(54.7%)、「仕事をしたことがない」(27.8%)となっています。



■ 仕事をしたことがある □ 仕事をしたことがない □ 無回答

問26 仕事を辞められた主な理由について、お聞きします。(あてはまるものすべてに○)

「体調悪化により仕事を続けることが難しくなったため」(38.8%)、「職場の人間関係が原因で辞めた」(19.0%)となっています。

障害別みると、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、発達障害強度行動障害では「職場の人間関係が原因で辞めた」が30%以上となっています。強度行動障害では「障害に対する周囲の理解や配慮が得られなかったため」(33.3%)と他より高くなっています。

構成比 (%)	仕事の契約期間が終了した	職場の人間関係が原因で辞めた	仕事が合わなかったため	作業内容や勤務場所が変わったため	仕事を続けることができたが、自分や家庭の事情で辞めた	会社の都合で辞めさせられた	障害に対する周囲の理解や配慮が得られなかったため	通勤や仕事移動が大幅に変わったため	コロナウイルス感染症関係で退職	体調悪化により仕事を続けることが難しくなったため	その他	無回答	合計
合計(N=258)	12.4	19.0	13.2	3.5	12.4	7.4	13.6	8.1	0.8	38.8	19.8	3.5	100.0
身体障害者手帳(N=128)	16.4	2.3	3.9	3.1	16.4	2.3	6.3	9.4	0.8	32.8	22.7	3.1	100.0
療育手帳(N=30)	6.7	33.3	20.0	0.0	6.7	16.7	26.7	0.0	0.0	23.3	16.7	6.7	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=74)	6.8	36.5	25.7	2.7	5.4	12.2	20.3	5.4	0.0	62.2	14.9	2.7	100.0
発達障害(N=38)	5.3	42.1	34.2	5.3	5.3	15.8	28.9	5.3	0.0	34.2	26.3	5.3	100.0
強度行動障害(N=15)	0.0	33.3	26.7	6.7	6.7	6.7	33.3	6.7	0.0	46.7	26.7	6.7	100.0
高次脳機能障害(N=16)	0.0	12.5	25.0	6.3	18.8	6.3	25.0	6.3	0.0	25.0	37.5	0.0	100.0
難病(N=45)	13.3	4.4	4.4	4.4	6.7	4.4	11.1	13.3	0.0	44.4	17.8	8.9	100.0

※黄色マーカーは30%以上

問27 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思
いますか。(あてはまるものすべてに○)

「職場の上司や同僚に障害の理解があること」(52.4%)、「短時間勤務や勤務
日数等の配慮」(39.0%)となっています。

構成比 (%)	通勤手段 の確保	勤務場所 における バリアフ リー等の 配慮	短時間勤 務や勤務 日数等の 配慮	在宅勤務 の拡充	介助者 (ヘル パー等) の利用	職場の上 司や同僚 に障害の 理解があ ること	職場の職 員による 介助や援 助等が受 けられる こと	就労後の フォロー など職場 と支援機 関の連携 (ジョブ コーチな ど)	企業ニー ズに合っ た就労訓 練(能力 向上のた めの取組 み)	仕事につ いての職 場外での 相談対 応、支援	家族の協 力	その他	無回答	合計
合計(N=720)	28.3	21.0	39.0	25.7	18.1	52.4	23.2	27.9	22.1	26.7	28.5	5.3	21.7	100.0
身体障害者手帳(N=313)	31.0	28.8	36.4	28.1	17.9	45.7	17.9	17.3	16.9	15.7	26.2	3.8	24.0	100.0
療育手帳(N=145)	29.7	14.5	35.2	16.6	24.1	63.4	35.2	44.1	32.4	38.6	31.0	5.5	15.2	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	24.8	16.6	53.5	35.0	13.4	61.8	22.9	35.0	26.1	38.2	33.1	8.3	17.8	100.0
発達障害(N=150)	26.0	13.3	38.0	24.0	15.3	62.0	28.0	42.0	34.0	42.0	31.3	6.7	14.0	100.0
強度行動障害(N=54)	33.3	16.7	44.4	33.3	35.2	48.1	31.5	44.4	25.9	38.9	31.5	9.3	16.7	100.0
高次脳機能障害(N=48)	31.3	29.2	41.7	22.9	27.1	54.2	29.2	31.3	25.0	25.0	25.0	8.3	18.8	100.0
難病(N=111)	36.9	31.5	45.9	36.9	32.4	55.0	30.6	32.4	26.1	23.4	34.2	2.7	14.4	100.0

※黄色マーカーは30%以上

問28 あなたが余暇にしたい活動をするために何が必要ですか。(あてはま
るものすべてに○)

「いつでも気軽に立ち寄り、仲間達と過ごすことのできる場所」(27.6%)、「介助者
や支援者の付き添い」(20.4%)、「見に行きたいと思うスポーツや芸術文化イベン
トの開催」(20.0%)、「特にない」(30.1%)となっています。

構成比 (%)	スポーツ や趣味の 講習会	より高い 資格・能 力を身に つけるた めの講 座・教室	活動を応 援するボ ランティア の養成	いつでも 気軽に立 ち寄り、 仲間達と 過ごすこ とのでき る場所	スポーツ 大会や文 化祭など 練習の成 果を発表 する場所	見に行き たいと思 うスポー ツや芸術 文化イベ ントの開 催	介助者や 支援者の 付き添い	交通機関 や公共施 設の改善	イベント などの情 報が簡単 にわかる 仕組み	手話通訳 などのコ ミュニ ケーション の支援	特にない	その他	無回答	合計
合計(N=720)	11.4	11.5	9.0	27.6	5.6	20.0	20.4	17.4	15.4	2.4	30.1	6.1	11.0	100.0
身体障害者手帳(N=313)	11.8	12.5	6.7	21.1	3.5	18.5	14.4	17.9	8.6	2.6	32.9	4.5	14.4	100.0
療育手帳(N=145)	9.7	6.9	14.5	35.9	9.7	21.4	40.0	13.8	25.5	4.1	22.1	6.2	7.6	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	12.1	15.3	5.7	31.2	5.1	24.2	10.8	20.4	19.1	1.3	29.3	10.8	6.4	100.0
発達障害(N=150)	10.0	13.3	14.0	33.3	5.3	22.0	26.0	18.0	19.3	2.0	26.7	10.7	4.7	100.0
強度行動障害(N=54)	1.9	1.9	20.4	29.6	1.9	16.7	46.3	13.0	13.0	0.0	22.2	11.1	11.1	100.0
高次脳機能障害(N=48)	8.3	14.6	10.4	27.1	8.3	20.8	22.9	14.6	8.3	2.1	25.0	8.3	14.6	100.0
難病(N=111)	11.7	12.6	18.0	31.5	7.2	18.9	30.6	22.5	17.1	2.7	27.9	7.2	8.1	100.0

問29 あなたが健康のために取り組んでいる活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

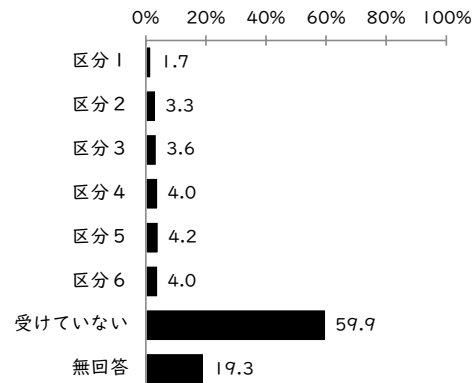
「できるだけ体を動かす機会を増やしている」(37.2%)、「定期的に健康診断を受けている」(31.5%)、「特に何もしていない」(33.8%)となっています。

構成比 (%)	定期的にスポーツをする	できるだけ体を動かす機会を増やしている	定期的に健康診断を受けている	特に何もしていない	その他	無回答	合計
合計(N=720)	8.1	37.2	31.5	33.8	8.3	5.8	100.0
身体障害者手帳(N=313)	11.2	41.5	31.3	30.7	7.3	6.1	100.0
療育手帳(N=145)	5.5	36.6	39.3	31.0	5.5	4.1	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	4.5	37.6	31.2	35.7	12.1	3.2	100.0
発達障害(N=150)	5.3	38.0	28.7	40.0	6.7	2.0	100.0
強度行動障害(N=54)	1.9	18.5	35.2	46.3	7.4	7.4	100.0
高次脳機能障害(N=48)	6.3	31.3	20.8	33.3	10.4	12.5	100.0
難病(N=111)	14.4	41.4	31.5	32.4	10.8	6.3	100.0

5 障害福祉サービス等の利用

問30 あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。

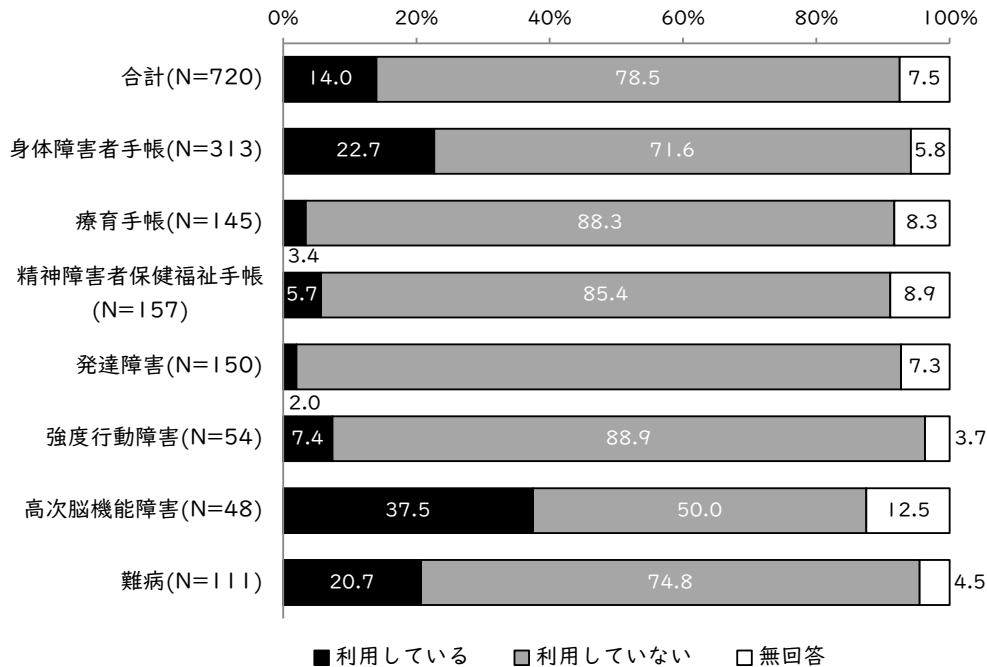
「区分1」(1.7%)、「区分2」(3.3%)、「区分3」(3.6%)、「区分4」(4.0%)、「区分5」(4.2%)、「区分6」(4.0%)を合わせた『受けている』は20.8%、「受けていない」は59.9%となっています。



構成比 (%)	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	受けていない	無回答	合計
合計(N=720)	1.7	3.3	3.6	4.0	4.2	4.0	59.9	19.3	100.0
身体障害者手帳(N=313)	1.9	0.6	1.0	2.6	1.3	2.2	70.0	20.4	100.0
療育手帳(N=145)	2.1	6.9	5.5	11.0	13.8	5.5	37.9	17.2	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	0.6	2.5	3.2	0.6	3.2	0.6	71.3	17.8	100.0
発達障害(N=150)	1.3	6.7	5.3	6.7	8.0	5.3	52.7	14.0	100.0
強度行動障害(N=54)	1.9	5.6	13.0	7.4	13.0	13.0	27.8	18.5	100.0
高次脳機能障害(N=48)	2.1	4.2	2.1	0.0	2.1	6.3	50.0	33.3	100.0
難病(N=111)	2.7	0.0	7.2	4.5	6.3	9.9	52.3	17.1	100.0

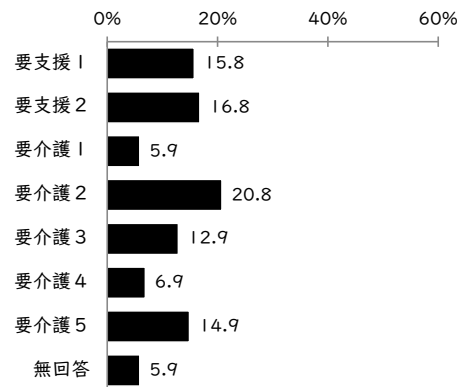
問3-1 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。

「利用している」(14.0%)、「利用していない」(78.5%)となっています。



問3-1-1 該当する要介護度はどれですか。

「要支援1」(15.8%)、「要支援2」(16.8%)、「要介護1」(5.9%)、「要介護2」(20.8%)、「要介護3」(12.9%)、「要介護4」(6.9%)、「要介護5」(14.9%)となっています。

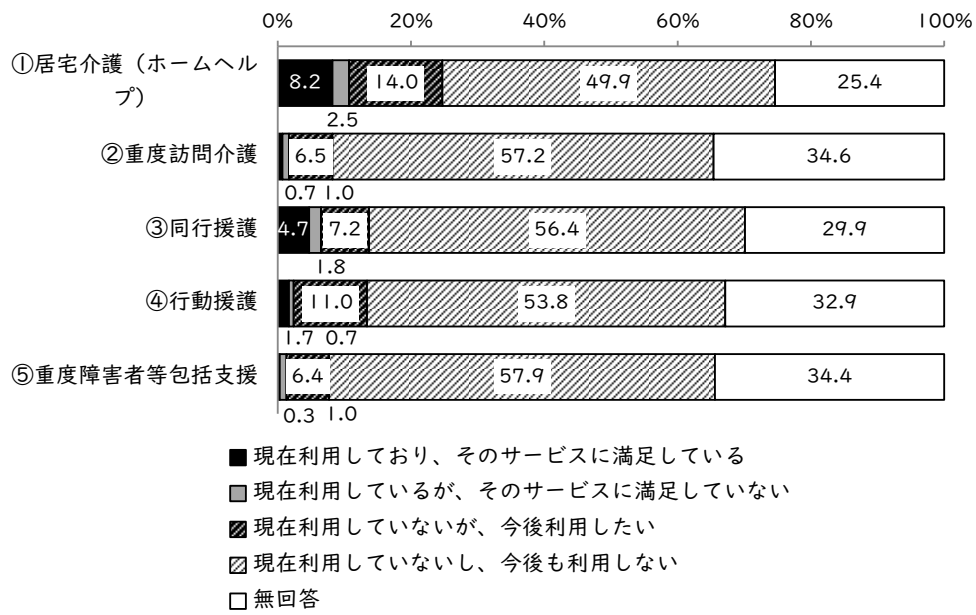


構成比 (%)	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答	合計
合計(N=101)	15.8	16.8	5.9	20.8	12.9	6.9	14.9	5.9	100.0
身体障害者手帳(N=71)	14.1	18.3	4.2	23.9	11.3	9.9	16.9	1.4	100.0
療育手帳(N=5)	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=9)	0.0	11.1	22.2	0.0	22.2	0.0	11.1	33.3	100.0
発達障害(N=3)	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	100.0
強度行動障害(N=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	25.0	0.0	100.0
高次脳機能障害(N=18)	0.0	0.0	11.1	27.8	16.7	22.2	22.2	0.0	100.0
難病(N=23)	8.7	13.0	0.0	17.4	26.1	8.7	21.7	4.3	100.0

問3 2 利用の評価・意向<訪問系サービス>

- ① 居宅介護（ホームヘルプ）は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（8.2%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（2.5%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（14.0%）、「現在利用していないし、今後もしない」（49.9%）となっています。
- ② 重度訪問介護は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（0.7%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（1.0%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（6.5%）、「現在利用していないし、今後もしない」（57.2%）となっています。
- ③ 同行援護は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（4.7%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（1.8%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（7.2%）、「現在利用していないし、今後もしない」（56.4%）となっています。
- ④ 行動援護は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（4.7%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（1.8%）、「現在利用していないが、今後利用したい」、「現在利用していないし、今後もしない」（56.4%）となっています。

- ⑤ 重度障害者等包括支援は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(0.3%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(1.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(6.4%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(57.9%)となっています。



問3 2-1 《訪問系サービス》を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

《訪問系サービス》を利用していない理由は、「利用しなくてもあなた自身のこと
はあなた自身ができるから」(56.3%)、「利用しなくても家族の介助があるから」
(37.7%)、「どんなサービスか知らないから」(22.1%)となっています。

構成比 (%)	利用しなくてもあなた自身のこと はあなた自身ができるから	利用しなくても家族の介助 があるから	どんなサービスか知らないから	利用したくても、引き受けてくれる 事業所が見つからないから	利用したくても費用負担が 大きいから	医療的ケアに対応できない と言われたから	その他	無回答	合計
合計(N=512)	56.3	37.7	22.1	4.5	8.4	1.8	8.8	4.7	100.0
身体障害者手帳(N=228)	67.5	28.9	18.0	2.2	10.1	2.2	6.1	3.1	100.0
療育手帳(N=98)	39.8	56.1	17.3	6.1	3.1	0.0	12.2	6.1	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=124)	57.3	38.7	28.2	5.6	10.5	0.8	8.9	5.6	100.0
発達障害(N=118)	44.1	53.4	30.5	5.9	6.8	2.5	9.3	5.1	100.0
強度行動障害(N=37)	29.7	56.8	43.2	8.1	13.5	5.4	13.5	2.7	100.0
高次脳機能障害(N=30)	36.7	53.3	33.3	6.7	16.7	3.3	6.7	6.7	100.0
難病(N=82)	41.5	51.2	19.5	6.1	9.8	8.5	4.9	3.7	100.0

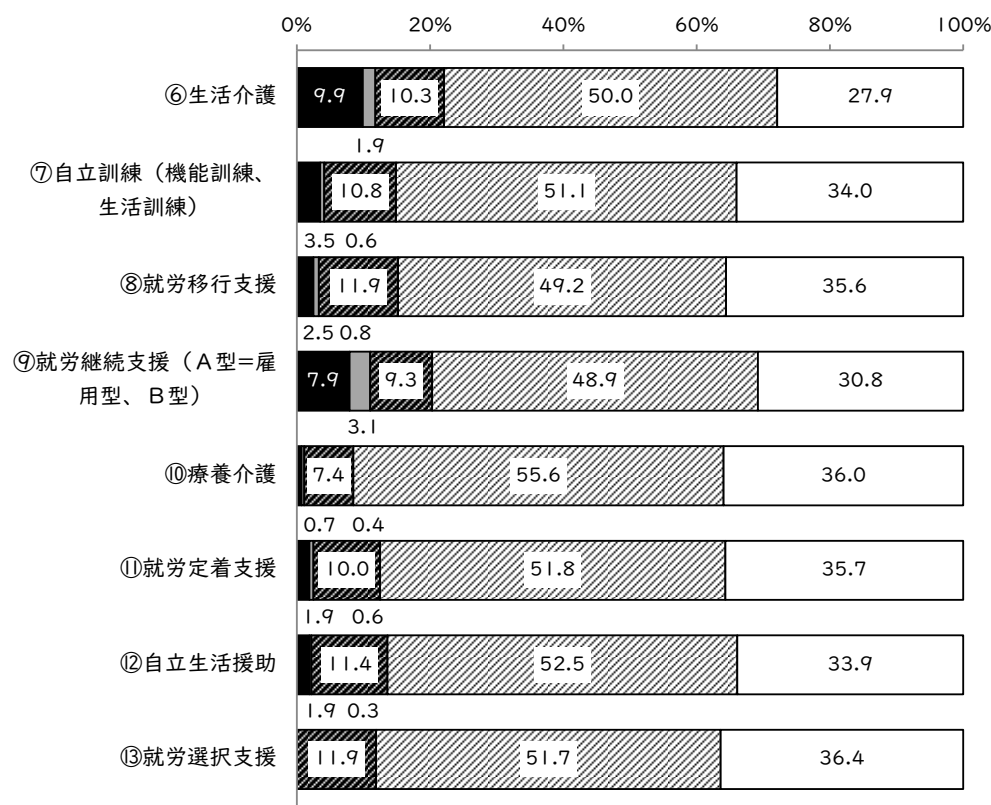
問3 2利用の評価・意向<日中活動系サービス>

- ⑥ 生活介護は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(9.9%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(1.9%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(10.3%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(50.0%)となっています。
- ⑦ 自立訓練(機能訓練、生活訓練)は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(3.5%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(0.6%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(10.8%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(51.1%)となっています。
- ⑧ 就労移行支援は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(2.5%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(0.8%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(11.9%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(49.2%)となっています。
- ⑨ 就労継続支援(A型=雇成型、B型)は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(7.9%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(3.1%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(9.3%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(48.9%)となっています。
- ⑩ 療養介護は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(0.7%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(0.4%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(7.4%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(55.6%)となっています。
- ⑪ 就労定着支援は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(1.9%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(0.6%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(10.0%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(51.8%)となっています。

⑫ 自立生活援助は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(1.9%)、
 「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(0.3%)、「現在利用
 していないが、今後利用したい」(11.4%)、「現在利用していないし、今後も
 利用しない」(52.5%)となっています。

⑬ 就労選択支援は「現在利用していないが、今後利用したい」(11.9%)、「現在
 利用していないし、今後も利用しない」(51.7%)となっています。

※ 「現在利用しており、そのサービスに満足している」と「現在利用している
 が、そのサービスに満足していない」は選択項目がありません。



- 現在利用しており、そのサービスに満足している
- 現在利用しているが、そのサービスに満足していない
- ▨ 現在利用していないが、今後利用したい
- ▩ 現在利用していないし、今後も利用しない
- 無回答

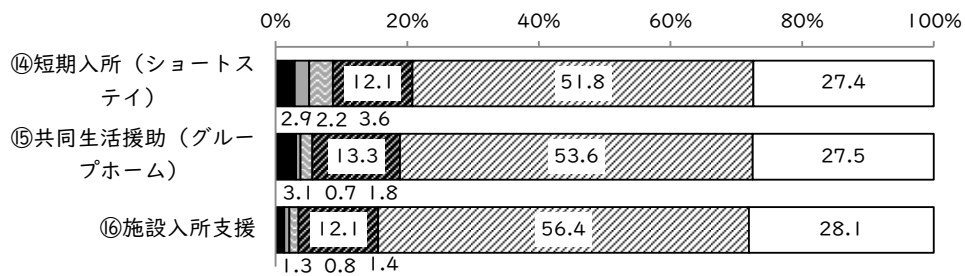
問3 2-2 《日中活動系サービス》^{にっちゅうかつどうけい}を利用して^{りよう}いない理由^{りゆう}はなぜですか。
 (あてはまるものすべてに○)

《日中活動系サービス》^{にっちゅうかつどうけい}を利用して^{りよう}いない理由は、「通^{かよ}う必要^{ひつよう}を感じないから」
 (44.3%)、「昼間^{ひるま}、通^{かよ}う場所^{ばしょ}が別^{べつ}にあるから」(26.8%)、「どんなサービス^しか知らな
 いから」(21.5%) となっています。

構成比 (%)	昼間、通 う場所が 別にある から	通 ^{かよ} う必要 ^{ひつ} を感じな いから	どんな サービス か知らな いから	利用した くても費 用負担が 大きいか ら	利用した くても空 きがない から	利用した くても引 き受けて くれる事 業所が見 つからな いから	医療的ケ アに対応 できない と言われ たから	その他	無回答	合計
合計(N=497)	26.8	44.3	21.5	6.8	2.0	3.0	2.0	13.9	9.5	100.0
身体障害者手帳(N=228)	17.1	58.3	16.2	5.7	0.4	1.3	1.8	10.5	8.8	100.0
療育手帳(N=86)	54.7	20.9	20.9	1.2	2.3	3.5	0.0	10.5	10.5	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=124)	28.2	37.9	31.5	10.5	3.2	3.2	2.4	20.2	8.1	100.0
発達障害(N=115)	45.2	24.3	29.6	5.2	1.7	3.5	3.5	16.5	9.6	100.0
強度行動障害(N=34)	29.4	26.5	32.4	11.8	0.0	5.9	2.9	29.4	8.8	100.0
高次脳機能障害(N=30)	36.7	36.7	16.7	3.3	0.0	0.0	0.0	6.7	10.0	100.0
難病(N=82)	28.0	42.7	13.4	6.1	2.4	4.9	7.3	9.8	11.0	100.0

問3 2利用の評価・意向<居住系サービス>

- ⑭ 短期入所（ショートステイ）は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（2.9%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（2.2%）、「現在利用していないが、今後3年以内に利用したい」（3.6%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（12.1%）、「現在利用していないし、今後利用しない」（51.8%）となっています。
- ⑮ 共同生活援助（グループホーム）は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（3.1%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（0.7%）、「現在利用していないが、今後3年以内に利用したい」（1.8%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（13.3%）、「現在利用していないし、今後利用しない」（53.6%）となっています。
- ⑯ 施設入所支援は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（1.3%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（0.8%）、「現在利用していないが、今後3年以内に利用したい」（1.4%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（12.1%）、「現在利用していないし、今後利用しない」（56.4%）となっています。



- 現在利用しており、そのサービスに満足している
- ▨ 現在利用しているが、そのサービスに満足していない
- ▩ 現在利用していないが、今後3年以内に利用したい
- ▧ 現在利用していないが、将来的に利用したい
- ▦ 現在利用していないし、今後利用しない
- 無回答

問3 2-3 《居住系サービス》を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

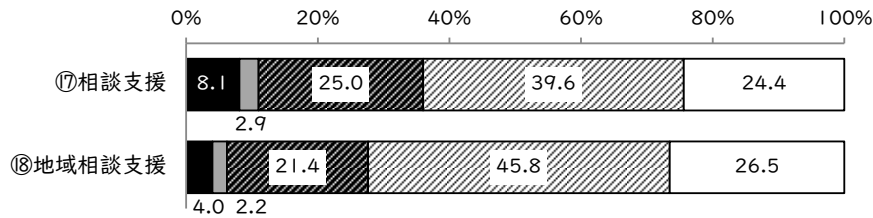
《居住系サービス》を利用していない理由は、「家族の支援があり、自宅で生活できるから」(52.9%)、「自分ひとりで生活することができるから」(39.4%)、「どんなサービスか知らないから」(13.3%)、「利用する必要性を感じないから」(12.0%)となっています。

構成比 (%)	自分ひとりで生活することができるから	家族の支援があり、自宅で生活できるから	どんなサービスか知らないから	利用したくても費用負担が大きいから	利用したくても空きがないから	医療的ケアに対応できないと言われたから	利用する必要性を感じないから	その他	無回答	合計
合計(N=533)	39.4	52.9	13.3	9.2	6.6	2.3	12.0	8.4	4.5	100.0
身体障害者手帳(N=243)	49.8	48.6	10.7	8.2	2.1	2.1	12.3	4.5	3.7	100.0
療育手帳(N=101)	11.9	65.3	13.9	8.9	15.8	0.0	7.9	9.9	8.9	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=126)	45.2	55.6	19.8	11.9	3.2	2.4	15.9	10.3	2.4	100.0
発達障害(N=123)	26.0	62.6	13.0	6.5	12.2	3.3	10.6	13.0	2.4	100.0
強度行動障害(N=35)	17.1	65.7	20.0	17.1	14.3	8.6	8.6	22.9	2.9	100.0
高次脳機能障害(N=32)	18.8	68.8	6.3	6.3	3.1	3.1	6.3	6.3	12.5	100.0
難病(N=83)	28.9	57.8	10.8	13.3	12.0	9.6	9.6	3.6	3.6	100.0

とい りよう ひょうか いこう そうだんしえん
問3 2利用の評価・意向<相談支援>

⑰ 相談支援は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(8.1%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(2.9%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(25.0%)、「現在利用していないし、今後もしない」(39.6%)となっています。

⑱ 地域相談支援は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(4.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(2.2%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(21.4%)、「現在利用していないし、今後もしない」(45.8%)となっています。



- 現在利用しており、そのサービスに満足している
- 現在利用しているが、そのサービスに満足していない
- ▨ 現在利用していないが、今後利用したい
- ▩ 現在利用していないし、今後もしない
- 無回答

問3 2-4 《相談支援》を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

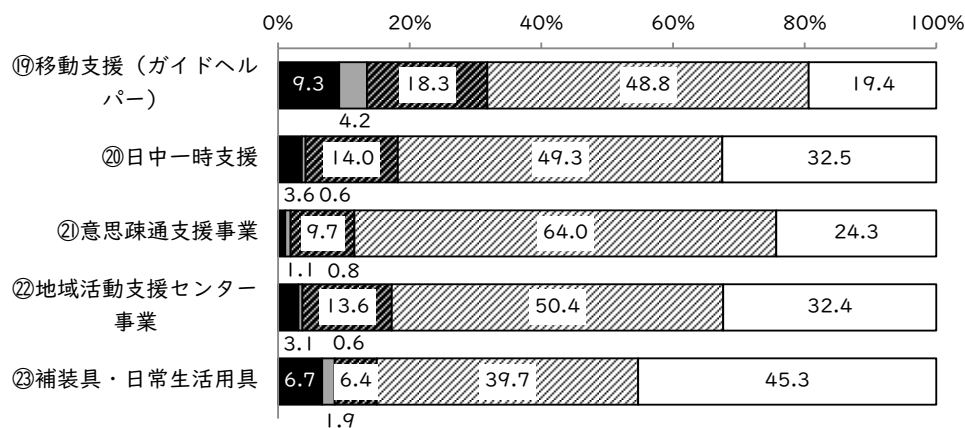
《相談支援》を利用していない理由は、「利用しなくても困らないから」(40.7%)、「相談する内容がないから」(29.6%)、「どんな内容を相談すればよいか、わからないから」(29.2%)「どんなサービスがわからないから」(20.0%)となっています。

構成比 (%)	利用しなくても困らないから	相談する内容がないから	どんな内容を相談すればよいか、わからないから	利用しなくても、引き受けてくれる相談支援事業所が見つからないから	どんなサービスがわからないから	その他	無回答	合計
合計(N=506)	40.7	29.6	29.2	6.1	20.0	8.7	4.9	100.0
身体障害者手帳(N=229)	52.8	33.2	18.8	3.1	12.7	4.8	4.8	100.0
療育手帳(N=98)	25.5	25.5	36.7	8.2	26.5	9.2	6.1	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=119)	32.8	28.6	44.5	10.1	28.6	12.6	3.4	100.0
発達障害(N=112)	27.7	30.4	44.6	8.9	25.0	11.6	2.7	100.0
強度行動障害(N=29)	27.6	17.2	41.4	6.9	24.1	20.7	6.9	100.0
高次脳機能障害(N=27)	44.4	22.2	33.3	3.7	11.1	3.7	7.4	100.0
難病(N=83)	33.7	31.3	24.1	3.6	16.9	8.4	12.0	100.0

とい
問3 2 利用の評価・意向《地域生活支援事業》

- ⑱ 移動支援（ガイドヘルパー）は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（9.3%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（4.2%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（18.3%）、「現在利用していないし、今後も利用しない」（48.8%）となっています。
- ⑳ 日中一時支援は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（3.6%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（0.6%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（14.0%）、「現在利用していないし、今後も利用しない」（49.3%）となっています。
- ㉑ 意思疎通支援事業は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（1.1%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（0.8%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（9.7%）、「現在利用していないし、今後も利用しない」（64.0%）となっています。
- ㉒ 地域活動支援センター事業は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（3.1%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（0.6%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（13.6%）、「現在利用していないし、今後も利用しない」（50.4%）となっています。
- ㉓ 補装具・日常生活用具は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（6.7%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（1.9%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（6.4%）、「現在利用していないし、今後も利用しない」（39.7%）となっています。

問3 2 利用の評価・意向《地域生活支援事業》



- 現在利用しており、そのサービスに満足している
- ▨ 現在利用しているが、そのサービスに満足していない
- ▧ 現在利用していないが、今後利用したい
- ▩ 現在利用していないし、今後も利用しない
- 無回答

問3 2-5 ①移動支援 (ガイドヘルパー) を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「自分ひとりで外出することができるから」(62.9%)、「家族の支援で外出することができるから」(37.3%)、「どんなサービスが知らないから」(15.1%)となっています。

構成比 (%)	自分ひとりで外出することができるから	家族の支援で外出することができるから	どんなサービスが知らないから	利用したくても費用負担が大きいか	利用したくても事業所が見つからないから	医療的ケアに対応できないと言われたから	その他	無回答	合計
合計(N=483)	62.9	37.3	15.1	7.7	4.8	2.3	6.4	2.5	100.0
身体障害者手帳(N=217)	70.0	32.3	12.4	4.6	2.3	1.4	3.2	1.8	100.0
療育手帳(N=80)	53.8	55.0	13.8	5.0	10.0	0.0	7.5	2.5	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=127)	64.6	39.4	20.5	11.8	5.5	3.1	4.7	3.1	100.0
発達障害(N=110)	60.0	43.6	15.5	9.1	7.3	3.6	10.9	1.8	100.0
強度行動障害(N=29)	31.0	62.1	17.2	17.2	3.4	6.9	10.3	6.9	100.0
高次脳機能障害(N=28)	50.0	42.9	28.6	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	100.0
難病(N=70)	51.4	47.1	11.4	7.1	5.7	8.6	1.4	4.3	100.0

問32-6 ⑳日中一時支援事業を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「利用しなくてもあなた自身^{じしん}のことはあなた自身^{じしん}でできるから」(58.2%) 利用しなくても家族^{かぞく}の介助^{かいじょ}があるから」(36.5%)、「どんなサービス^{サービス}か知らないから」(19.8%) となっています。

構成比 (%)	利用しなくてもあなた自身 ^{じしん} のことはあなた自身 ^{じしん} でできるから	利用しなくても家族 ^{かぞく} の介助 ^{かいじょ} があるから	通う場所 ^{ところ} が別にあるから	どんなサービス ^{サービス} か知らないから	利用しなくても費用 ^{費用} 負担 ^{負担} が大きいかから	利用しなくても事業 ^{事業} 所 ^所 が見つけられないから	医療的ケア ^{医療的ケア} に対応 ^{対応} できないと言われたから	その他	無回答	合計
合計(N=455)	58.2	36.5	6.8	19.8	5.7	4.0	2.0	5.9	2.2	100.0
身体障害者手帳(N=201)	70.1	30.3	4.0	16.9	3.5	0.5	2.0	1.0	1.5	100.0
療育手帳(N=84)	42.9	51.2	15.5	15.5	2.4	7.1	0.0	8.3	3.6	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=117)	58.1	41.0	2.6	26.5	10.3	5.1	2.6	9.4	2.6	100.0
発達障害(N=108)	50.9	42.6	10.2	21.3	5.6	6.5	1.9	11.1	1.9	100.0
強度行動障害(N=30)	23.3	56.7	10.0	16.7	3.3	6.7	6.7	16.7	0.0	100.0
高次脳機能障害(N=21)	52.4	42.9	9.5	23.8	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	100.0
難病(N=72)	50.0	40.3	6.9	20.8	5.6	6.9	8.3	2.8	2.8	100.0

問32-7 ㉑意思疎通支援事業を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「利用しなくても困^{こま}らないから」(63.4%)、「利用しなくても家族^{かぞく}の支援^{しえん}があるから」(23.4%)、「どんなサービス^{サービス}か知らないから」(19.6%) となっています。

構成比 (%)	利用しなくても困 ^{こま} らないから	利用しなくても家族 ^{かぞく} の支援 ^{しえん} があるから	どんなサービス ^{サービス} か知らないから	その他	無回答	合計
合計(N=530)	63.4	23.4	19.6	4.0	4.5	100.0
身体障害者手帳(N=229)	74.2	18.8	14.0	3.1	3.5	100.0
療育手帳(N=106)	48.1	38.7	22.6	4.7	3.8	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=130)	68.5	19.2	22.3	3.8	3.8	100.0
発達障害(N=124)	56.5	29.0	24.2	4.8	4.0	100.0
強度行動障害(N=38)	26.3	34.2	36.8	13.2	2.6	100.0
高次脳機能障害(N=29)	44.8	24.1	20.7	3.4	6.9	100.0
難病(N=81)	56.8	29.6	17.3	4.9	7.4	100.0

問32-8 ②地域活動支援センターでの創作や作業を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「どんなサービスが知らないから」(43.7%)、「通う場所が別にあるから」(28.7%)
 となっています。

構成比 (%)	通う場所 が別にあ るから	どんな サービ スが知 らな いから	自分が し て み た い こ と と セ ン タ ー で し て い る こ と が 違 う か ら	毎日、決 まったこ とをし た い か ら	その他	無回答	合計
合計(N=460)	28.7	43.7	6.1	6.7	10.2	13.3	100.0
身体障害者手帳(N=203)	23.2	35.5	3.9	7.4	13.3	20.2	100.0
療育手帳(N=85)	45.9	48.2	5.9	7.1	3.5	4.7	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=117)	25.6	54.7	7.7	6.0	7.7	10.3	100.0
発達障害(N=109)	40.4	55.0	3.7	8.3	3.7	5.5	100.0
強度行動障害(N=30)	16.7	70.0	3.3	6.7	10.0	3.3	100.0
高次脳機能障害(N=23)	43.5	39.1	4.3	4.3	8.7	8.7	100.0
難病(N=74)	23.0	47.3	2.7	4.1	13.5	14.9	100.0

問3 3 不満理由

各サービスの不満理由については、サンプル数が少ないためデータの掲載のみとする。

問3 3 不満理由① 居宅介護（ホームヘルプ）

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=18)		11.1	33.3	5.6	5.6	66.7
身体障害者手帳(N=11)		18.2	45.5	9.1	9.1	54.5
療育手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
発達障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
強度行動障害(N=0)		-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=2)		50.0	50.0	50.0	0.0	50.0
難病(N=7)		14.3	57.1	0.0	14.3	42.9

問3 3 不満理由② 就労移行支援

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=6)		50.0	16.7	50.0	33.3	16.7
身体障害者手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
療育手帳(N=1)		100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(N=2)		50.0	0.0	50.0	50.0	0.0
発達障害(N=2)		50.0	0.0	50.0	0.0	50.0
強度行動障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
高次脳機能障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
難病(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問3 3 不満理由③ 重度訪問介護

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=7)		28.6	14.3	14.3	14.3	57.1
身体障害者手帳(N=5)		40.0	20.0	20.0	20.0	40.0
療育手帳(N=0)		-	-	-	-	-
精神障害者保健福祉手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
発達障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
強度行動障害(N=0)		-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=2)		50.0	50.0	50.0	0.0	50.0
難病(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問3 3 不満理由④ 就労継続支援（A型=雇用型、B型）

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=22)		27.3	31.8	18.2	27.3	31.8
身体障害者手帳(N=3)		0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
療育手帳(N=8)		37.5	50.0	37.5	12.5	25.0
精神障害者保健福祉手帳(N=7)		28.6	28.6	0.0	28.6	28.6
発達障害(N=11)		45.5	27.3	18.2	27.3	27.3
強度行動障害(N=6)		33.3	16.7	16.7	33.3	50.0
高次脳機能障害(N=4)		25.0	0.0	25.0	50.0	50.0
難病(N=4)		0.0	25.0	25.0	0.0	50.0

問3 3 不満理由⑤ 同行支援

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=13)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
身体障害者手帳(N=8)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
療育手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=2)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
発達障害(N=2)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
強度行動障害(N=0)		-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
難病(N=3)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問3 3 不満理由⑥ 療養介護

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=3)		33.3	33.3	33.3	0.0	66.7
身体障害者手帳(N=2)		50.0	50.0	50.0	0.0	50.0
療育手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=0)		-	-	-	-	-
発達障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
強度行動障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
高次脳機能障害(N=2)		50.0	50.0	50.0	0.0	50.0
難病(N=2)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問3 3 不満理由⑦ 行動援助

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=5)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
身体障害者手帳(N=2)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
療育手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
発達障害(N=2)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
強度行動障害(N=0)		-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=0)		-	-	-	-	-
難病(N=2)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問3 3 不満理由⑧ 就労定着支援

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=4)		0.0	25.0	25.0	50.0	25.0
身体障害者手帳(N=0)		-	-	-	-	-
療育手帳(N=1)		0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
精神障害者保健福祉手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
発達障害(N=1)		0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
強度行動障害(N=0)		-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
難病(N=0)		-	-	-	-	-

問3 3 不満理由⑨ 重度障害者等包括支援

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=7)		28.6	14.3	14.3	0.0	71.4
身体障害者手帳(N=3)		33.3	33.3	33.3	0.0	66.7
療育手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
発達障害(N=2)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
強度行動障害(N=1)		100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
高次脳機能障害(N=1)		100.0	100.0	100.0	0.0	100.0
難病(N=3)		33.3	0.0	0.0	0.0	66.7

問3 3 不満理由⑩ 自立生活援助

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=2)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
身体障害者手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
療育手帳(N=0)		-	-	-	-	-
精神障害者保健福祉手帳(N=0)		-	-	-	-	-
発達障害(N=0)		-	-	-	-	-
強度行動障害(N=0)		-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
難病(N=0)		-	-	-	-	-

問3 3 不満理由⑪ 生活介護

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=14)		21.4	35.7	7.1	14.3	42.9
身体障害者手帳(N=3)		33.3	66.7	33.3	0.0	33.3
療育手帳(N=5)		0.0	40.0	0.0	20.0	40.0
精神障害者保健福祉手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
発達障害(N=5)		0.0	40.0	0.0	40.0	20.0
強度行動障害(N=4)		0.0	25.0	0.0	25.0	50.0
高次脳機能障害(N=2)		50.0	50.0	50.0	0.0	50.0
難病(N=3)		33.3	0.0	0.0	33.3	33.3

問3 3 不満理由⑫ 就労選択支援

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=0)		-	-	-	-	-
身体障害者手帳(N=0)		-	-	-	-	-
療育手帳(N=0)		-	-	-	-	-
精神障害者保健福祉手帳(N=0)		-	-	-	-	-
発達障害(N=0)		-	-	-	-	-
強度行動障害(N=0)		-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=0)		-	-	-	-	-
難病(N=0)		-	-	-	-	-

問3 3 不満理由⑬ 自立訓練（機能訓練、生活訓練）

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=4)		0.0	25.0	0.0	25.0	75.0
身体障害者手帳(N=1)		0.0	100.0	0.0	100.0	0.0
療育手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=0)		-	-	-	-	-
発達障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
強度行動障害(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
高次脳機能障害(N=0)		-	-	-	-	-
難病(N=3)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

問3 3 不満理由⑭ 就労短期入所（ショートステイ）

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=16)		6.3	31.3	6.3	12.5	50.0
身体障害者手帳(N=2)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
療育手帳(N=6)		0.0	50.0	16.7	33.3	16.7
精神障害者保健福祉手帳(N=1)		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
発達障害(N=3)		0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
強度行動障害(N=4)		25.0	25.0	25.0	50.0	0.0
高次脳機能障害(N=2)		0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
難病(N=6)		16.7	33.3	0.0	16.7	33.3

問3.3 不満理由⑥共同生活援助（グループホーム）

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=5)	20.0	20.0	20.0	60.0	40.0	100.0
身体障害者手帳(N=0)	-	-	-	-	-	-
療育手帳(N=4)	25.0	25.0	25.0	75.0	25.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
発達障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
強度行動障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
難病(N=0)	-	-	-	-	-	-

問3.3 不満理由⑦施設入所支援

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=6)	16.7	16.7	33.3	0.0	66.7	100.0
身体障害者手帳(N=3)	33.3	33.3	66.7	0.0	33.3	100.0
療育手帳(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
発達障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
強度行動障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=1)	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0
難病(N=0)	-	-	-	-	-	-

問3.3 不満理由⑧相談支援

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=21)	14.3	0.0	14.3	4.8	66.7	100.0
身体障害者手帳(N=6)	16.7	0.0	0.0	0.0	83.3	100.0
療育手帳(N=5)	0.0	0.0	40.0	0.0	60.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=5)	40.0	0.0	0.0	20.0	40.0	100.0
発達障害(N=8)	12.5	0.0	25.0	12.5	50.0	100.0
強度行動障害(N=6)	16.7	0.0	33.3	16.7	33.3	100.0
高次脳機能障害(N=5)	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0	100.0
難病(N=3)	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	100.0

問3.3 不満理由⑨地域相談支援

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=16)	18.8	6.3	12.5	6.3	68.8	100.0
身体障害者手帳(N=5)	40.0	20.0	20.0	0.0	60.0	100.0
療育手帳(N=2)	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=6)	16.7	0.0	0.0	16.7	66.7	100.0
発達障害(N=5)	20.0	0.0	0.0	20.0	60.0	100.0
強度行動障害(N=3)	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	100.0
高次脳機能障害(N=3)	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	100.0
難病(N=0)	-	-	-	-	-	-

問3.3 不満理由⑩移動支援（ガイドヘルパー）

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=30)	3.3	10.0	10.0	30.0	50.0	100.0
身体障害者手帳(N=13)	7.7	7.7	0.0	23.1	61.5	100.0
療育手帳(N=12)	0.0	16.7	25.0	33.3	33.3	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=3)	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	100.0
発達障害(N=8)	0.0	12.5	25.0	50.0	25.0	100.0
強度行動障害(N=3)	0.0	33.3	0.0	66.7	33.3	100.0
高次脳機能障害(N=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0
難病(N=1)	0.0	0.0	0.0	45.5	54.5	100.0

問3.3 不満理由⑪日中一時支援

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=4)	25.0	75.0	25.0	25.0	25.0	100.0
身体障害者手帳(N=1)	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0
療育手帳(N=2)	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=0)	-	-	-	-	-	-
発達障害(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
強度行動障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=1)	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0
難病(N=2)	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	100.0

問3.3 不満理由⑫意思疎通支援事業

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=6)	0.0	16.7	0.0	0.0	83.3	100.0
身体障害者手帳(N=3)	0.0	33.3	0.0	0.0	66.7	100.0
療育手帳(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=0)	-	-	-	-	-	-
発達障害(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
強度行動障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
難病(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

問3.3 不満理由⑬地域活動支援センター事業

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0	100.0
身体障害者手帳(N=1)	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0
療育手帳(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
発達障害(N=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
強度行動障害(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
高次脳機能障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
難病(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

問3.3 不満理由⑭補装具・日常生活用具

構成比（％）	サービスの提供内容	時間や日数、給付量	職員への対応	その他	無回答	合計
合計(N=14)	35.7	28.6	7.1	14.3	35.7	100.0
身体障害者手帳(N=12)	41.7	33.3	8.3	16.7	25.0	100.0
療育手帳(N=0)	-	-	-	-	-	-
精神障害者保健福祉手帳(N=0)	-	-	-	-	-	-
発達障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
強度行動障害(N=0)	-	-	-	-	-	-
高次脳機能障害(N=2)	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	100.0
難病(N=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

6 相談相手

問34 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

「家族や親せき」(72.8%)、「友人・知人」(31.0%)、「かかりつけの医師や看護師」(26.3%)となっています。

構成比 (%)	家族や親せき	友人・知人	近所の人	職場の上 司や同僚	グループ ホームや 施設の指 導員など	ホームへ ルバー等 サービス 事業所の 人	障害者団 体や家族 会	かかりつ けの医師 や看護師	病院の ケース ワーカー や介護保 険のケア マネー ジャー	民生委 員・児童 委員	障害者相 談支援セ ンター等 の民間の 相談窓口	行政機関 の相談窓 口	その他	無回答	合計
合計(N=720)	72.8	31.0	4.0	11.5	7.9	9.4	1.4	26.3	5.6	0.6	4.4	4.4	7.6	9.2	100.0
身体障害者手帳(N=313)	73.2	36.1	4.5	8.9	1.0	6.7	1.0	21.7	7.3	0.6	2.9	4.5	6.7	10.5	100.0
療育手帳(N=145)	69.7	22.8	2.8	15.9	25.5	9.7	1.4	12.4	0.7	0.0	8.3	2.8	6.2	9.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	74.5	36.9	5.1	9.6	2.5	12.1	3.2	43.9	8.3	0.0	4.5	4.5	9.6	6.4	100.0
発達障害(N=150)	79.3	24.0	3.3	18.7	11.3	10.7	1.3	26.7	2.0	0.7	5.3	5.3	10.0	6.0	100.0
強度行動障害(N=54)	70.4	24.1	1.9	5.6	14.8	14.8	3.7	38.9	7.4	1.9	5.6	11.1	11.1	7.4	100.0
高次脳機能障害(N=48)	62.5	27.1	4.2	6.3	6.3	10.4	2.1	27.1	6.3	0.0	8.3	0.0	8.3	10.4	100.0
難病(N=111)	71.2	31.5	0.9	8.1	11.7	12.6	0.9	32.4	8.1	0.9	7.2	6.3	9.0	6.3	100.0

問35 あなたは障害のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

「広報ひらかた」(34.0%)、「家族や親せき、友人・知人」(31.9%)、「インターネット」(31.1%)、「福祉のてびき」(22.6%)となっています。

構成比 (%)	本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	広報ひらかた	インターネット	家族や親せき、友人・知人	サービス事業所の施設職員	障害者団体や家族会(団体の機関誌等)	かかりつけの医師や看護師	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	民生委員・児童委員	障害者相談支援センター等の民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	福祉のてびき	その他	無回答	合計
合計(N=720)	16.8	34.0	31.1	31.9	17.8	4.2	19.7	7.1	0.4	4.3	6.8	22.6	3.6	11.7	100.0
身体障害者手帳(N=313)	19.2	38.7	35.5	25.9	9.9	3.2	18.8	9.9	0.3	1.9	5.4	25.2	4.2	12.5	100.0
療育手帳(N=145)	14.5	31.7	17.2	46.2	32.4	5.5	7.6	2.1	0.0	9.0	7.6	22.1	3.4	9.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	14.6	26.8	42.0	31.2	17.2	3.8	29.3	8.9	0.6	3.2	6.4	17.8	2.5	10.2	100.0
発達障害(N=150)	12.0	31.3	31.3	50.0	28.7	4.0	16.7	3.3	0.0	4.0	8.7	22.7	2.0	8.0	100.0
強度行動障害(N=54)	5.6	38.9	16.7	35.2	29.6	9.3	18.5	5.6	0.0	5.6	14.8	20.4	3.7	11.1	100.0
高次脳機能障害(N=48)	6.3	35.4	25.0	29.2	14.6	2.1	12.5	10.4	2.1	8.3	4.2	20.8	6.3	16.7	100.0
難病(N=111)	19.8	42.3	26.1	38.7	21.6	8.1	20.7	7.2	0.0	5.4	7.2	30.6	3.6	8.1	100.0

問36 あなたは生活に必要な情報を得ることがむずかしく、困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「物を買うときの契約などで申込書の内容がむずかしく分からない」(29.2%)、

「タブレットなど情報機器の扱いが難しい」(13.9%)、「その他」(15.7%)と

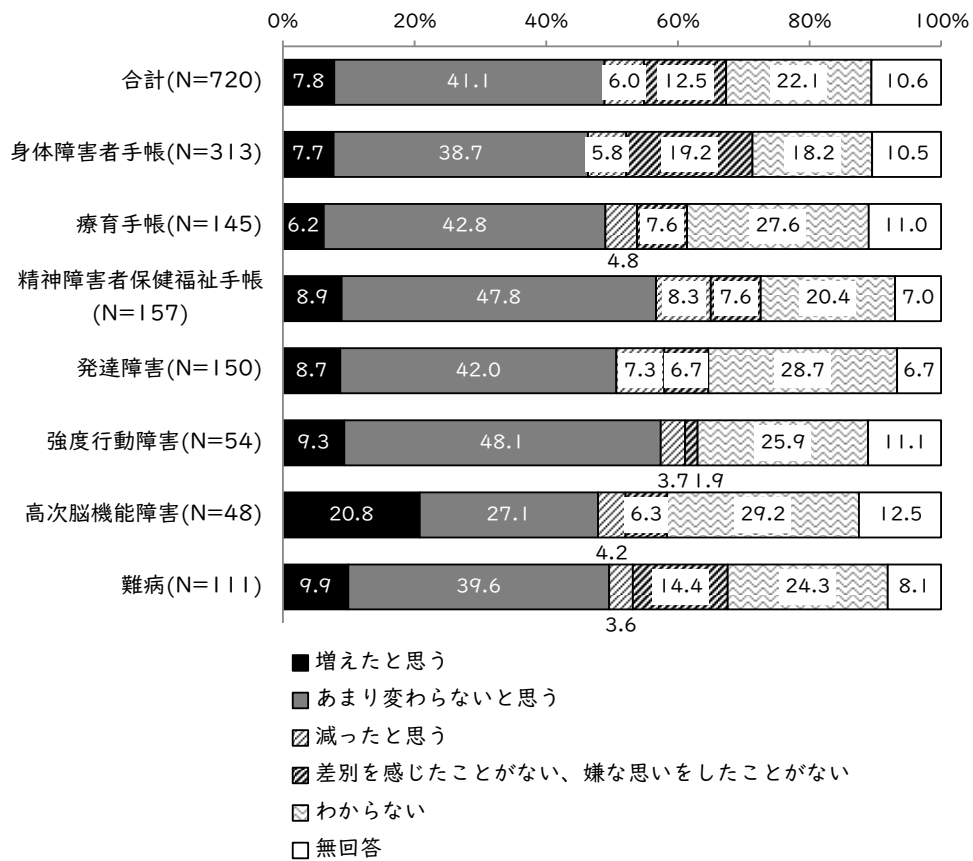
なっています。

構成比 (%)	物を買うときの契約などで申込書の内容がむずかしく分からない	点字や音声の書籍が少ない	テレビ放送で字幕や手話、解説付き放送が少ない	筆談による対応をしても、理解がむずかしい	案内やお知らせにFAX番号が書かれていないため、問い合わせできない	タブレットなど情報機器の扱いが難しい	その他	無回答	合計
合計(N=720)	29.2	1.7	3.8	3.9	2.2	13.9	15.7	47.9	100.0
身体障害者手帳(N=313)	13.7	2.2	5.1	1.9	2.6	11.8	17.3	56.2	100.0
療育手帳(N=145)	56.6	0.7	3.4	6.9	1.4	20.7	15.2	29.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	33.1	1.3	2.5	2.5	2.5	12.1	12.7	47.8	100.0
発達障害(N=150)	48.7	0.0	4.0	5.3	2.7	16.0	17.3	32.7	100.0
強度行動障害(N=54)	38.9	0.0	0.0	7.4	1.9	13.0	29.6	40.7	100.0
高次脳機能障害(N=48)	31.3	0.0	2.1	6.3	2.1	16.7	8.3	52.1	100.0
難病(N=111)	27.0	3.6	2.7	4.5	4.5	18.0	22.5	41.4	100.0

7 権利擁護

問37 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをすることは、この3年間で変わったように思いますか。

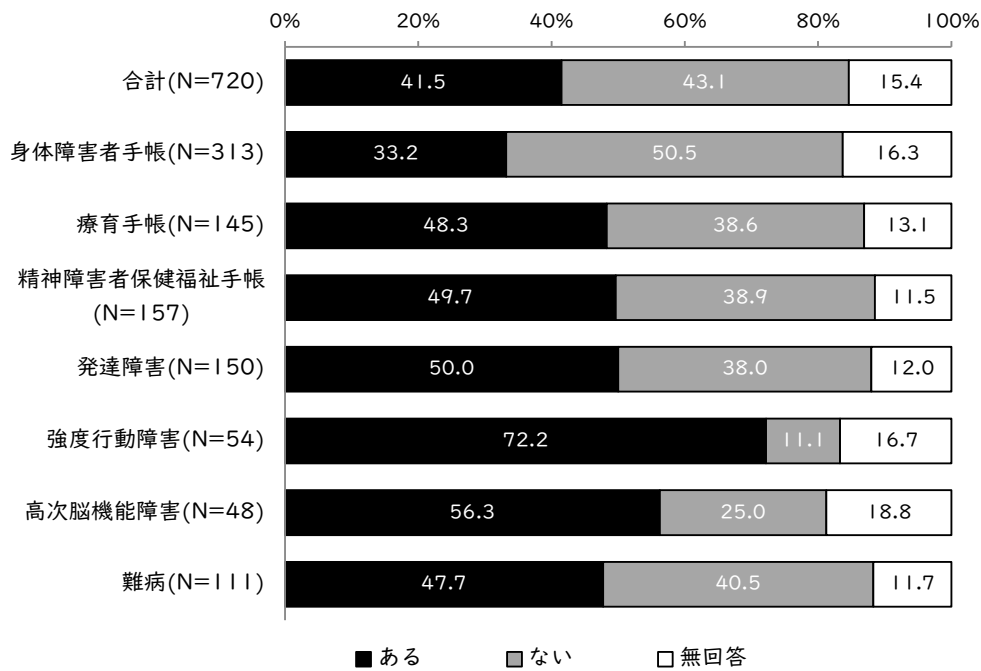
「あまり変わらないと思う」(41.1%)、「差別を感じたことがない、嫌な思いをしたことがない」(12.5%)、「増えたと思う」(7.8%)、「減ったと思う」(6.0%)となっています。



問38 あなたは、障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすることは、ありますか。

「ある」(41.5%)、「ない」(43.1%)となっています。

強度行動障害では「ある」が72.2%で、他の障害種別より高くなっています。



問38-1 嫌な思い・困ったこと (N=299)

主な項目 (10%以上) でみると、

① 学校

「自分だけ違う対応をされる」(11.0%)、「暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける」(10.4%)、「無視されたり、仲間はずれにされる」(11.7%) となっています。

② 職場

「暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける」(10.0%)、「障害に配慮してもらえなかった」(16.7%)、「不親切・冷たい態度をとられた」(11.4%) となっています。

③ 仕事を探するとき

該当なし。

④ 外出先・余暇を楽しむとき

「じろじろ見られた」(21.1%)、「不親切・冷たい態度をとられた」(11.7%)、「その他」(10.0%) となっています。

⑤ 公共交通機関

「じろじろ見られた」(19.4%) となっています。

⑥ 病院等の医療機関

「じろじろ見られた」(10.4%) となっています。

⑦ 住んでいる地域

「じろじろ見られた」(13.4%) となっています。

⑧ 福祉サービス (通所事業所・グループホーム・施設) など

該当なし。

⑨ 住まいを探するとき

該当なし。

⑩ その他

該当なし。

構成比 (%)	自分だけ 違う対応 をされる	暴言や嫌 味を言わ れる、暴 力を受け る	無視され たり、仲 間はずれ にされる	じろじろ 見られた	自分の意 見をきい てもらえ なかった	障害を理 由に断ら れた	障害に配 慮しても らえな かった	不親切・ 冷たい態 度をとら れた	その他	無回答	合計
学校(N=299)	11.0	10.4	11.7	8.0	6.4	2.7	6.7	9.0	6.4	71.6	100.0
職場(N=299)	9.0	10.0	7.0	3.7	8.4	5.0	16.7	11.4	6.4	65.2	100.0
仕事を探すとき(N=299)	4.7	1.3	1.7	1.7	3.0	8.4	8.4	5.7	6.0	77.6	100.0
④ 外出先・余暇を楽しむとき (N=299)	4.7	3.7	2.3	21.1	2.0	5.7	9.0	11.7	10.0	54.5	100.0
公共交通機関(N=299)	2.0	2.0	0.0	19.4	0.0	0.7	8.0	9.0	60.9	100.0	
病院等の医療機関(N=299)	4.3	3.3	0.3	10.4	3.3	1.7	7.7	7.7	67.2	100.0	
住んでいる地域(N=299)	4.3	5.0	3.7	13.4	2.0	1.3	8.4	6.7	7.0	65.6	100.0
⑧ 福祉サービス（通所事業所・グ ループホーム・施設）など(N=299)	3.3	2.7	1.7	0.7	4.3	2.3	3.3	3.7	9.4	81.3	100.0
住まいを探すとき(N=299)	1.3	0.3	0.7	1.0	1.0	2.0	2.3	3.7	7.0	86.0	100.0
その他(N=299)	0.0	0.7	0.3	0.3	0.3	0.7	2.0	1.0	5.0	92.3	100.0

※黄色マーカーは10%以上

問39 成年後見制度を利用している場合や利用を考慮しておられる場合、不安に考慮しておられること、また、利用を考慮してもらえない理由はなんでしょうか。(あてはまるものすべてに○)

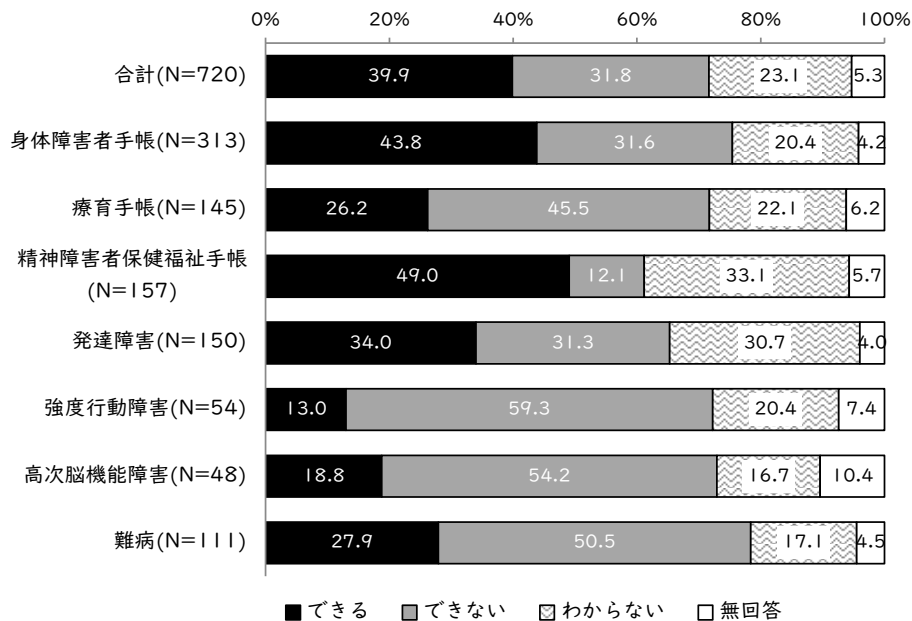
「制度がよくわからない」(29.4%)、「あなた自身に代わって財産等を管理できる親族がいるから」(20.4%)となっています。

構成比 (%)	制度がよくわからない	あなたが自身が契約行為等ができるから	あなたが自身に代わって財産等を管理できる親族がいるから	後見人等を見ず知らずの人がすることに不安があるから	後見人等に支払う報酬の負担ができないから	手続きが複雑そうだから	あなたの自身の意志で物事を決められないから	その他	無回答	合計
合計(N=720)	29.4	14.6	20.4	15.1	9.3	15.7	8.6	4.2	34.4	100.0
身体障害者手帳(N=313)	17.3	21.1	15.0	6.4	3.2	6.7	2.9	2.6	47.6	100.0
療育手帳(N=145)	37.9	2.1	33.1	29.0	16.6	26.2	13.1	6.2	23.4	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	43.3	17.2	17.2	15.3	11.5	21.7	12.1	5.1	22.9	100.0
発達障害(N=150)	42.7	9.3	30.0	25.3	20.0	28.0	16.7	5.3	16.7	100.0
強度行動障害(N=54)	31.5	1.9	37.0	37.0	25.9	20.4	18.5	11.1	24.1	100.0
高次脳機能障害(N=48)	16.7	6.3	22.9	8.3	8.3	14.6	8.3	2.1	45.8	100.0
難病(N=111)	21.6	20.7	24.3	21.6	11.7	14.4	6.3	2.7	30.6	100.0

8 さいがいに ひなんとう 災害時の避難等について

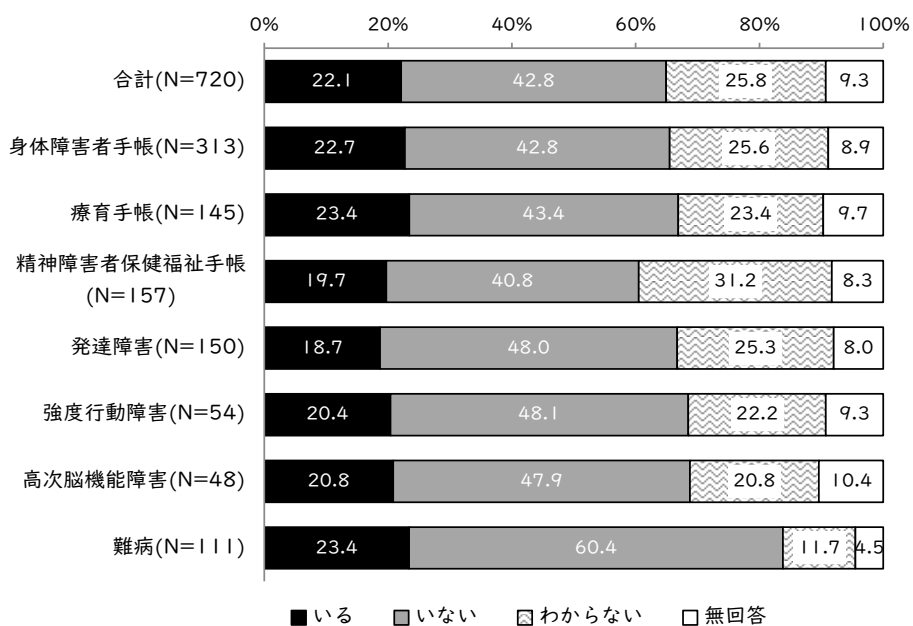
問40 あなたは、じしんとう さいがいに ひとり ひなん 地震等の災害時に一人で避難できますか。

「できる」(39.9%)、「できない」(31.8%)、「わからない」(23.1%)となっています。



問41 かぞくとう ふざい ばあい ひとりく ばあい さいがいに ひなん じ 家族等が不在の場合や一人暮らしの場合、災害時に避難する時、あなたを助けてくれる人はいますか。

「いる」(22.1%)、「いない」(42.8%)、「わからない」(25.8%)となっています。



問4 1-1 助けてくれる人は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

「近所の人」(44.0%)、「友人・知人」(34.0%)、「ヘルパーなど事業所の職員」(24.5%)となっています。

構成比 (%)	近所の人	ヘルパーなど事業所の職員	病院の職員	友人・知人	その他	無回答	合計
合計(N=159)	44.0	24.5	3.8	34.0	15.1	1.9	100.0
身体障害者手帳(N=71)	49.3	19.7	2.8	45.1	8.5	2.8	100.0
療育手帳(N=34)	44.1	44.1	0.0	17.6	11.8	0.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=31)	38.7	19.4	0.0	38.7	22.6	0.0	100.0
発達障害(N=28)	39.3	17.9	0.0	35.7	17.9	3.6	100.0
強度行動障害(N=11)	18.2	45.5	0.0	18.2	27.3	0.0	100.0
高次脳機能障害(N=10)	20.0	30.0	10.0	30.0	30.0	0.0	100.0
難病(N=26)	38.5	26.9	3.8	42.3	3.8	0.0	100.0

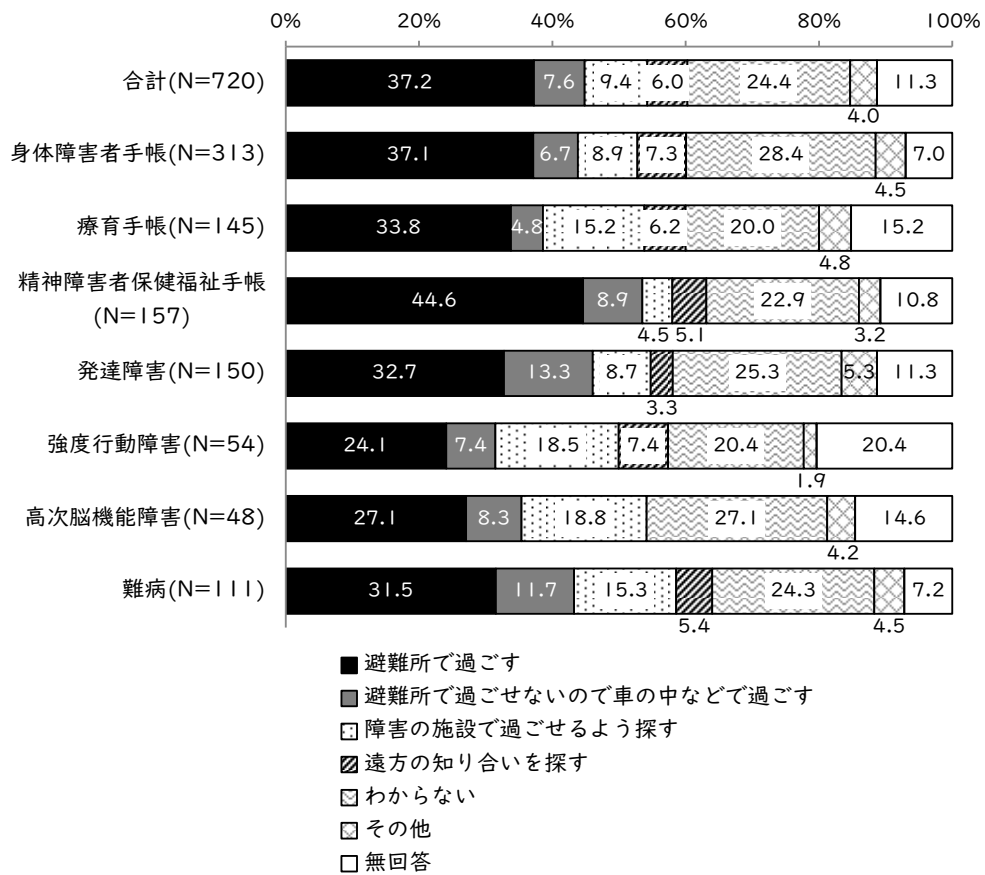
問4 2 地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」(46.9%)、「投薬や治療が受けられない」(46.3%)、「安全なところまで、迅速に避難することができない」(39.6%)、「プライバシーの配慮がされない」(31.3%)となっています。

構成比 (%)	投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる(入手が困難になるなども含む)	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に避難することができない	被害状況、避難場所などの情報が入手できない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	避難場所の雑音、騒音に耐えられない	他の避難者から叱られると不安(大声をあげる等による)	配給のお弁当が食べられない	コロナウイルス感染症などへの感染が不安	プライバシーの配慮がされない	避難場所がわからない	その他	無回答	合計
合計(N=720)	46.3	10.8	23.3	39.6	25.0	28.6	46.9	26.3	14.9	8.9	25.1	31.3	21.3	5.3	13.1	100.0
身体障害者手帳(N=313)	47.0	19.5	17.3	44.7	20.8	13.4	46.6	12.5	3.5	8.0	21.4	25.9	13.7	6.1	11.2	100.0
療育手帳(N=145)	29.7	4.1	38.6	42.8	39.3	55.2	46.2	31.0	28.3	9.7	29.7	26.9	37.2	4.1	16.6	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	61.8	1.3	16.6	22.3	18.5	26.1	46.5	40.8	18.5	8.9	22.9	45.2	21.7	5.7	10.8	100.0
発達障害(N=150)	40.0	4.7	36.0	38.0	38.7	56.7	46.7	43.3	31.3	10.0	30.0	39.3	34.0	5.3	9.3	100.0
強度行動障害(N=54)	61.1	11.1	50.0	64.8	40.7	68.5	59.3	51.9	38.9	18.5	40.7	40.7	35.2	7.4	11.1	100.0
高次脳機能障害(N=48)	64.6	22.9	29.2	52.1	29.2	25.0	50.0	39.6	14.6	14.6	31.3	37.5	20.8	2.1	16.7	100.0
難病(N=111)	58.6	18.9	30.6	61.3	30.6	27.9	64.9	28.8	14.4	16.2	31.5	30.6	19.8	3.6	6.3	100.0

問4 3 災害時に自宅で過ごせなくなった場合、あなたはどのようにされますか。

「避難所で過ごす」(37.2%)、「障害の施設で過ごせるよう探す」(9.4%)、「避難所で過ごせないので車の中などで過ごす」(7.6%)、「遠方の知り合いを探す」(6.0%)、「わからない」24.4%) となっています。



問4 4 避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物がありますか。(食料など、長く保存できないものは除いて、お答えください。)(あてはまるものすべてに○)

「自分だけの空間を作れる簡易な装置(段ボール箱の区切り等)」(54.7%)、「何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンダナなど」(23.9%)、「騒音、雑音を遮断する耳あて(イヤーマフ等)」(22.2%)、「車いすで使用できるトイレ」(20.3%)、「避難所での連絡事項などが文字により伝えられる装置」(19.3%)、「避難所での連絡事項などが音声により伝えられる装置」(18.5%)、「利用している医療機器を十分に利用(充電)できるだけの電源」(17.4%)となっています。

構成比 (%)	車いすで使用できるトイレ	騒音、雑音を遮断する耳あて(イヤーマフ等)	ストマ装置	自分だけの空間を作れる簡易な装置(段ボール箱の区切り等)	避難所での連絡事項などが音声により伝えられる装置	避難所での連絡事項などが文字により伝えられる装置	利用している医療機器を十分に利用(充電)できるだけの電源	絵カードなどのコミュニケーション支援のための道具	何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンダナなど	その他	無回答	合計
合計(N=720)	20.3	22.2	6.5	54.7	18.5	19.3	17.4	9.7	23.9	7.1	20.0	100.0
身体障害者手帳(N=313)	27.8	13.1	9.9	46.0	16.9	18.2	16.9	6.7	16.9	10.2	19.5	100.0
療育手帳(N=145)	11.7	23.4	3.4	57.2	26.2	22.8	13.8	19.3	38.6	6.2	19.3	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	12.7	36.9	3.2	68.2	18.5	21.7	21.0	8.9	22.3	3.8	19.1	100.0
発達障害(N=150)	8.7	30.7	2.7	64.7	21.3	24.0	14.0	19.3	32.0	3.3	15.3	100.0
強度行動障害(N=54)	16.7	33.3	3.7	64.8	20.4	20.4	22.2	18.5	29.6	3.7	20.4	100.0
高次脳機能障害(N=48)	31.3	29.2	6.3	56.3	14.6	16.7	12.5	4.2	27.1	8.3	20.8	100.0
難病(N=111)	31.5	16.2	9.9	55.9	23.4	13.5	23.4	6.3	20.7	10.8	14.4	100.0

問4 5 新型コロナウイルス感染症流行により、生活にどのような変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

「外出ができなかった」(42.5%)、「介助者(家族やヘルパー)との感染対策」(19.4%)、「いつも行っているところ(会社や通所事業所など)に行くことができなかった」(14.7%)、「感染に関することへの理解が難しかった」(12.8%)などの生活の変化に対して、「大きな変化はなかった」は32.2%となっています。

構成比 (%)	介助者(家族やヘルパー)との感染対策	外出ができなかった	いつも利用しているサービス(ホームヘルプやガイドヘルパーなど)が利用できなかった	いつも行っているところ(会社や通所事業所など)に行くことができなかった	通院ができなかった	情報が入手できなかった	感染に関することへの理解が難しかった	その他	大きな変化はなかった	無回答	合計
合計(N=720)	19.4	42.5	8.9	14.7	7.8	5.4	12.8	7.1	32.2	9.3	100.0
身体障害者手帳(N=313)	17.9	37.4	7.0	8.6	7.0	4.2	5.1	5.4	39.6	8.9	100.0
療育手帳(N=145)	25.5	50.3	15.9	20.7	7.6	3.4	28.3	5.5	24.1	9.0	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	13.4	41.4	2.5	19.1	7.0	6.4	8.9	10.2	31.2	8.9	100.0
発達障害(N=150)	26.0	46.0	7.3	23.3	9.3	7.3	22.7	6.0	25.3	5.3	100.0
強度行動障害(N=54)	37.0	64.8	16.7	27.8	24.1	11.1	31.5	9.3	13.0	9.3	100.0
高次脳機能障害(N=48)	33.3	50.0	18.8	10.4	14.6	6.3	10.4	8.3	20.8	10.4	100.0
難病(N=111)	33.3	43.2	16.2	18.9	10.8	9.0	9.9	3.6	32.4	8.1	100.0

問46 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ位置づけされたことによって、お気持ちや、生活に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

「まだ少し、感染に対する不安があり、しばらく以前の生活には戻れないと思う。」(50.6%)、「不安感はなくなり、感染症流行前の生活に戻れると思っている。」(26.4%)となっています。

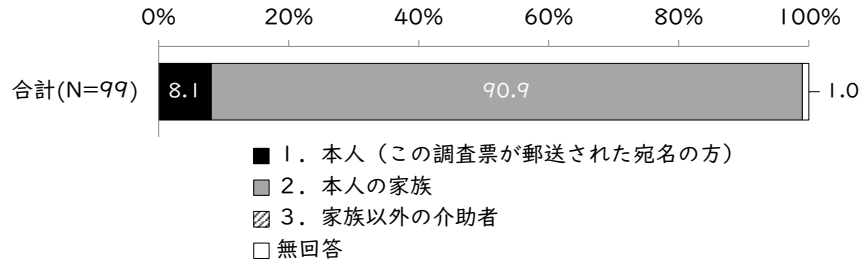
構成比 (%)	不安感はなくなり、感染症流行前の生活に戻れると思っている。	まだ少し、感染に対する不安があり、しばらく以前の生活には戻れないと思う。	大きな不安があり、もう以前の生活には戻れないと感じている。	その他	無回答	合計
合計(N=720)	26.4	50.6	7.2	7.6	12.5	100.0
身体障害者手帳(N=313)	25.2	54.0	7.0	7.3	10.5	100.0
療育手帳(N=145)	25.5	50.3	7.6	7.6	14.5	100.0
精神障害者保健福祉手帳(N=157)	31.2	40.1	9.6	8.3	12.7	100.0
発達障害(N=150)	30.0	49.3	9.3	12.0	7.3	100.0
強度行動障害(N=54)	22.2	55.6	11.1	7.4	13.0	100.0
高次脳機能障害(N=48)	22.9	66.7	8.3	2.1	8.3	100.0
難病(N=111)	22.5	54.1	9.0	5.4	14.4	100.0

第3章 「18歳未満」調査結果

1 属性

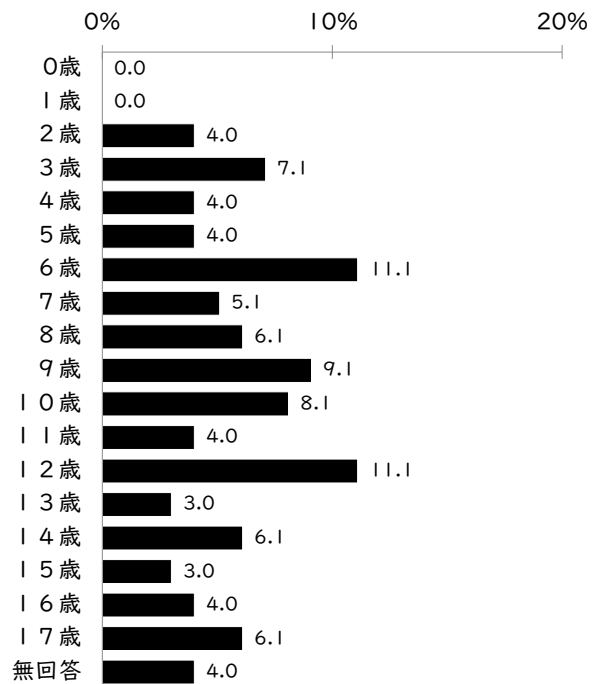
問1 回答者

「本人」(8.1%)、「本人の家族」(90.9%)となっています。



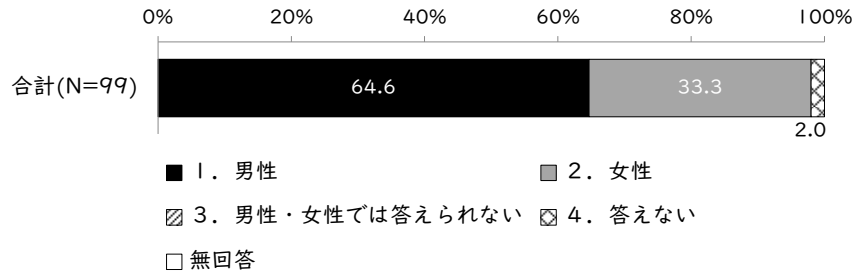
問2 年齢 (令和5年7月1日現在)

「6歳」(11.1%)、「12歳」(11.1%)、「9歳」(9.1%)となっています。



とい せいべつ
問3 性別

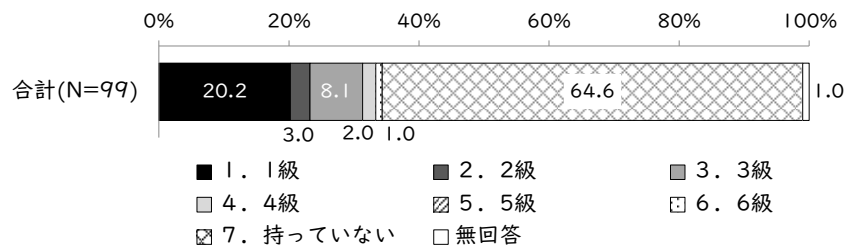
「男性」(64.6%)、「女性」(33.3%)で、「男性・女性では答えられない」(2.0%)
 となっています。



しよつがい じよつきよつ
2 障害の状況

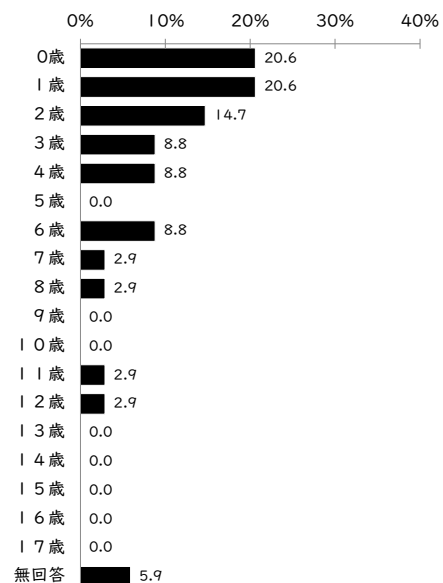
とい
問4 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。

「1級」～「6級」を合わせた『持っている』は 34.3%、「持っていない」が
 64.6%となっています。



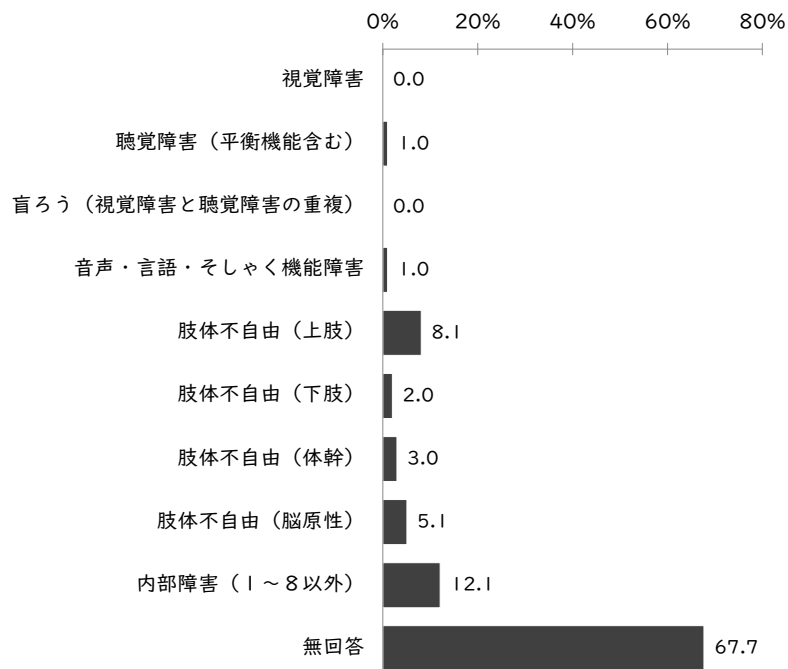
とい
問4-1 手帳を取得された時の年齢をお答えください。

「0歳」(20.6%)、「1歳」(20.6%)、「2歳」(14.7%)となっています。



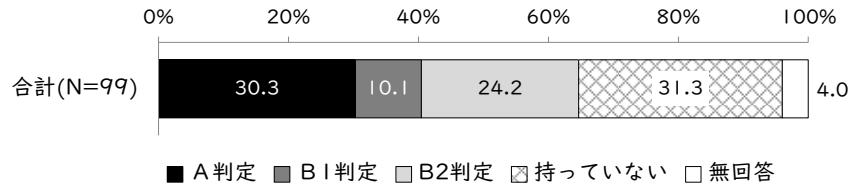
問5 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障害をお答えください。(複数の障害認定を受けている場合は、より重い障害(等級が高い)に○を、等級が同じ場合は、下の1～9の障害のうち、当てはまる障害の番号の小さい方に○をしてください。)

「内部障害(1～8以外)」(12.1%)、「肢体不自由(上肢)」(8.1%)、「肢体不自由(脳原性)」(5.1%)、「無回答」(67.7%)となっています。



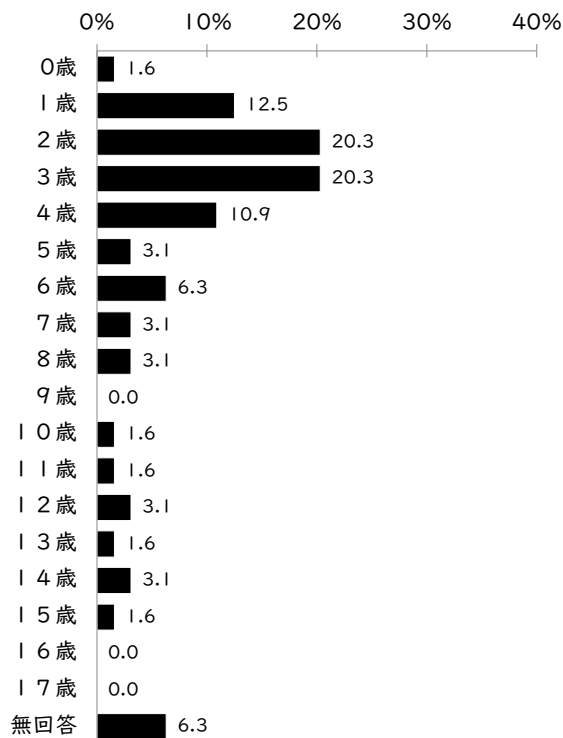
問6 あなたは療育手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

「A判定」「B1判定」「B2判定」を合わせた『持っている』は64.6%、「持っていない」は31.3%となっています。



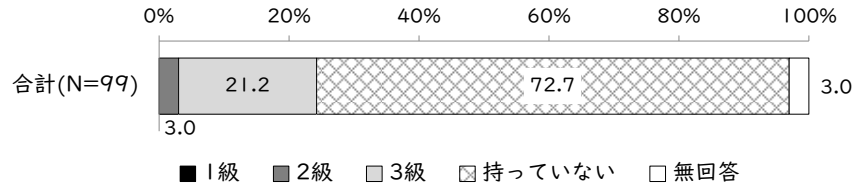
問6-1 手帳を取得された時の年齢をお答えください。(N=64)

「0歳」(1.6%)、「1歳」(12.5%)、「2歳」(20.3%)、「3歳」(20.3%)を合わせた『3歳以下』は54.7%となっています。



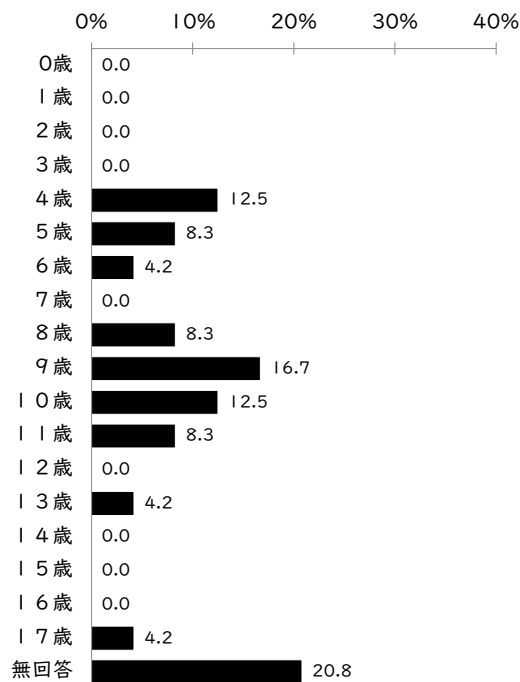
問7 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

「2級」、「3級」を合わせた『持っている』は24.2%、「持っていない」は72.7%となっています。



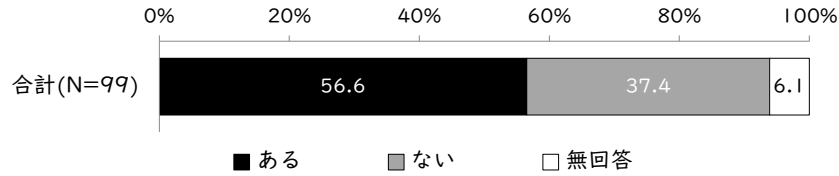
問7-1 手帳を取得された時の年齢をお答えください。(N=24)

「0歳」～「5歳」で20.8%、「6歳」～「11歳」で50.0%となっています。



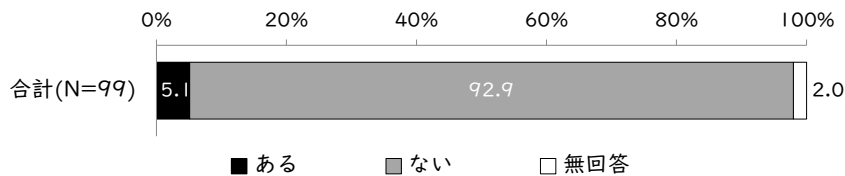
問8 あなたは発達障害として診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

「ある」(56.6%)、「ない」(37.4%)となっています。



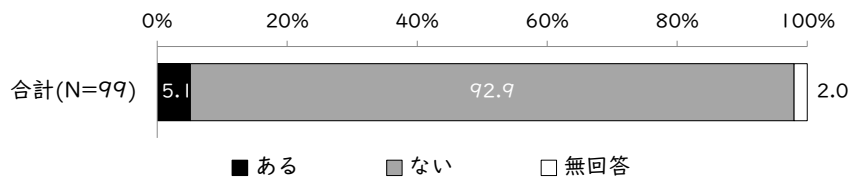
問9 あなたは強度行動障害があると言われたことがありますか。(○は1つだけ)

「ある」(5.1%)、「ない」(92.9%)となっています。



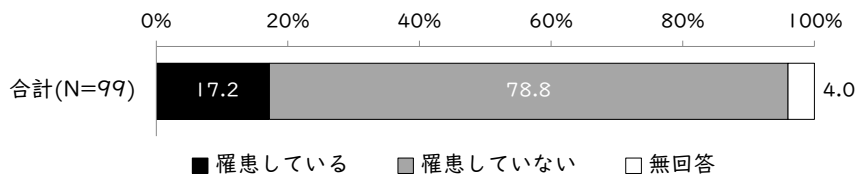
問10 あなたは高次脳機能障害として診断されたことがありますか。(○は1つだけ)

「ある」(5.1%)、「ない」(92.9%)となっています。



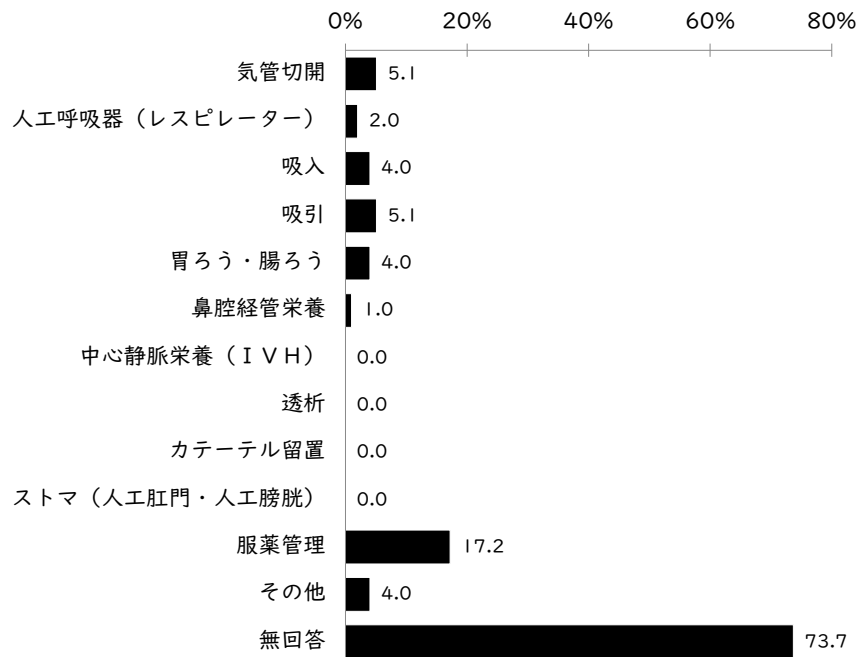
問11 あなたは難病に罹患していますか。(○は1つだけ)

「ある」(17.2%)、「ない」(78.8%)となっています。



問12 あなたが現在受けている医療的ケアをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

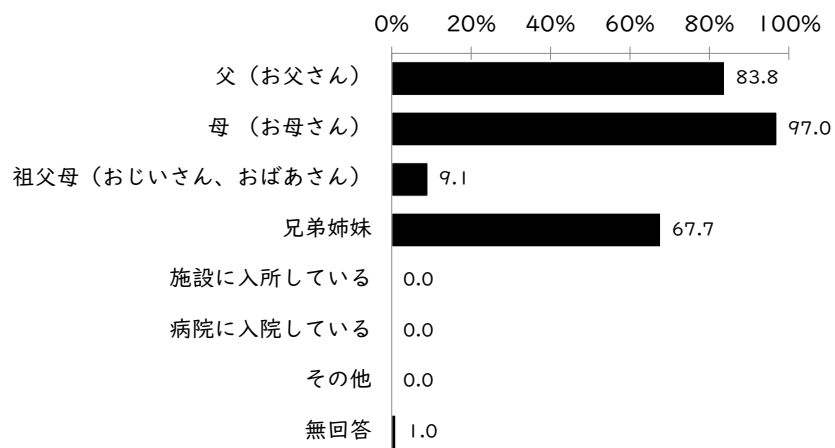
「服薬管理」(17.2%)、「気管切開」(5.1%)、「吸引」(5.1%)、「吸入」(4.0%)
「無回答」(73.7%) となっています。



3 住まいや暮らし

問13 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。(あてはまるものすべてに○)

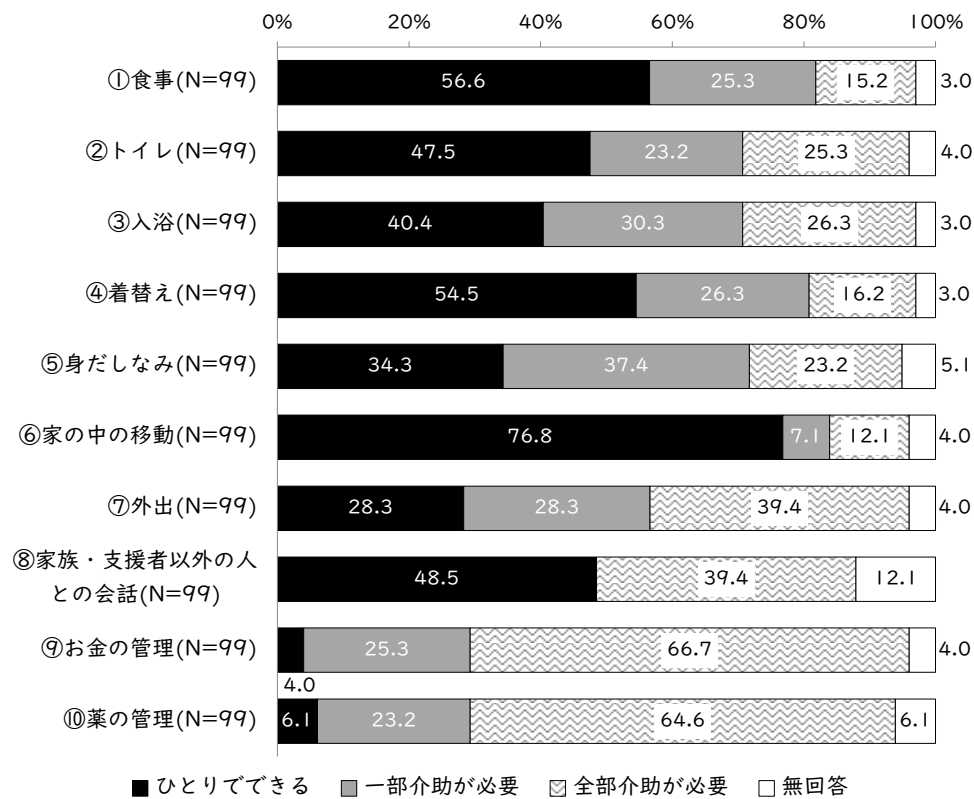
「母(お母さん)」(97.0%)、「父(お父さん)」(83.8%)、「兄弟姉妹」(67.7%)
となっています。



とい 4 にちじょうせいかつ
問14 日常生活

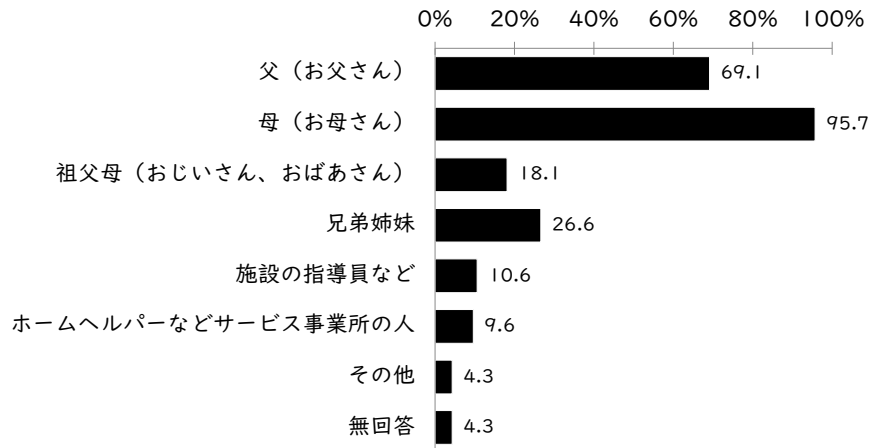
「ひとりでできる」が5割以上は、①食事(56.6%)、④着替え(54.5%)、⑥家の中の移動(76.8%)となっています。

「一部介助が必要」と「全部介助が必要」合わせた『介助は必要』が4割以上は、⑥家の中の移動(19.2%)を除くすべての行動で、特に⑨お金の管理(92.0%)、⑩薬の管理(87.8%)は9割となっています。



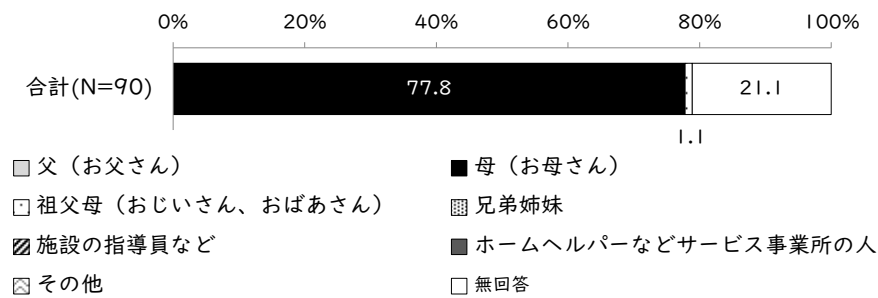
問15 あなたを介助してくれる方は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

「母(お母さん)」(95.7%)、「父(お父さん)」(69.1%)、「兄弟姉妹」(26.6%)、「祖父母(おじいさん、おばあさん)」(18.1%)、「施設の指導員など」(10.6%)となっています。



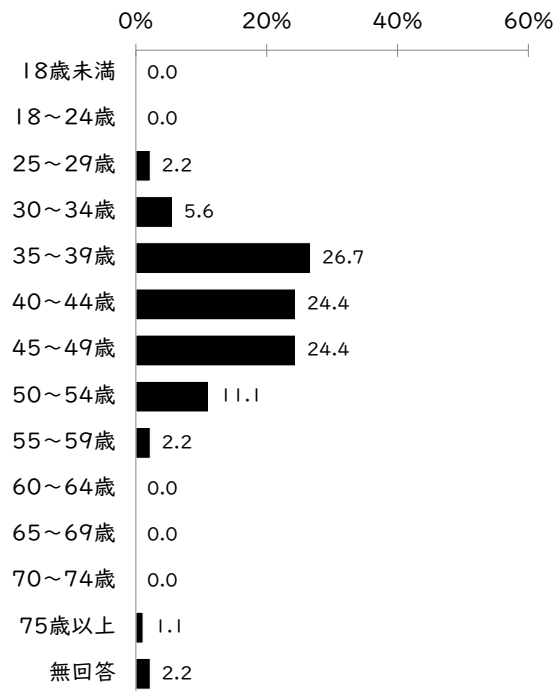
問15-1 「1.」～「4.」に複数の○をされた方については、主に介助をしてくれる方の番号を記入してください。

「母(お母さん)」(77.8%)となっています。



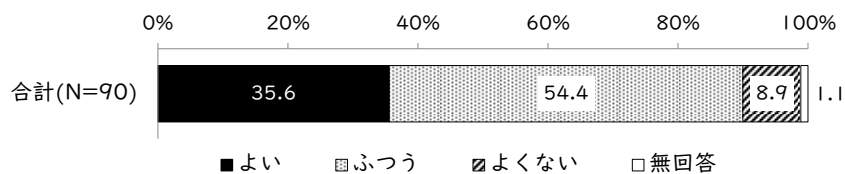
問16① あなたを介助してくれる家族で、主に介助をしてくれる方の年齢
 (令和5年7月1日現在) 満年齢

「35～39歳」(26.7%)、「40～44歳」(24.4%)、「45～49歳」(24.4%)を合わせた『35～49歳』は、75.5%となっています。



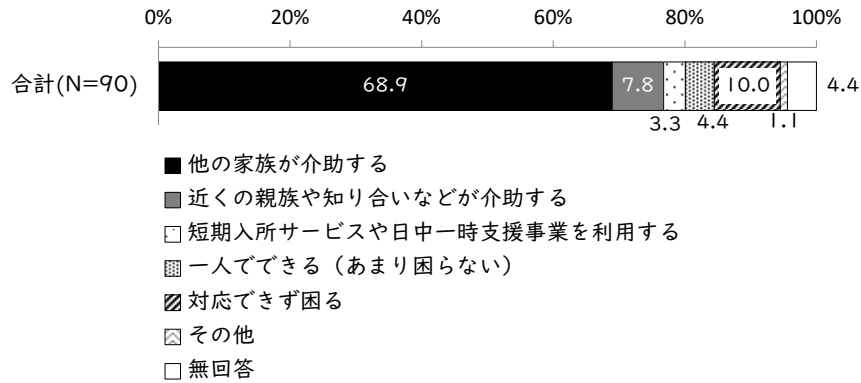
問16② 主に介助をしている家族の健康状態 (○は1つだけ)

「よい」(35.6%)と「ふつう」(54.4%)を合わせると9割で、「よくない」(8.9%)は1割となっています。



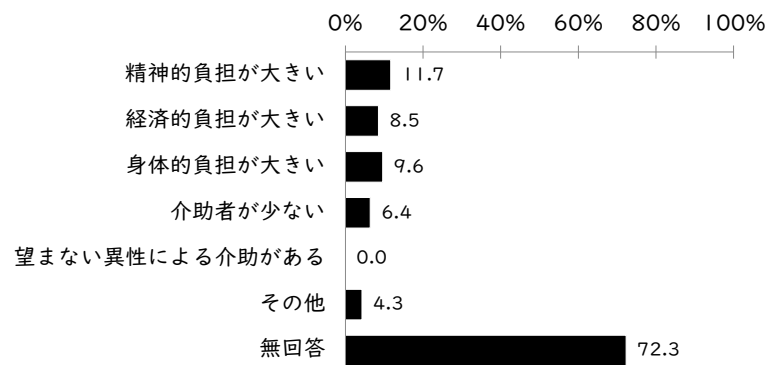
問16③ 主に介助をしている方が病気・事故・休養等で一時的に介助ができなくなった場合の対応についてどのようにされますか。(〇は1つだけ)

「他の家族が介助する」(68.9%)、「対応できず困る」(10.0%)となっています。



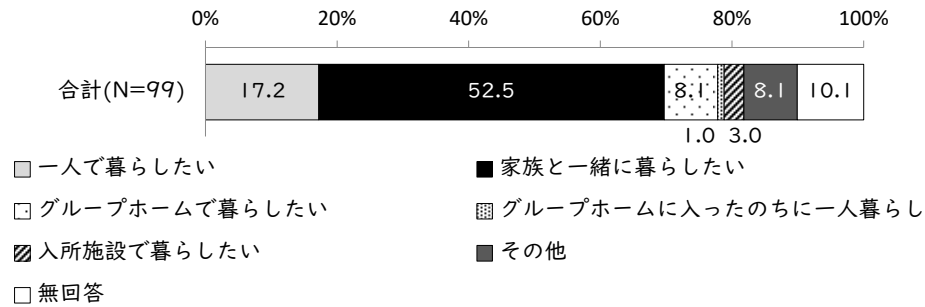
問16④ 介助を受けていて困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに〇)

「精神的負担が大きい」(11.7%)、「身体的負担が大きい」(9.6%)、「経済的負担が大きい」(8.5%)となつています。



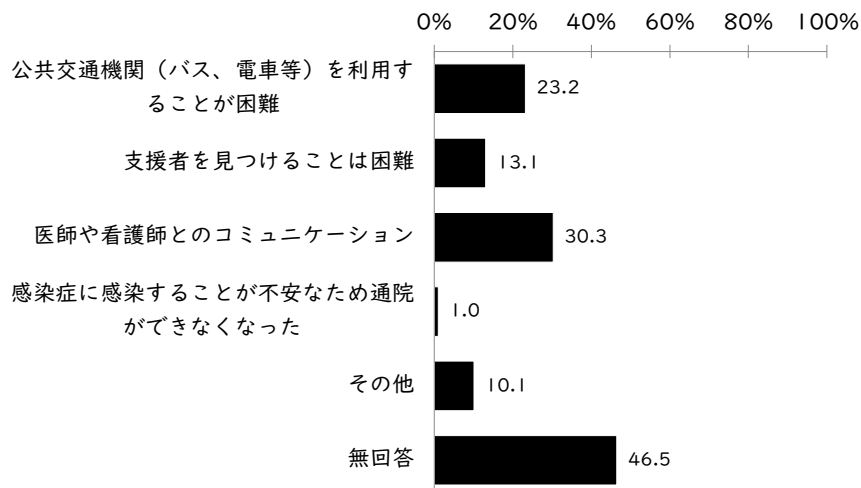
問17 あなたは将来どのように暮らせたらよいと思いますか。(○は1つだけ)

「家族と一緒に暮らしたい」(52.5%)、「一人で暮らしたい」(17.2%)、「グループホームで暮らしたい」(8.1%)となっています。



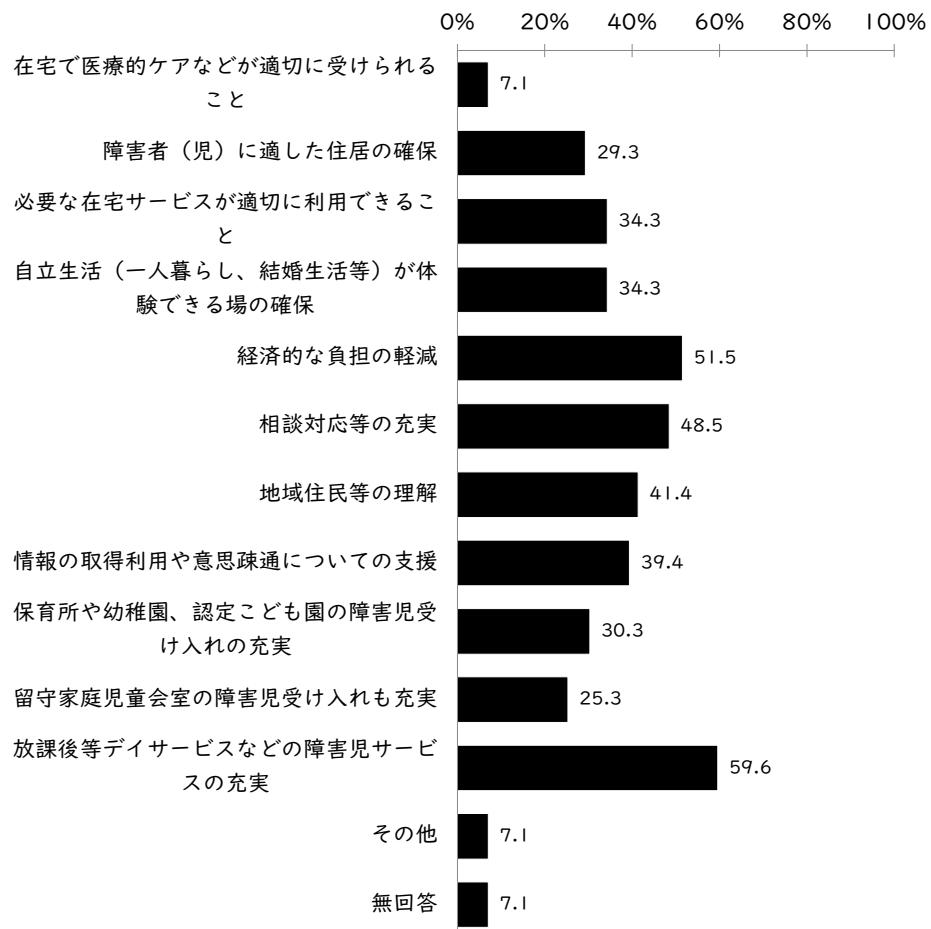
問18 あなたの通院時や医療を受けるにあたって困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「医者や看護師とのコミュニケーション」(30.3%)、「公共交通機関(バス・電車等)を利用することが困難」(23.2%)、「支援者を見つけることは困難」(13.1%)となっています。



問19 あなたが地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

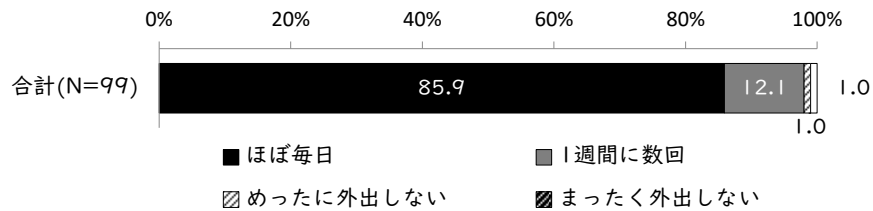
「放課後等デイサービスなどの障害児サービスの充実」(59.6%)、「経済的な負担の軽減」(51.5%)、「相談対応等の充実」(48.5%)、「地域住民等の理解」(41.4%)、「情報の取得利用や意思疎通についての支援」(39.4%)となっています。



4 日中活動や就労

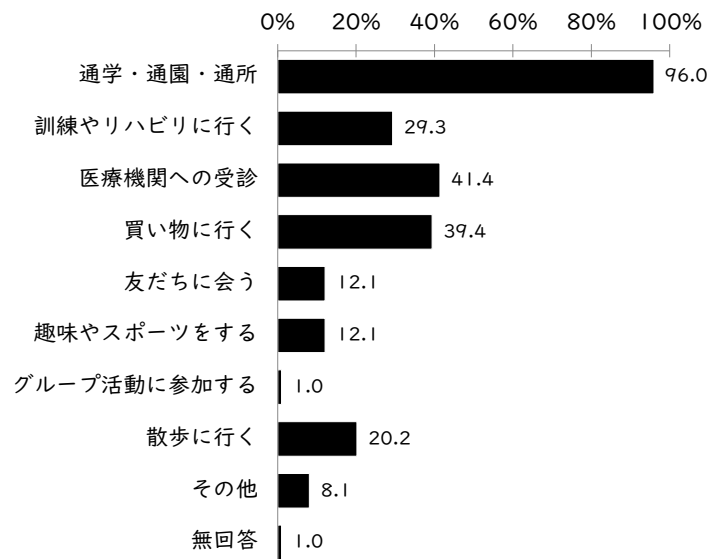
問20 あなたは1週間にどの程度の外出をしますか。

「ほぼ毎日」(85.9%)、「1週間に数回」(12.1%)となっています。



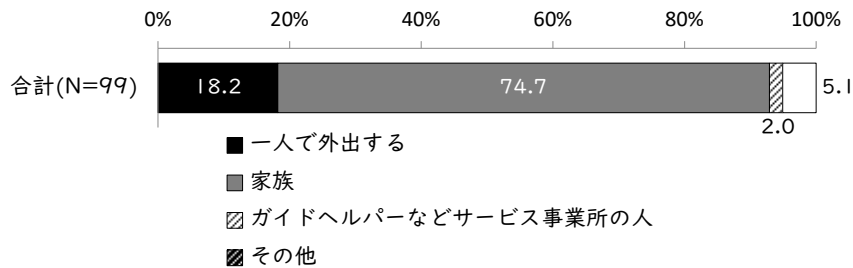
問21 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

「通学・通園・通所」(96.0%)、「医療機関への受診」(41.4%)、「買い物に行く」(39.4%)、「訓練やリハビリに行く」(29.3%)となっています。



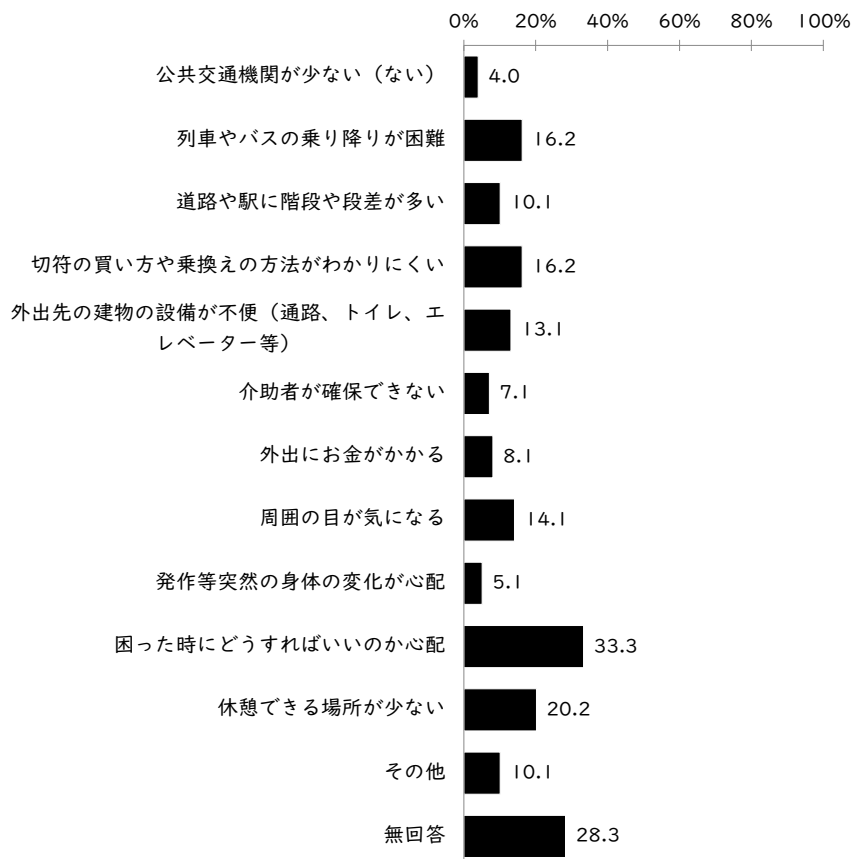
問22 あなたが外出する時、最も多く一緒に外出する方の番号に1つだけ○をしてください。

「一人で外出する」(18.2%)、「家族」(74.7%)となっています。



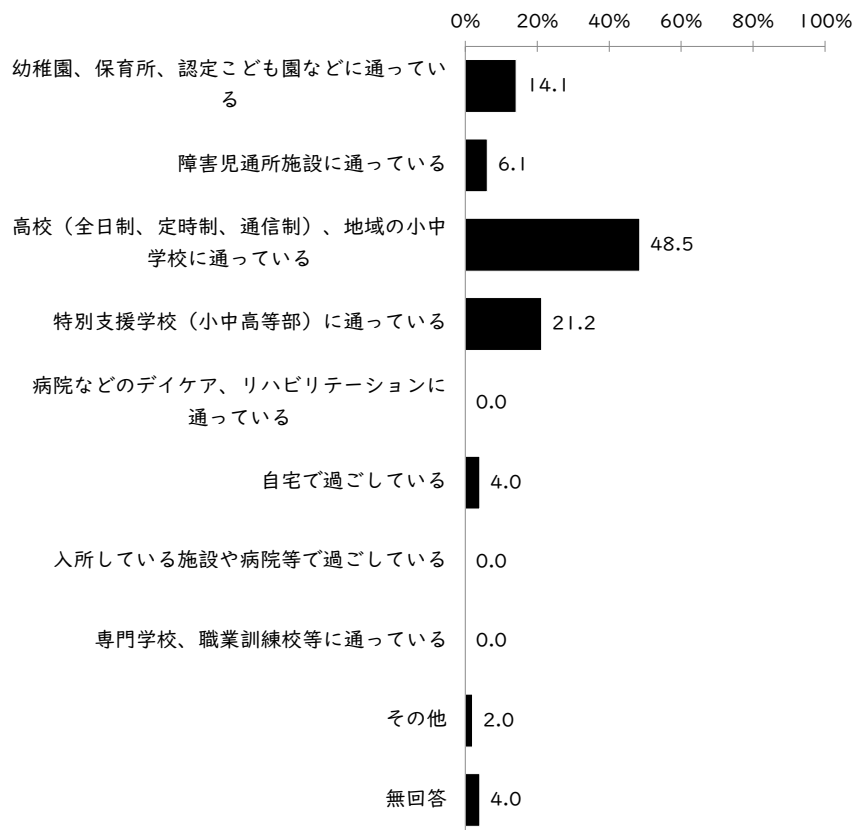
問23 外出について困ることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「困った時にどうすればいいのかが心配」(33.3%)、「休憩できる場所が少ない」(20.2%)、「列車やバスの乗り降りが困難」(16.2%)、「切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい」(16.2%)、「周囲の目が気になる」(14.1%)、「外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーター等)」(13.1%)となっています。



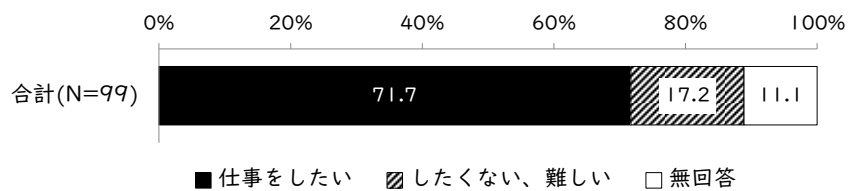
問24 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(〇は1つだけ)

「高校（全日制、定時制、通信制）、地域の小中学校に通っている」（48.5%）、
 「特別支援学校（小中高等部）に通っている」（21.2%）、
 「幼稚園、保育所、認定こども園などに通っている」（14.1%）となっています。



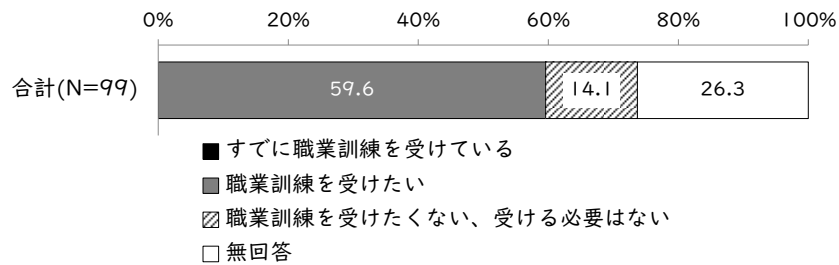
問25 あなたは今後、一般就労（収入を得る仕事）をしたいと思いませんか。(〇は1つだけ)

「仕事をしたい」（71.7%）、
 「したくない、難しい」（17.2%）となっています。



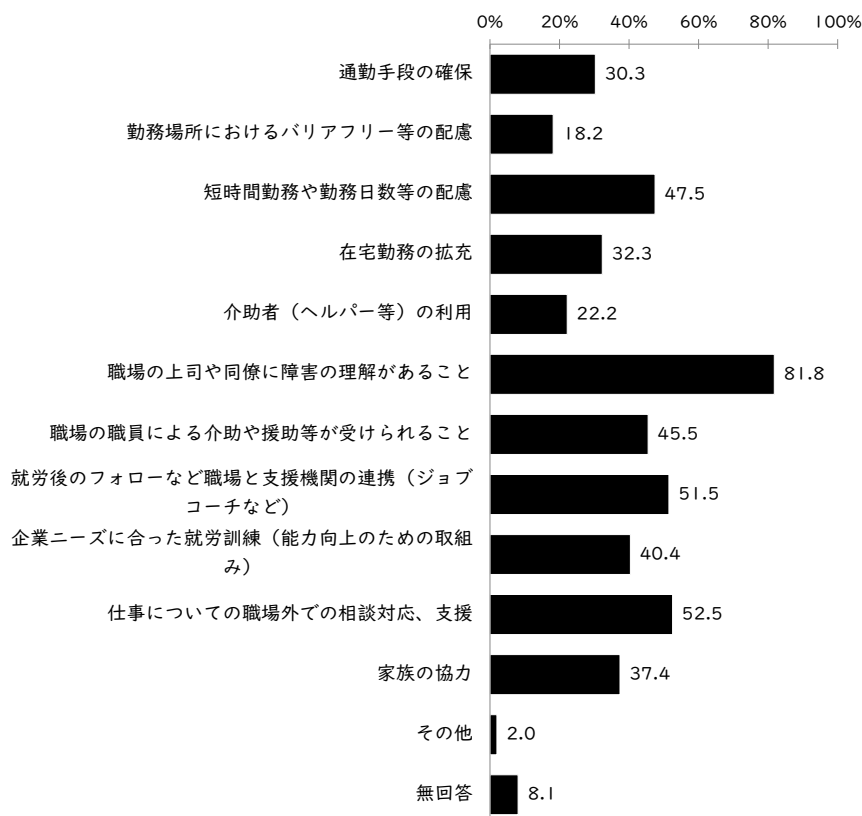
問26 一般就労をするために、職業訓練等を受けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

「職業訓練を受けたい」(59.6%)、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」(14.1%)となっています。



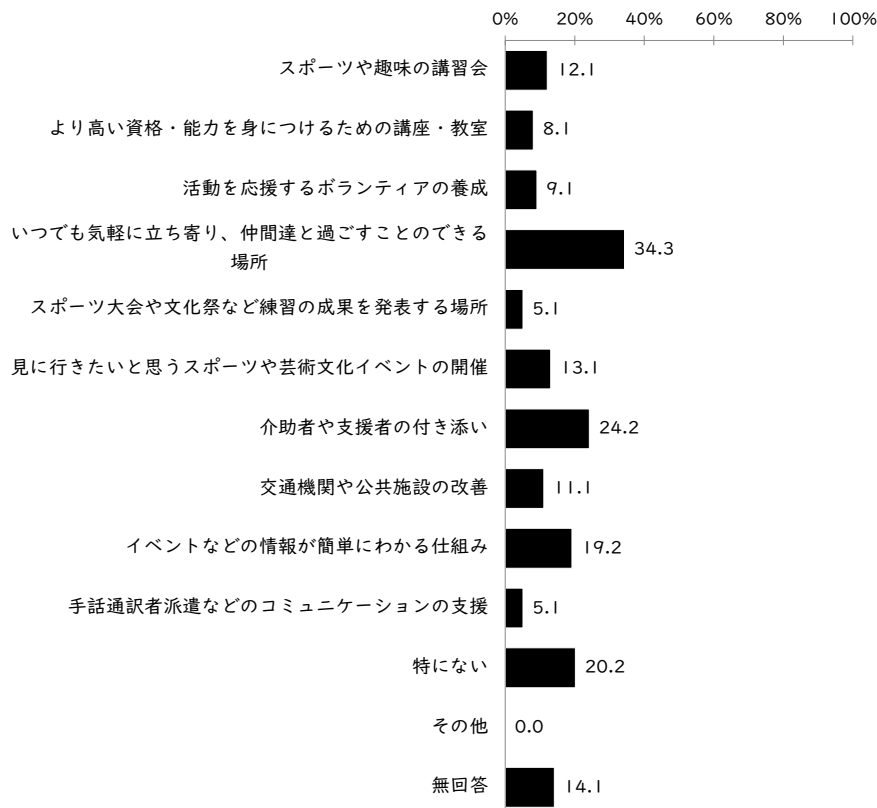
問27 あなたは、障害者の就労支援として、どのようなことが必要だと思えますか。(あてはまるものすべてに〇)

「職場の上司や同僚に障害の理解があること」(81.8%)、「仕事についての職場外での相談対応、支援」(52.5%)、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携(ジョブコーチなど)」(51.5%)、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」(47.5%)、「職場の職員による介助や援助等が受けられること」(45.5%)となっています。



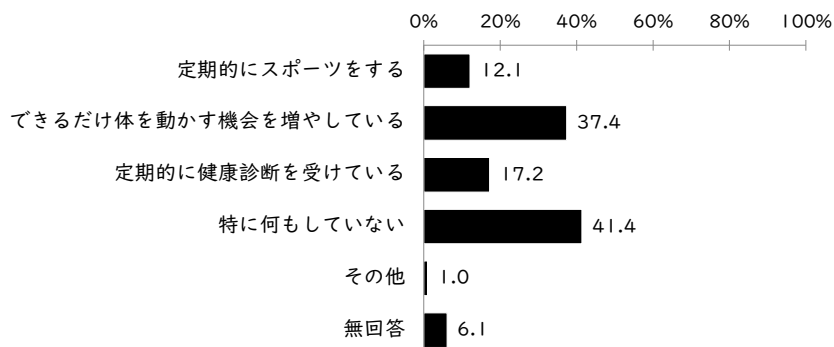
問28 あなたが余暇にしたい活動をするために何が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

「いつでも気軽に立ち寄り、仲間達と過ごすことのできる場所」(34.3%)、「介助者や支援者の付き添い」(24.2%)、「イベントなどの情報が簡単にわかる仕組み」(19.2%)、「見に行きたいと思うスポーツや芸術文化イベントの開催」(13.1%)、「特にない」(20.2%)となっています。



問29 あなたが健康のために取り組んでいる活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

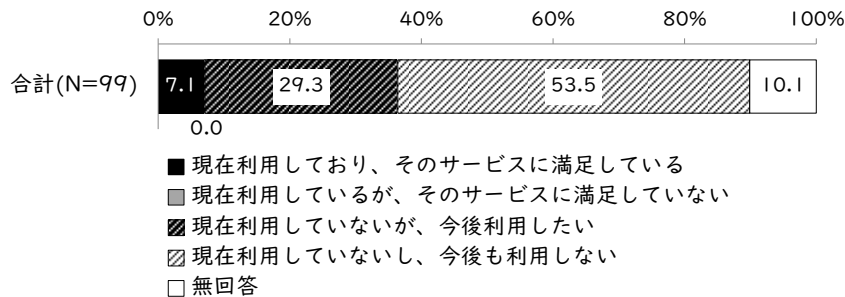
「できるだけ体を動かす機会を増やしている」(37.4%)、「定期的に健康診断を受けている」(17.2%)、「定期的にスポーツをする」(12.1%)、「特に何もしていない」(41.4%)となっています。



5 障害福祉サービス等の利用

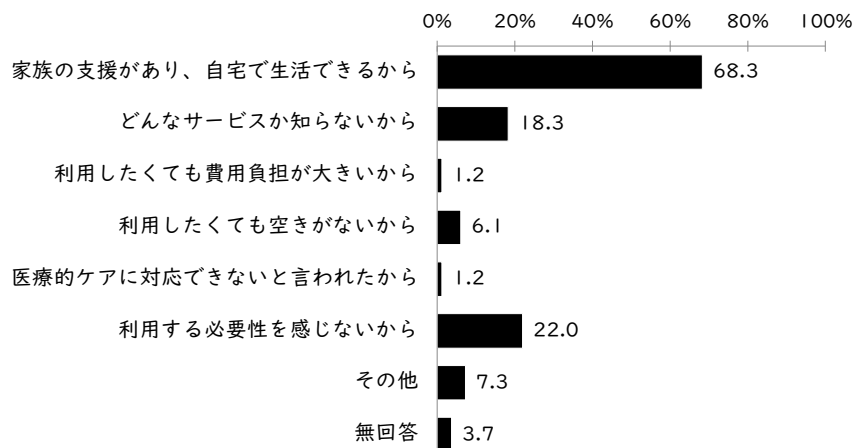
問30 利用の評価・意向①（居住系サービス）短期入所（ショートステイ）

居宅介護短期入所（ショートステイ）は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」（7.1%）、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」（0.0%）、「現在利用していないが、今後利用したい」（29.3%）、「現在利用していないし、今後利用しない」（53.5%）となっています。



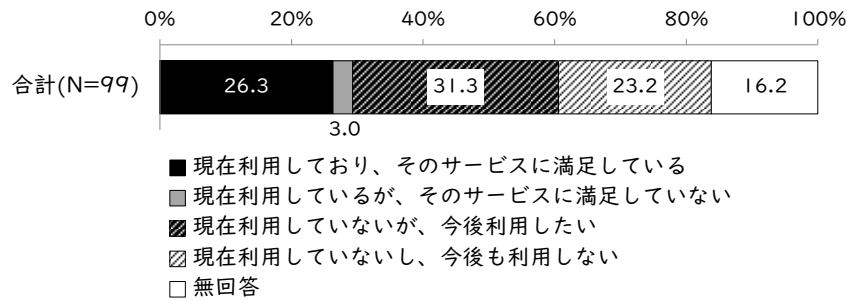
問30-1 «短期入所（ショートステイ）»を利用していない理由はなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

«短期入所（ショートステイ）»を利用していない理由は、「家族の支援があり、自宅で生活できるから」（68.3%）、「利用する必要性を感じないから」（22.0%）、「どんなサービスか知らないから」（18.3%）となっています。



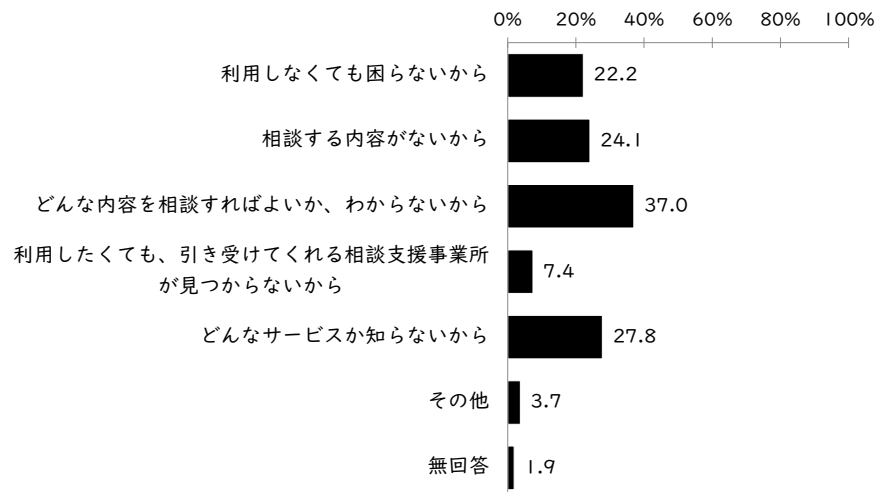
問30 利用の評価・意向② (相談支援) 相談支援

(相談支援) 相談支援は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(26.3%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(3.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(31.3%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(23.2%)となっています。



問30-2 <<相談支援>>を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

<<相談支援>>を利用していない理由は、「どんな内容を相談すればよいか、わからないから」(37.0%)、「どんなサービスかわからないから」(27.8%)、「相談する内容がないから」(24.1%)、「利用しなくても困らないから」(22.2%)、なっています。



問30 利用の評価・意向（障害児サービス）③～⑨

③ 児童発達支援

「現在利用しており、そのサービスに満足している」(25.3%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(4.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(5.1%)、「現在利用していないし、今後も利用しない」(35.4%)となっています。

④ 放課後等デイサービス

「現在利用しており、そのサービスに満足している」(42.4%) 現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(8.1%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(19.2%)、「現在利用していないし、今後も利用しない」(26.3%)となっています。

⑤ 保育所等訪問支援

「現在利用しており、そのサービスに満足している」(13.1%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(1.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(7.1%)、「現在利用していないし、今後も利用しない」(49.5%)となっています。

⑥ 医療型児童発達支援

「現在利用しており、そのサービスに満足している」(4.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(1.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(7.1%)、「現在利用していないし、今後も利用しない」(57.6%)となっています。

⑦ 居宅訪問型児童発達支援

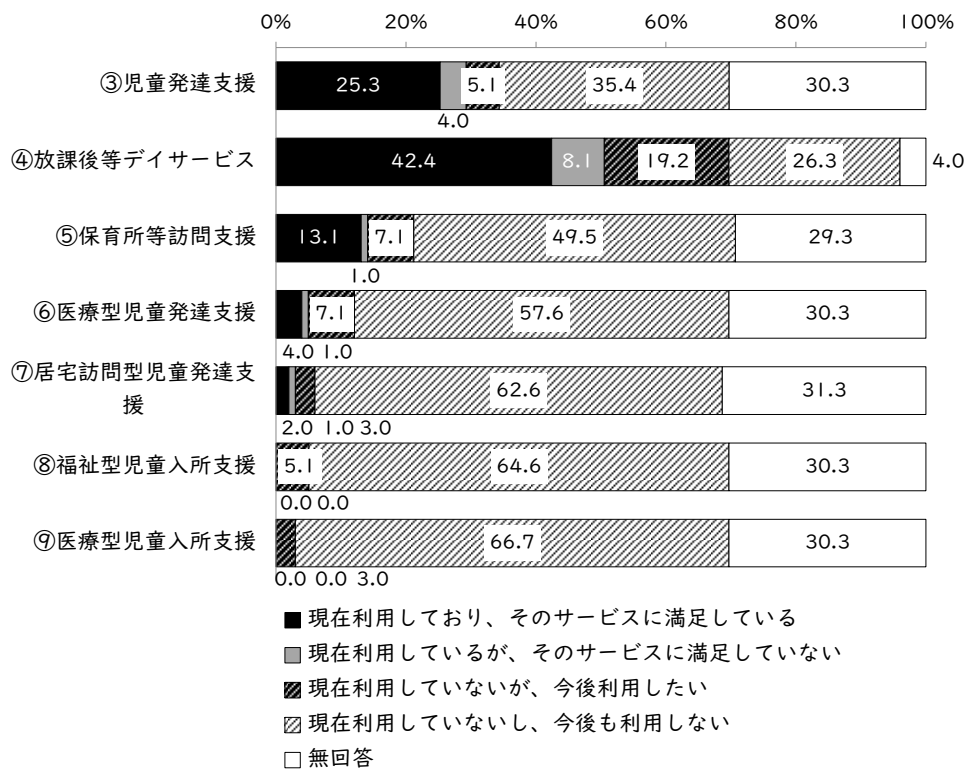
「現在利用しており、そのサービスに満足している」(2.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(1.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(3.0%)、「現在利用していないし、今後も利用しない」(62.6%)となっています。

⑧ 福祉型児童入所支援

「現在利用しており、そのサービスに満足している」(0.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(0.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(5.1%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(64.6%)となっています。

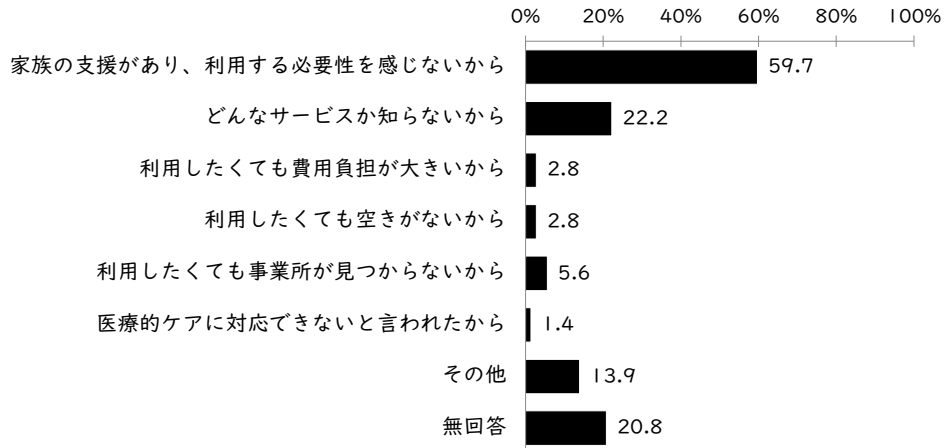
⑨ 医療型児童入所支援

「現在利用しており、そのサービスに満足している」(0.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(0.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(3.0%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(66.7%)となっています。



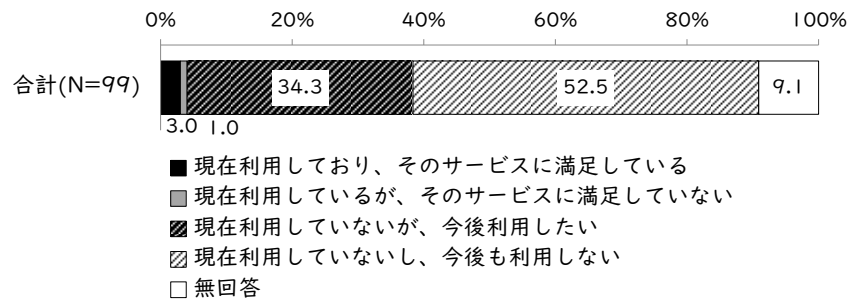
とい
問30-3 《障害児サービス》を利用していない理由はなぜですか。

《障害児サービス》を利用していない理由は、「家族の支援があり、自宅で生活できるから」(59.7%)、「どんなサービスか知らないから」(22.2%)となっています。



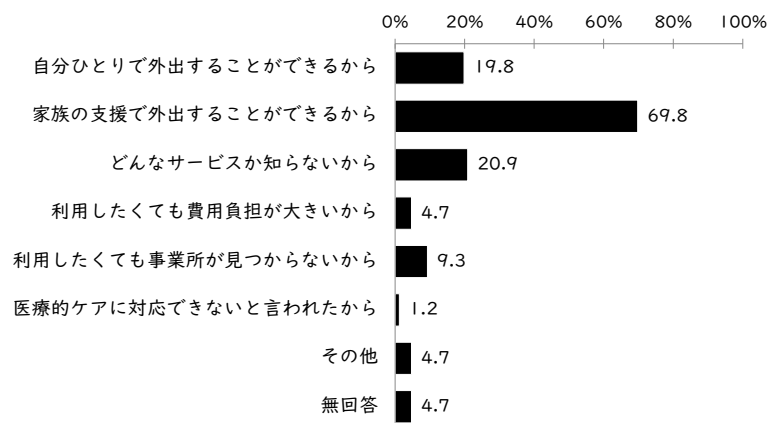
問30 利用の評価・意向⑩ (地域生活支援事業) 移動支援 (ガイドヘルパー)

(地域生活支援事業) 移動支援 (ガイドヘルパー) は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(3.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(1.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(34.3%)、「現在利用していないし、今後も利用しない」(52.5%)となっています。



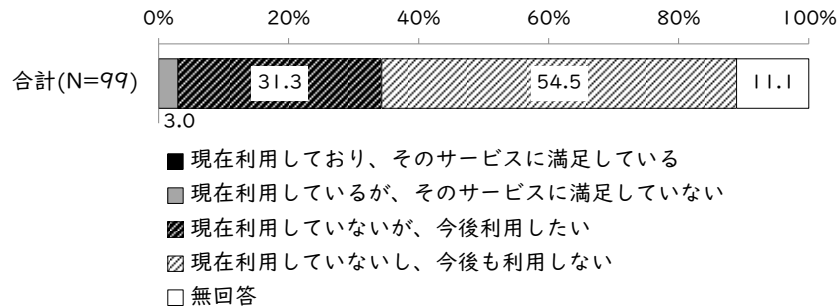
問30-4 移動支援 (ガイドヘルパー) を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

移動支援 (ガイドヘルパー) を利用していない理由は、「家族の支援で外出することができるから」(69.8%)、「どんなサービスが知らないから」(20.9%)、「自分ひとりで外出することができるから」(19.8%)となっています。



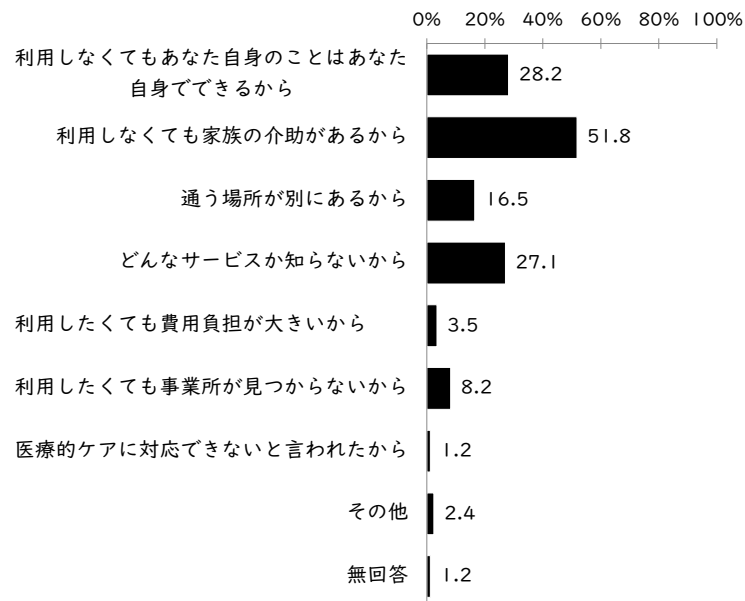
問30 利用の評価・意向① (地域生活支援事業) 日中一時支援

(地域生活支援事業) 日中一時支援は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(0.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(3.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(31.3%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(54.5%)となっています。



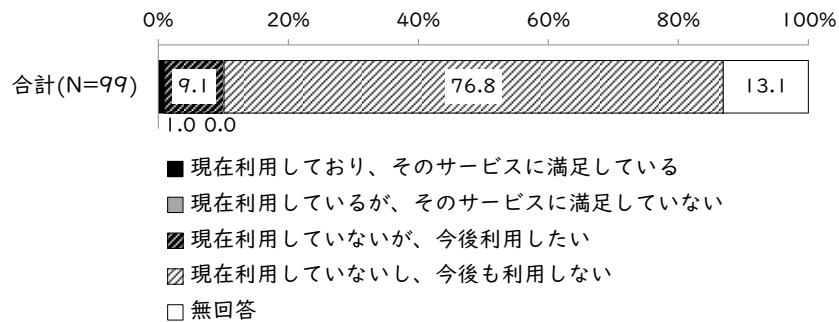
問30-5 日中一時支援事業を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

日中一時支援事業を利用していない理由は、「利用しなくても家族の介助があるから」(51.8%)、「どんなサービスか知らないから」(27.1%)、「利用しなくてもあなた自身のことはあなた自身でできるから」(28.2%)、「通う場所が別にあるから」(16.5%)となっています。



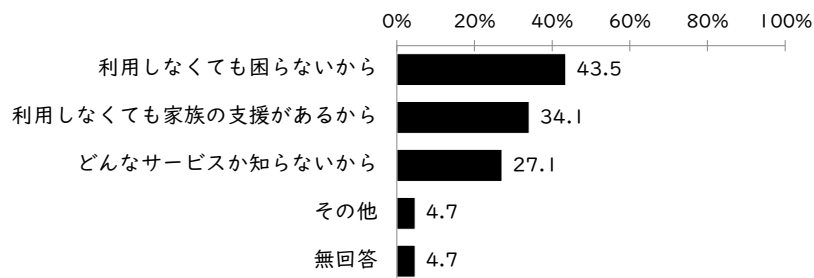
問30 利用の評価・意向⑫ (地域生活支援事業) 意思疎通支援事業

(地域生活支援事業) 意思疎通支援事業は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(1.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(0.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(9.1%)、「現在利用していないし、今後も利用しない」(76.8%)となっています。



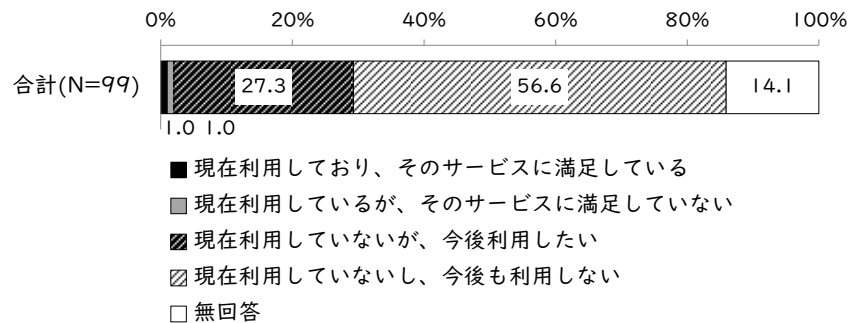
問30-6 意思疎通支援事業を利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

意思疎通支援事業を利用していない理由は、「利用しなくても困らないから」(43.5%)、「利用しなくても家族の支援があるから」(34.1%)、「どんなサービスか知らないから」(27.1%)となっています。



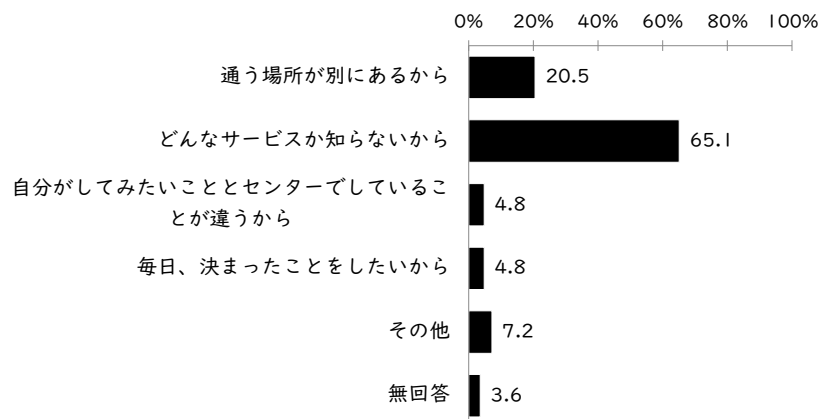
問30 利用の評価・意向⑬ (地域生活支援事業) 地域活動支援センター事業

(地域生活支援事業) 地域活動支援センター事業は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(1.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(1.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(27.3%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(56.6%)となっています。



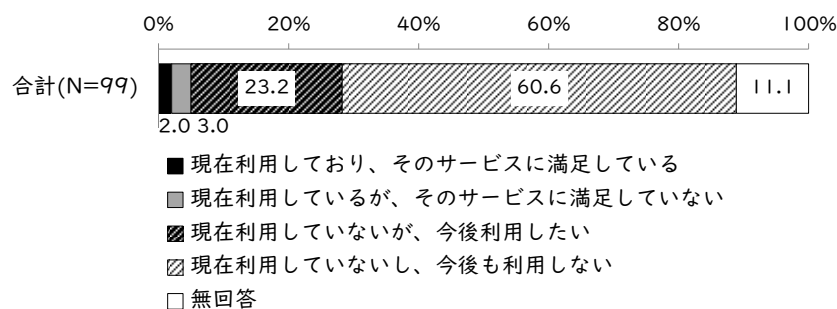
問30-7 地域活動支援センターでの創作や作業を利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動支援センターでの創作や作業を利用していない理由は、「どんなサービスか知らないから」(65.1%)、「通う場所が別にあるから」(20.5%)となっています。



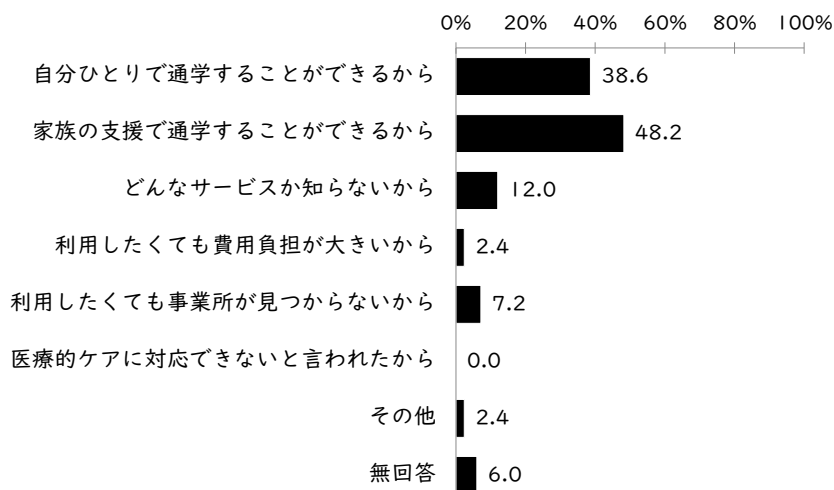
問30 利用の評価・意向⑭ (地域生活支援事業) 障害児通学支援 (通学ガイドヘルパー)

(地域生活支援事業) 障害児通学支援 (通学ガイドヘルパー) は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(2.0%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(3.0%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(23.2%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(60.6%)となっています。



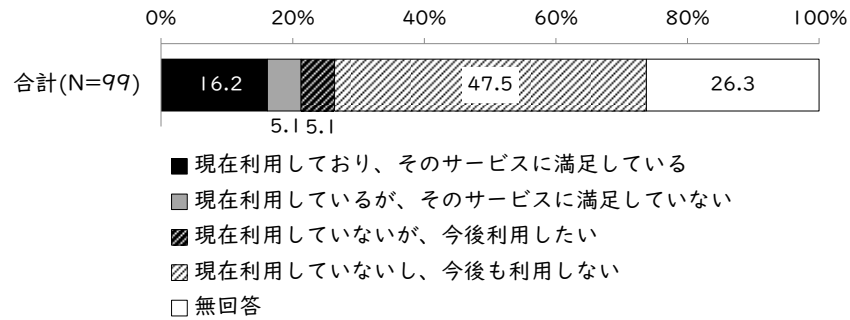
問30-8 通学ガイドを利用していない理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

通学ガイドを利用していない理由は、「家族の支援で通学することができるから」(48.2%)、「自分ひとりで通学することができるから」(38.6%)となっています。



問30 利用の評価・意向⑮ (地域生活支援事業) 補装具・日常生活用具

(地域生活支援事業) 補装具・日常生活用具は、「現在利用しており、そのサービスに満足している」(16.2%)、「現在利用しているが、そのサービスに満足していない」(5.1%)、「現在利用していないが、今後利用したい」(5.1%)、「現在利用していないし、今後利用しない」(47.5%)となっています。



とい ふまんりゆう ふくし
問3 | 不満理由 福祉サービス①～⑮

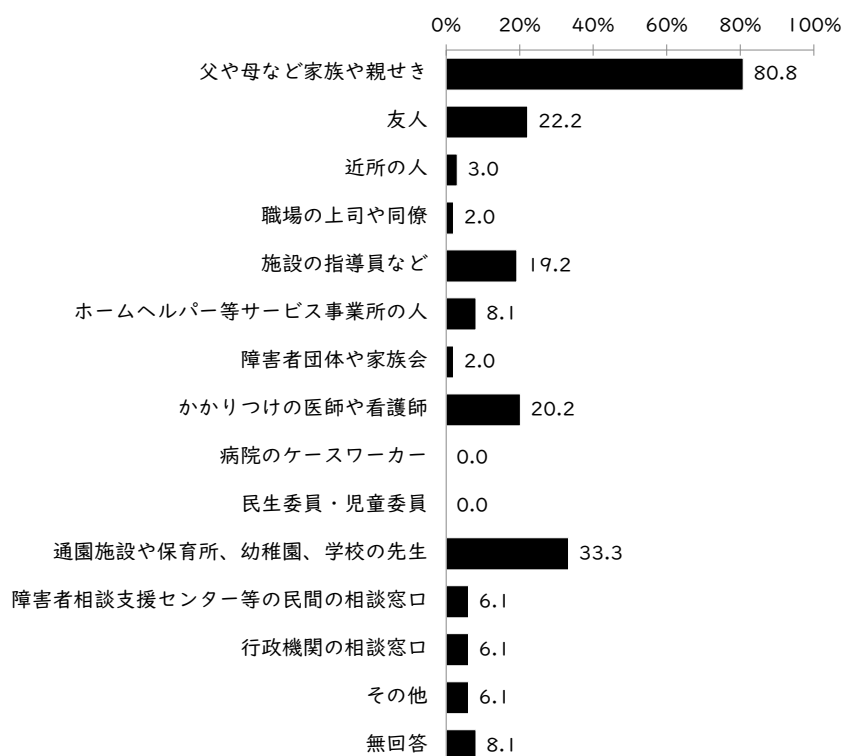
かいどうすう わかいどう すく
 回答数（ほとんどが無回答）が少ないため、データのみ掲載します。

構成比 (%)	供 内 容	サ ー ビ ス の 提	給 付 量	時 間 や 日 数、	職 員 の 対 応	そ の 他	無 回 答	合 計
(居住系サービス)	①短期入所（ショートステイ）	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
(相談支援)	②相談支援 (N=99)	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	98.0	100.0
(障害児サービス)	③児童発達支援 (N=99)	2.0	1.0	0.0	1.0	96.0	100.0	
	④放課後等デイサービス (N=99)	2.0	3.0	0.0	2.0	92.9	100.0	
	⑤保育所等訪問支援 (N=99)	0.0	1.0	0.0	1.0	98.0	100.0	
	⑥医療型児童発達支援 (N=99)	1.0	0.0	0.0	0.0	99.0	100.0	
	⑦居宅訪問型児童発達支援 (N=99)	0.0	1.0	0.0	0.0	99.0	100.0	
	⑧福祉型児童入所支援 (N=99)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
	⑨医療型児童入所支援 (N=99)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
(地域生活支援事業)	⑩移動支援（ガイドヘルパー） (N=99)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
	⑪日中一時支援 (N=99)	1.0	0.0	0.0	0.0	99.0	100.0	
	⑫意思疎通支援事業 (N=99)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
	⑬地域活動支援センター事業 (N=99)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	
	⑭障害児通学支援（通学ガイドヘルパー） (N=99)	0.0	0.0	0.0	2.0	98.0	100.0	
	⑮補装具・日常生活用具 (N=99)	2.0	0.0	0.0	2.0	96.0	100.0	

6 そうだんあいて 相談相手

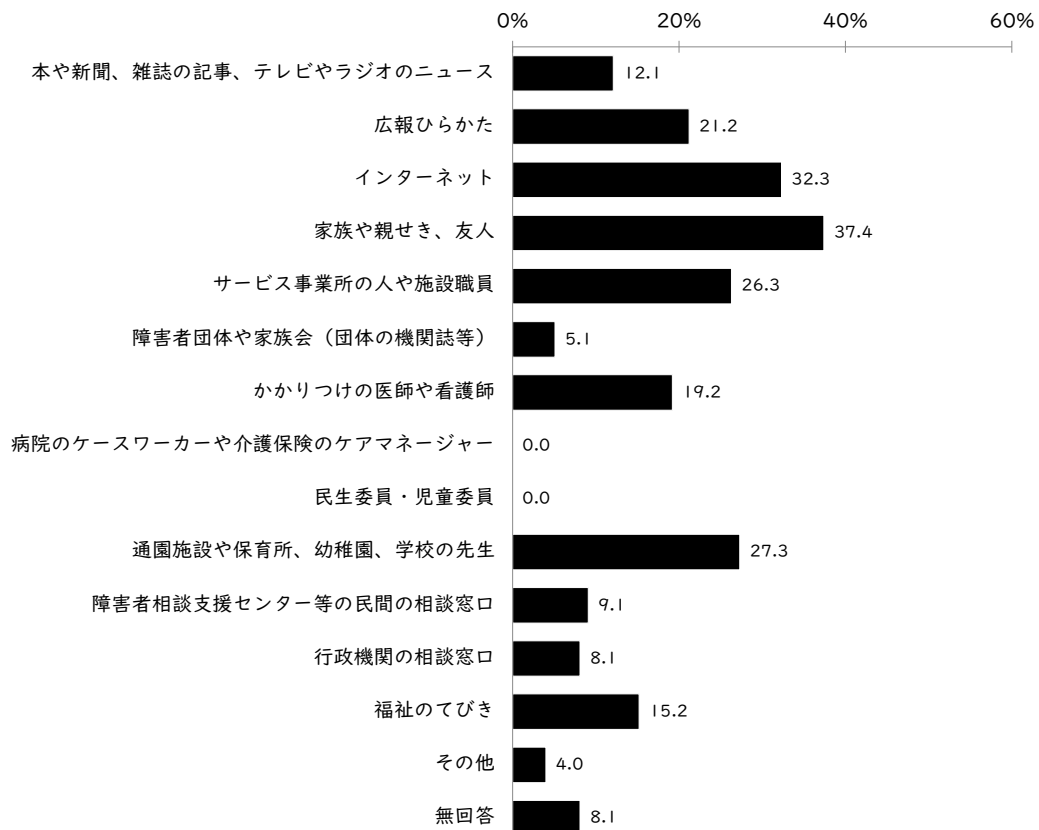
問32 あなたは、ふだん 普段、なや 悩みや、こま 困ったことをどなたにそうだん 相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

「父や母など家族や親せき」(80.8%)、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」(33.3%)、「友人」(22.2%)、「かかりつけの医師や看護師」(20.2%)、「施設の指導員など」(19.2%)となっています。



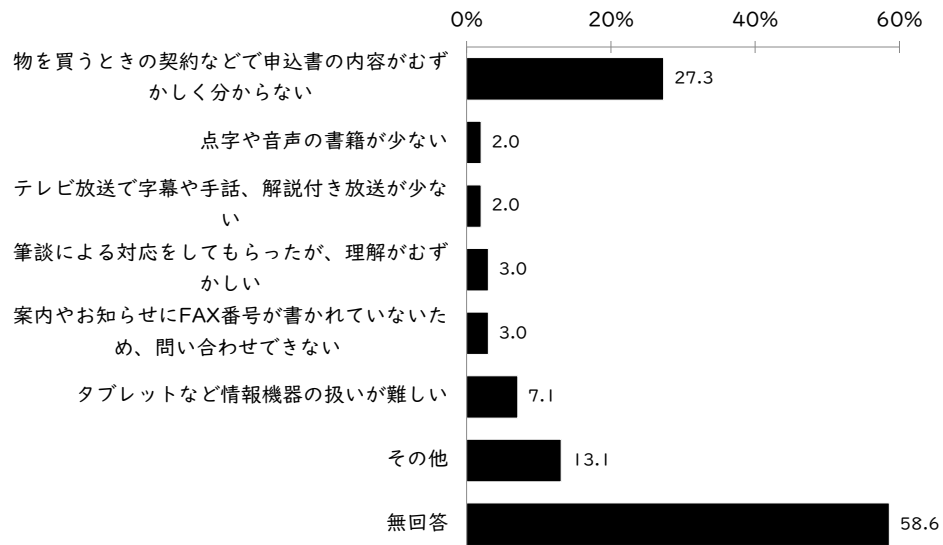
問33 あなたは障害のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから
 知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

「家族や親せき、友人」(37.4%)、「インターネット」(32.3%)、「通園施設や
 保育所、幼稚園、学校の先生」(27.3%)、「サービス事業所の人や施設職員」
 (26.3%)、「広報ひらかた」(21.2%)、「かかりつけの医師や看護師」(19.2%)、
 となっています。



問34 あなたは生活に必要な情報を得ることがむずかしく、困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

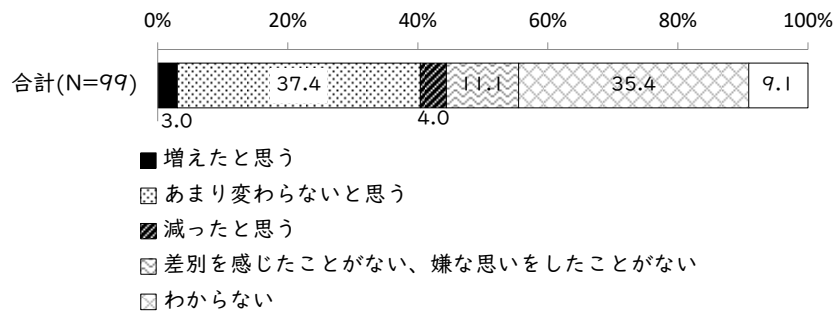
「物を買うときの契約などで申込書の内容がむずかしく分からない」(27.3%)、
「タブレットなど情報機器の扱いが難しい」(7.1%)、「その他」(13.1%)となっています。



7 権利擁護

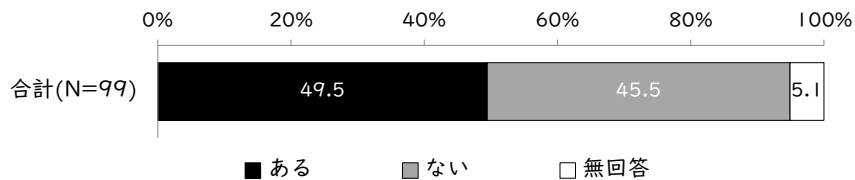
問35 あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをすることは、この3年間で変わったように思いますか。(○は1つだけ)

「あまり変わらないと思う」(37.4%)、「差別を感じたことがない、嫌な思いをしたことがない」(11.1%)、「減ったと思う」(4.0%)、「増えたと思う」(3.0%)、「わからない」(35.4%)となっています。



問36 あなたや保護者の方は、あなたに障害があることで嫌な思いをしたり、困ったりすることは、ありますか。(○は1つだけ)

「ある」(49.5%)、「ない」(45.5%)となっています。



問36-1 嫌な思い・困ったこと

主な項目（10%以上）でみると、

① 学校

「自分だけ違う対応をされる」（14.3%）、「障害に配慮してもらえなかった」（14.3%）、「無視されたり、仲間はずれにされる」（10.2%）、「その他」（12.2%）となっています。

② 職場

該当なし。

③ 仕事を探すとき

該当なし。

④ 外出先・余暇を楽しむとき

「じろじろ見られた」（55.1%）、「障害に配慮してもらえなかった」（10.2%）となっています。

⑤ 公共交通機関

「じろじろ見られた」（34.7%）となっています。

⑥ 病院等の医療機関

「じろじろ見られた」（26.5%）となっています。

⑦ 住んでいる地域

「じろじろ見られた」（32.7%）、「不親切・冷たい態度をとられた」（10.2%）となっています。

⑧ 福祉サービス（通所事業所・グループホーム・施設）など

該当なし。

⑨ 住まいを探すとき

該当なし。

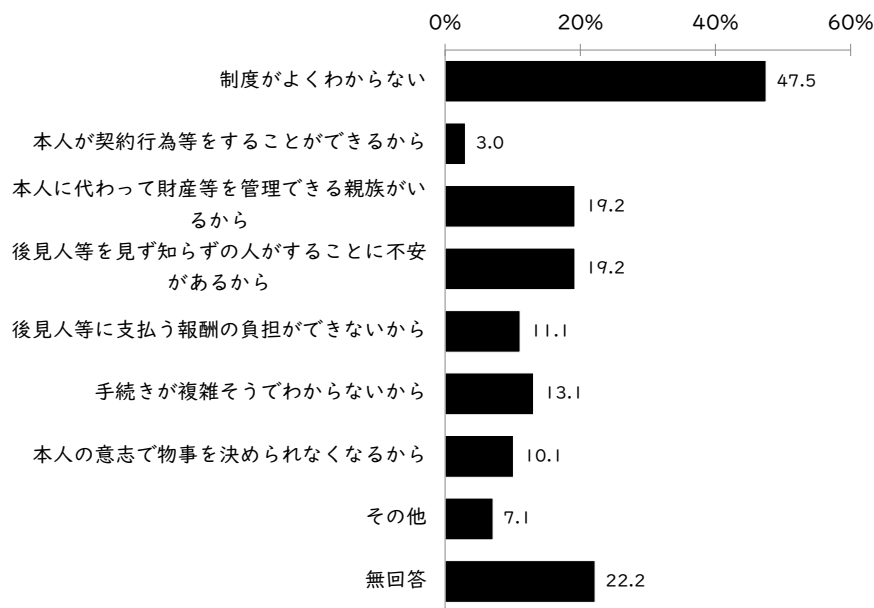
⑩ その他

該当なし。

回答数(人)	自分だけ 違う対応 をされる	暴言や嫌 味を言わ れる、暴 力を受け る	無視され たり、仲 間はずれ にされる	じろじろ 見られた	自分の意 見をきい てもらえ なかった	障害を理 由に断ら れた	障害に配 慮しても らえな かった	不親切・ 冷たい態 度をとら れた	その他	無回答	合計
①学校(N=49)	14.3	8.2	10.2	6.1	8.2	8.2	14.3	6.1	12.2	51.0	100.0
②職場(N=49)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	6.1	91.8	100.0
③仕事を探すとき(N=49)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	93.9	100.0
④外出先・余暇を楽しむとき(N=49)	4.1	8.2	2.0	55.1	4.1	6.1	10.2	8.2	6.1	28.6	100.0
⑤公共交通機関(N=49)	2.0	4.1	0.0	34.7	0.0	0.0	6.1	8.2	2.0	57.1	100.0
⑥病院等の医療機関(N=49)	0.0	2.0	0.0	26.5	0.0	0.0	6.1	2.0	4.1	65.3	100.0
⑦住んでいる地域(N=49)	4.1	4.1	6.1	32.7	2.0	4.1	6.1	10.2	6.1	57.1	100.0
⑧福祉サービス(通所事業所・グループホーム・施設)など(N=49)	2.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	4.1	4.1	2.0	93.9	100.0
⑨住まいを探すとき(N=49)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	95.9	100.0
⑩その他(N=49)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	95.9	100.0

問37 成年後見制度を利用している場合や利用を考慮しておられる場合、不安に考慮しておられること、また、利用を考慮してもらえない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

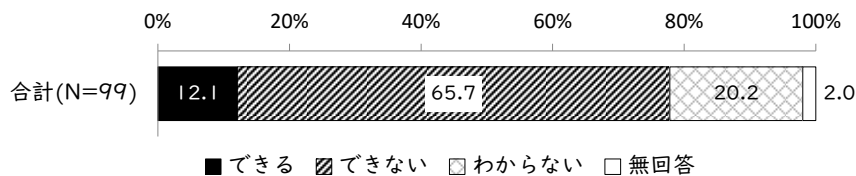
「制度がよくわからない」(47.5%)、「本人に代わって財産等を管理できる親族がいるから」(19.2%)、「後見人等を見ず知らずの人がすることに不安があるから」(19.2%)となっています。



8 さいがいじ ひなんとう 災害時の避難等

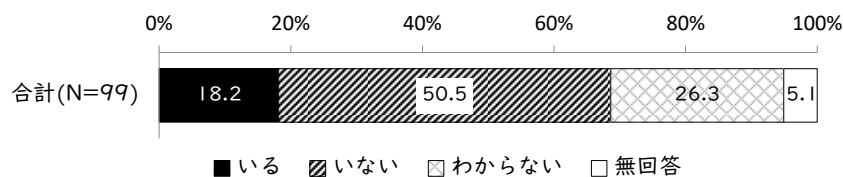
問38 あなたは、じしんとう さいがいじ ひとり ひなん
地震等の災害時に一人で避難できますか。(○は1つだけ)

「できる」(12.1%)、「できない」(65.7%)、「わからない」(20.2%)となっています。



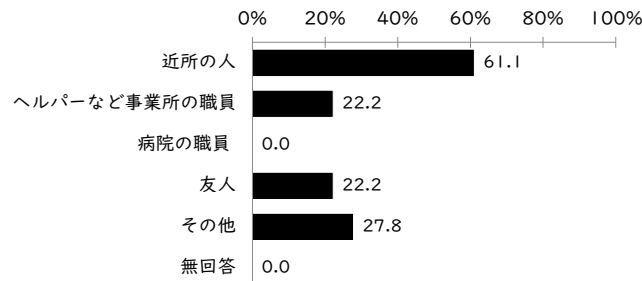
問39 かぞく ふざい ばあい さいがいじ ひなん とき たす ひと
家族が不在の場合、災害時に避難する時、あなたを助けてくれる人は
いますか。(○は1つだけ)

「いる」(18.2%)、「いない」(50.5%)、「わからない」(26.3%)となっています。



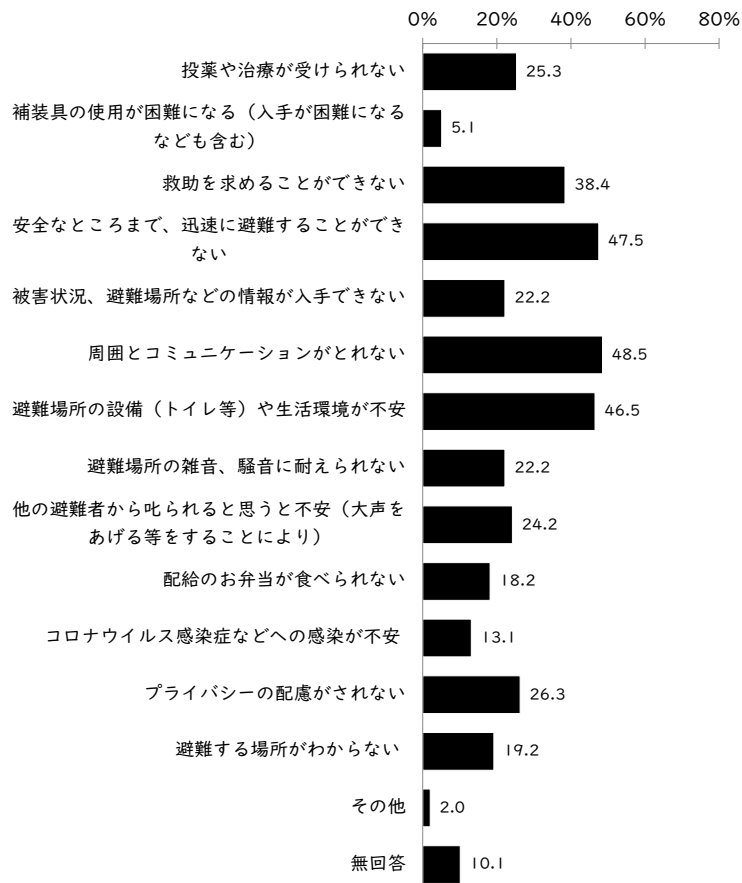
問39-1 助けてくれる人は誰ですか。(あてはまるものすべてに○)

「近所の人」(61.1%)、「友人・知人」(22.2%)、「ヘルパーなど事業所の職員」(22.2%)となっています。



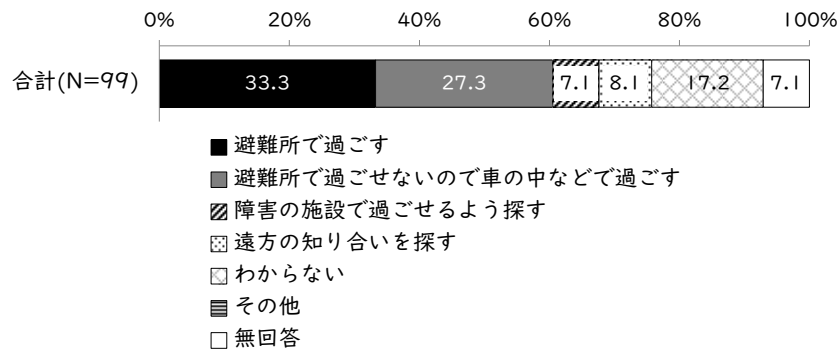
問40 地震等の災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「周囲とコミュニケーションがとれない」(48.5%)、「安全なところまで、迅速に避難することができない」(47.5%)、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」(46.5%)、「救助を求めることができない」(38.4%)となっています。



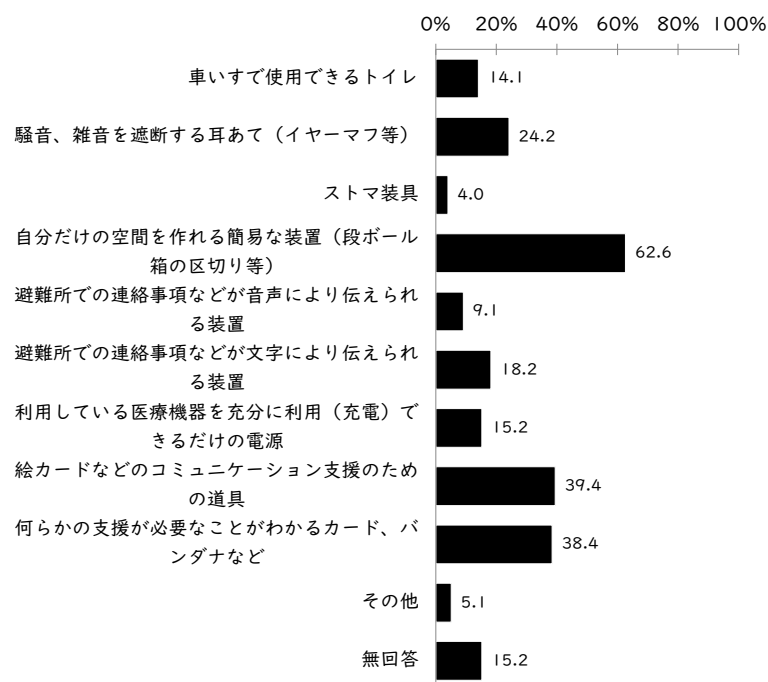
問4-1 災害時に自宅で過ごせなくなった場合、あなたはどのようにされますか。(○は1つだけ)

「避難所で過ごす」(33.3%)、「避難所で過ごせないので車の中などで過ごす」(27.3%)、「遠方の知り合いを探す」(8.1%)、「障害の施設で過ごせるよう探す」(7.1%)、「わからない」(17.2%)となっています。



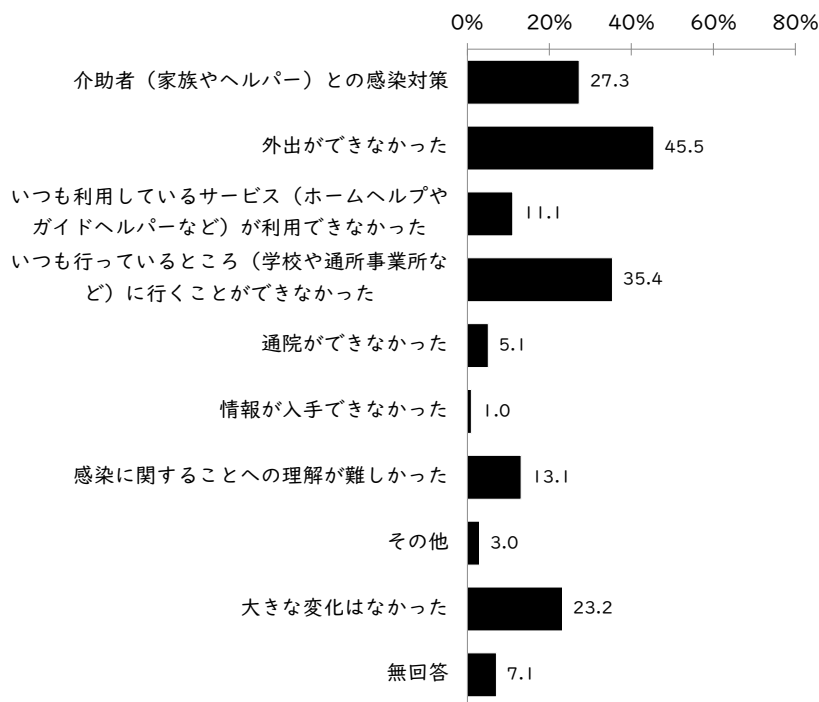
問4-2 避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物がありますか。(食料など、長く保存できないものは除いて、お答えください。)(あてはまるものすべてに○)

「自分だけの空間を作れる簡易な装置(段ボール箱の区切り等)」(62.6%)、「絵カードなどのコミュニケーション支援のための道具」(39.4%)、「何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンドナなど」(38.4%)となっています。



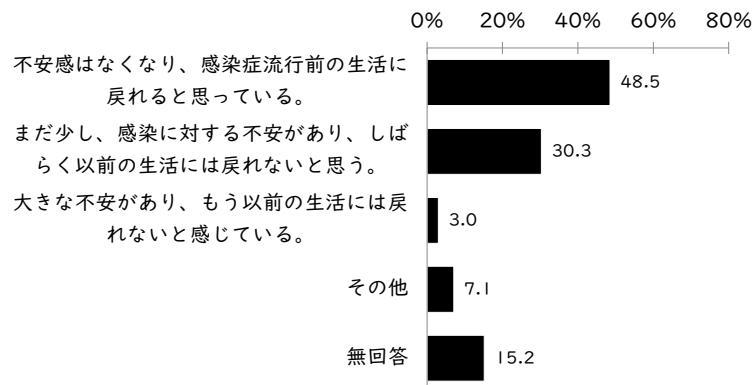
問4 3 新型コロナウイルス感染症流行により、生活にどのような変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

「外出ができなかった」(45.5%)、「いつも行っているところ(学校や通所事業所など)に行くことができなかった」(35.4%)、「介助者(家族やヘルパー)との感染対策」(27.3%)となっています。



問4 4 新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ位置づけされたことによって、お気持ちや、生活に変化がありましたか。(あてはまるものすべてに○)

「不安感はなくなり、感染症流行前の生活に戻れると思っている」(48.5%)、「まだ少し、感染に対する不安があり、しばらく以前の生活には戻れないと思う」(30.3%)となっています。



9 保護者への設問

問45 お子さんの心身の発達への課題について相談できる方はいますか。

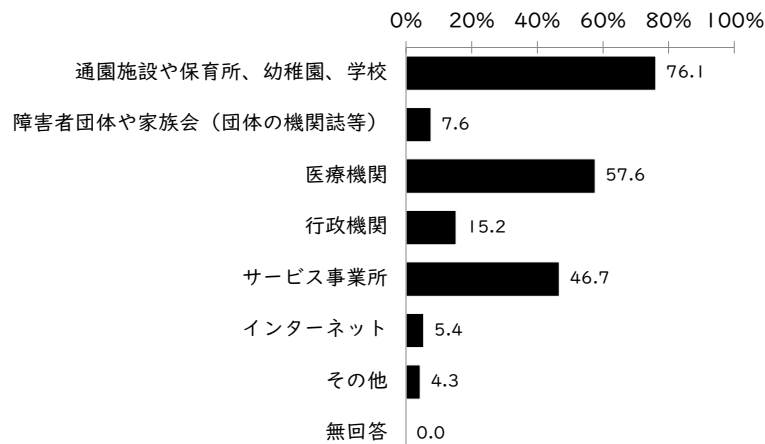
(○は1つだけ)

「いる」(92.9%)、「いない」(7.1%)となっています。



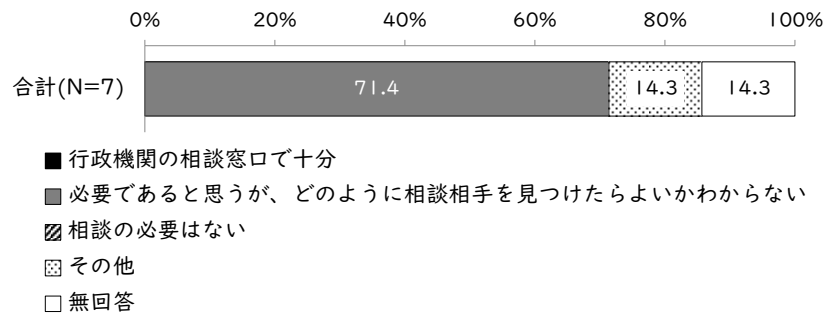
問45-1 その相談相手とはどこで知り合いましたか。(あてはまるものすべてに○)

「通園施設や保育所、幼稚園、学校」(76.1%)、「医療機関」(57.6%)、「サービス事業所」(46.7%)となっています。



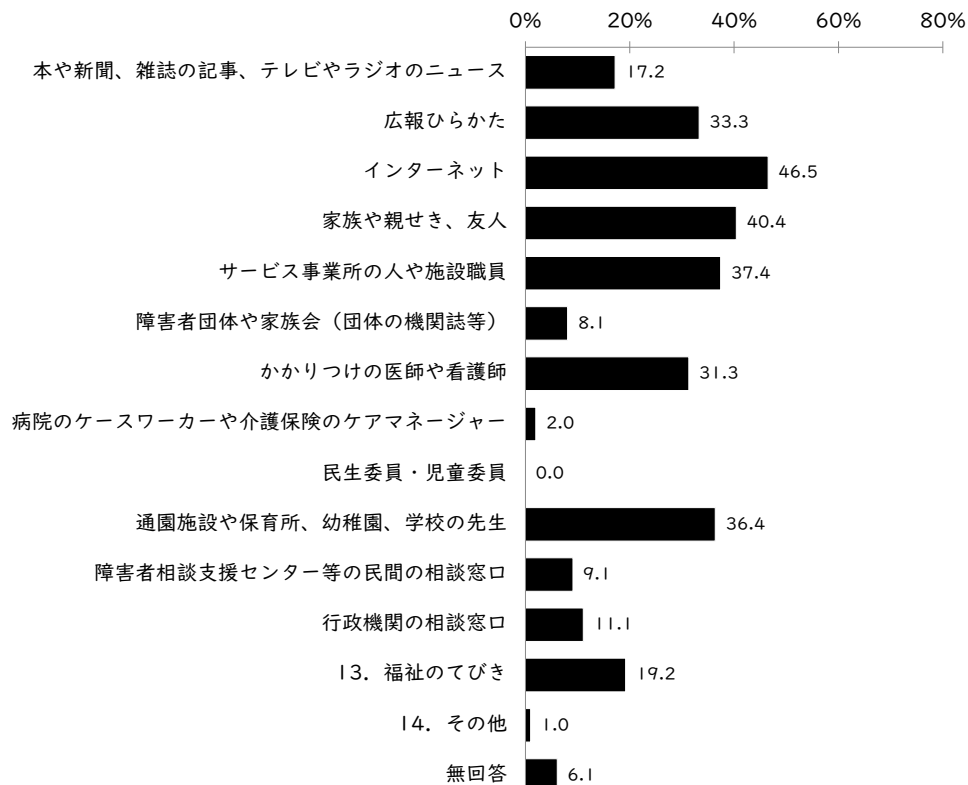
問45-2 (お子さんの心身の発達への課題について相談できない方)は、相談についてどのようにお考えですか。(〇はひとつだけ)

「必要であると思うが、どのように相談相手を見つけたらよいかわからない」(71.4%)、「相談の必要はない」(14.3%)となっています。



問46 障害のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから知ることが多いですか。(あてはまるものすべてに〇)

「インターネット」(46.5%)、「家族や親せき、友人」(40.4%)、「サービス事業所の人や施設職員」(37.4%)、「通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生」(36.4%)、「広報ひらかた」(33.3%)、「かかりつけの医師や看護師」(31.3%)となっています。



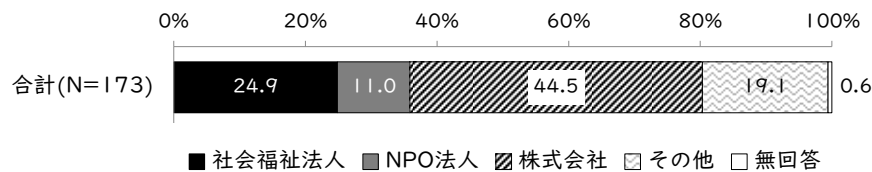
第4章 「サービス提供事業所」調査結果

1 提供しているサービスについて

問1 事業所概要

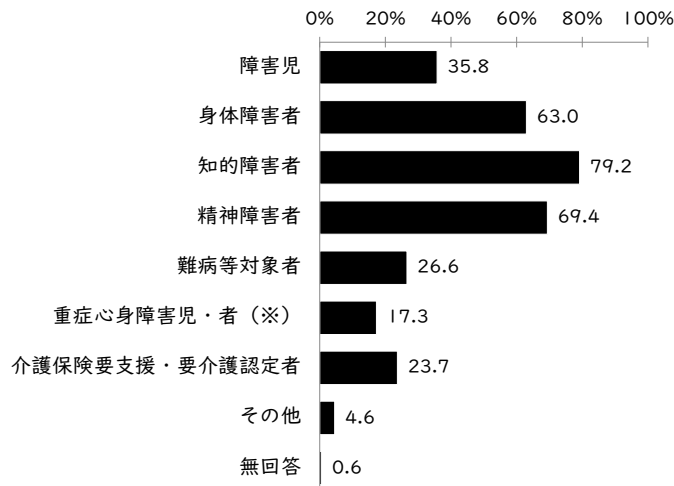
法人種別

「株式会社」(44.5%)、「社会福祉法人」(24.9%)、「NPO法人」(11.0%)、「その他」(19.1%)となっています。



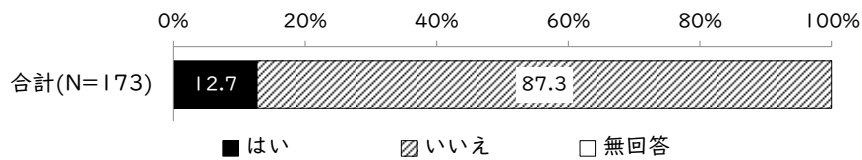
問2 サービス対象者をお答えください。

「知的障害者」(79.2%)、「精神障害者」(69.4%)、「身体障害者」(63.0%)、「障害児」(35.8%)、「難病等対象者」(26.6%)、「介護保険要支援・要介護認定者」(23.7%)となっています。



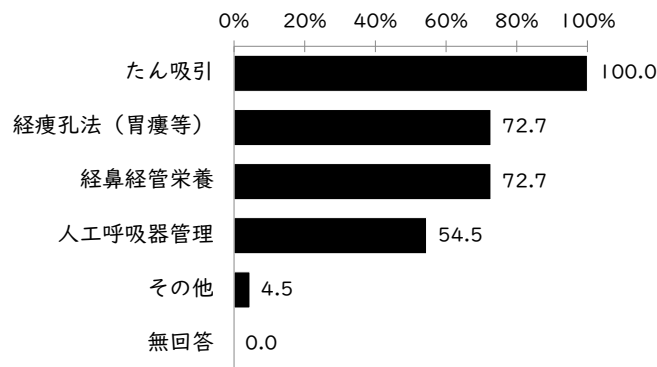
問3 現在、医療的ケアが必要な方の受け入れが可能ですか。

「はい」(12.7%)、「いいえ」(87.3%)となっています。



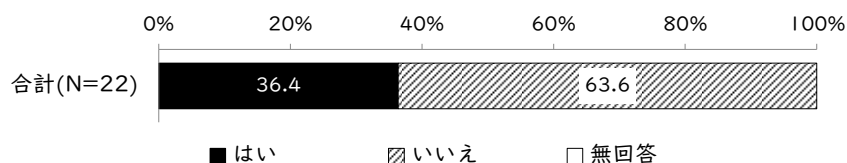
問4 問3で「はい」と回答された事業所事業所にお尋ねします。対応できる医療的ケアは何ですか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

「たん吸引」(100.0%)、「経瘦孔法(胃瘻等)」(72.7%)、「経鼻経管栄養」(72.7%)、「人工呼吸器管理」(54.5%)となっています。



問5 問3で「はい」と回答された事業所事業所にお尋ねします。提供が困難なため、医療的ケアが必要な方に対し、貴事業所のサービス利用をお断りしたことがありますか。

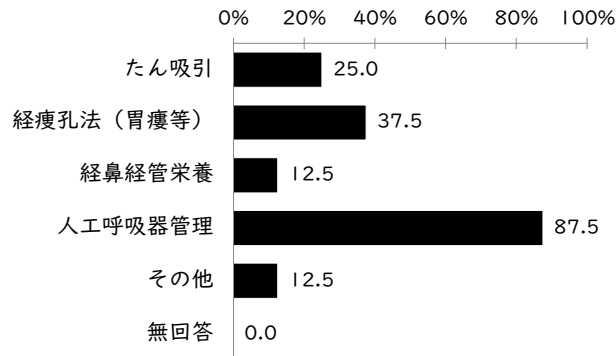
「はい」(36.4%)、「いいえ」(63.6%)となっています。



問6 問5で1.「はい」と回答された事業所にお尋ねします。貴事業所のサービス利用者に対して、対応ができなかった医療的ケアは何ですか。

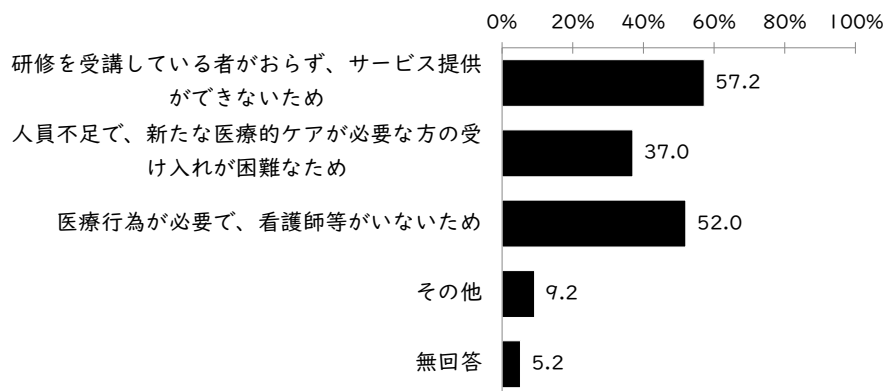
(あてはまる番号すべてに○をしてください)

「人工呼吸器管理」(87.5%)、「経瘦孔法(胃瘻等)」(37.5%)、「たん吸引」(25.0%)となっています。



問7 すべての事業所にお尋ねします。医療的ケアに対応できない(できなかった)理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をしてください。

「研修を受講している者がおらず、サービス提供ができないため」(57.2%)、「医療行為が必要で、看護師等がないため」(52.0%)、「人員不足で、新たな医療的ケアが必要な方の受け入れが困難なため」(37.0%)となっています。



問8 すべての事業所にお尋ねします。次に掲げる各サービスについて、現在、貴事業所が提供している（事業者指定を受けている等）場合は、①欄に○印をつけ、②定員、③令和5年6月の実利用人数、④うち枚方市（が援護の実施者である利用者）の実人数、⑤令和5年6月の延べ利用量、⑥うち枚方市（同）の延べ利用量を各欄に記入してください。

サービス種別の定員、実利用人数、延べ利用量は以下の通りとなっています。

表 問8 サービス種別の定員、実利用人数、延べ利用量

サービス名	居宅介護② 定員	③実利用人数 人		⑤延べ利用量 時間	
			うち枚方市		うち枚方市
1 居宅介護（ホームヘルプ）	—	691	634	18,764	18,248
2 重度訪問介護	—	52	47	5,236	5,413
3 行動援護	—	15	10	402	286
4 重度障害者等包括支援	—	0	0	0	0
5 同行援護	—	43	37	723	611
6 短期入所	80	81	114	488	384
7 生活介護	680	836	584	12,542	8,732
8 療養介護	400	390	42	11,625	1,260
9 施設入所支援	79	74	53	1,042	412
10 自立訓練（生活訓練）	20	202	99	303	148
11 自立訓練（機能訓練）	0	0	0	0	0
12 就労移行支援	125	318	277	1,984	1,453
13 就労継続支援(A型)	70	75	54	1,427	584
14 就労継続支援(B型)	509	708	630	7,125	5,888
15 就労定着支援	40	54	43	138	38
16 グループホーム	211	191	147	3,230	2,961
17 自立生活援助	0	0	0	0	0
18 移動支援	—	483	424	8,199	7,734
19 地域活動支援センター	—	325	235	1,875	1,643
20 日中一時支援	36	120	54	453	368
21 地域相談支援	—	98	96	289	285
22 計画相談支援	—	96	90	51	48
23 児童発達支援	172	390	241	1,033	905
24 医療型児童発達支援	20	61	59	370	359
25 居宅訪問型児童発達支援	0	0	0	0	0
26 放課後等デイサービス	250	1,912	1,423	3,974	3,501
27 保育所等訪問支援	—	68	58	104	92
28 障害児相談支援	—	39	35	24	21
29 福祉型障害児入所施設	0	0	0	0	0
30 医療型障害児入所施設	0	0	0	0	0

問9 次に掲げる各サービスについて、現在、サービスを提供している事業所にお尋ねします。

各サービスについて、①利用者数の増減、②貴事業所が考えている利用者ニーズに対する方策、③その方策の実施予定時期、④従業員または定員の増減予定人数について、各選択肢から一つだけ選んで記入してください。

① 利用者の増減（2%以上を表示）

「増えている」では、居宅介護（ホームヘルプ）6.4%、居宅介護（ホームヘルプ）6.4%、児童発達支援2.9%、重度訪問介護2.3%、就労継続支援(B型) 2.3%、移動支援2.3%となっています。

「減っている」では、居宅介護（ホームヘルプ）6.9%、就労継続支援(B型)3.5%、生活介護2.9%となっています。

「変わらない」では、居宅介護（ホームヘルプ）13.3%、重度訪問介護4.6%、就労継続支援(B型) 4.0%、生活介護3.5%、移動支援3.5%、同行援護3.5%、放課後等デイサービス 2.3%となっています。

② 利用者ニーズに対する方策

「定員増」では、居宅介護（ホームヘルプ）13.3%となっています。

「新規開設」では、該当なし。

「廃止」では、該当なし。

「変更なし」では、居宅介護（ホームヘルプ）11.6%、移動支援4.6%、重度訪問介護4.0%、同行援護2.9%となっています。

「その他」では、就労継続支援(B型)8.1%、放課後等デイサービス 3.5%、生活介護2.9%、児童発達支援2.3%となっています。

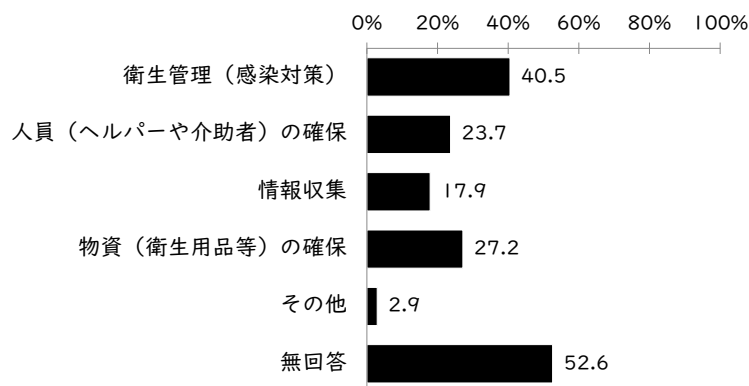
ひょう かく べつりようしやすう そうげん きじぎようしよ かんが りようしや たい ほうさく
 表 各サービス別利用者数の増減、貴事業所が考えている利用者ニーズに対する方策

サービス名	問9 ①利用者数の増減						問9 ②利用者ニーズに対する方策							
	増えている	減っている	変わらない	わからない	無回答	合計	定員増	定員減	新規開設	廃止	変更なし	その他	無回答	合計
1 居宅介護（ホームヘルプ）	6.4	6.9	13.3	0.0	73.4	100.0	13.3	1.7	0.6	0.0	11.6	0.0	72.8	100.0
2 重度訪問介護	2.3	0.0	4.6	0.0	93.1	100.0	1.7	0.0	0.0	0.0	4.0	0.6	93.6	100.0
3 行動援護	0.6	0.0	0.6	0.6	98.3	100.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	98.3	100.0
4 重度障害者等包括支援	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
5 同行援護	0.6	0.0	3.5	0.0	96.0	100.0	1.2	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	96.0	100.0
6 短期入所	0.6	0.6	0.6	0.0	98.3	100.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	1.2	97.7	100.0
7 生活介護	1.2	2.9	3.5	0.0	92.5	100.0	1.7	0.0	0.6	0.0	0.0	2.9	93.1	100.0
8 療養介護	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
9 施設入所支援	0.0	0.0	0.6	0.0	99.4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
10 自立訓練（生活訓練）	0.0	0.0	0.6	0.0	99.4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	99.4	100.0
11 自立訓練（機能訓練）	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
12 就労移行支援	0.6	0.6	1.2	0.0	97.7	100.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	1.2	98.3	100.0
13 就労継続支援(A型)	0.6	0.0	1.2	0.0	98.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	98.3	100.0
14 就労継続支援(B型)	2.3	3.5	4.0	0.0	90.2	100.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.1	90.2	100.0
15 就労定着支援	0.6	0.6	0.6	0.0	98.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	98.3	100.0
16 グループホーム	1.2	1.2	1.2	0.6	96.0	100.0	1.7	0.0	0.6	0.0	0.6	1.2	96.0	100.0
17 自立生活援助	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
18 移動支援	2.3	0.6	3.5	0.0	93.6	100.0	1.2	0.0	0.0	0.0	4.6	0.0	94.2	100.0
19 地域活動支援センター	1.2	0.6	0.0	0.0	98.3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	98.3	100.0
20 日中一時支援	0.6	0.0	1.2	0.0	98.3	100.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	98.3	100.0
21 地域相談支援	0.0	0.0	0.6	0.0	99.4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	99.4	100.0
22 計画相談支援	0.0	0.6	1.7	0.0	97.7	100.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.7	0.0	97.7	100.0
23 児童発達支援	2.9	0.6	0.6	0.0	96.0	100.0	0.6	0.0	1.2	0.0	0.0	2.3	96.0	100.0
24 医療型児童発達支援	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
25 居宅訪問型児童発達支援	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
26 放課後等デイサービス	1.7	0.6	2.3	0.0	95.4	100.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	3.5	95.4	100.0
27 保育所等訪問支援	1.7	0.0	0.0	0.0	98.3	100.0	0.6	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	98.3	100.0
28 障害児相談支援	0.0	0.6	0.6	0.0	98.8	100.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	98.8	100.0
29 福祉型障害児入所施設	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0
30 医療型障害児入所施設	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0

問10 すべての事業所にお尋ねします。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各サービスについて、貴事業所の状況にあてはまる番号すべてに○をしてください。

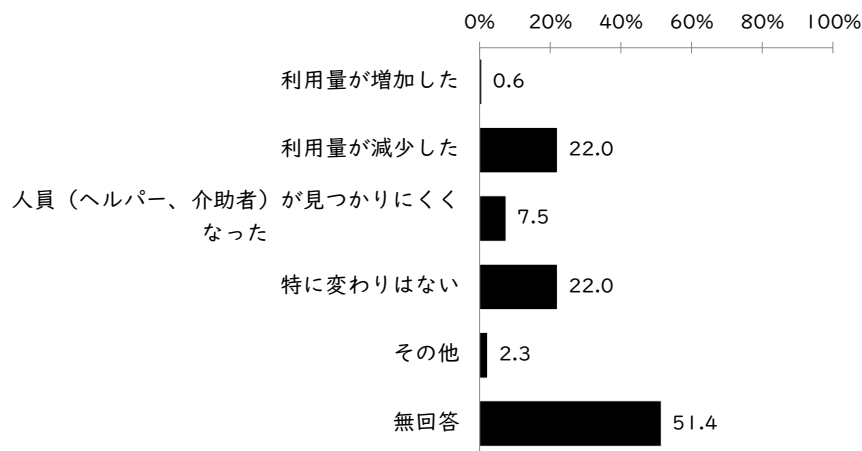
① 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、サービス提供をする上で困ったことはありましたか。

「衛生管理（感染対策）」(40.5%)、「物資（衛生用品等）の確保」(27.2%)、「人員（ヘルパーや介助者）の確保」(23.7%)となっています。



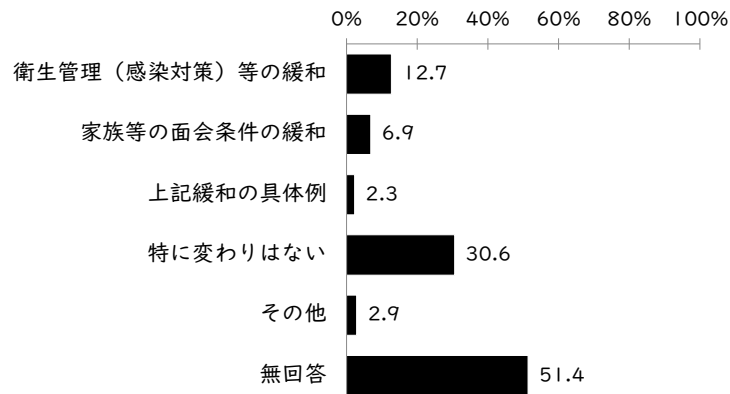
② 新型コロナウイルス感染症流行により、障害サービスの利用に変化はありましたか。

「特に変わりはない」(22.0%)、「用量が減少した」(22.0%)となっています。



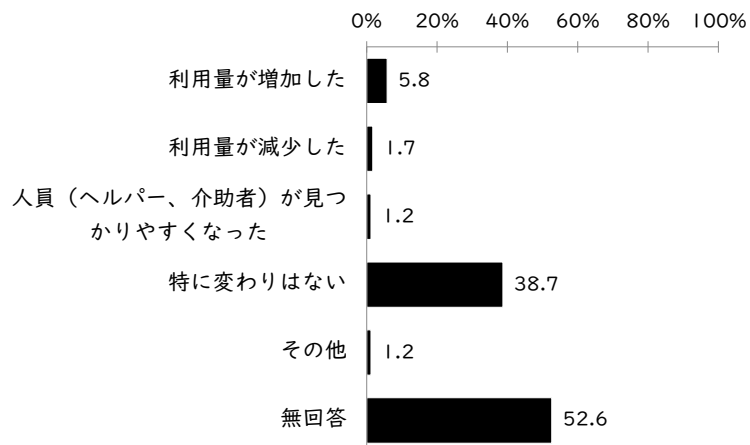
③新型コロナウイルス感染症の5類感染症への位置づけに伴い、サービス提供をする上で変化はありましたか。

「特に変わりはない」(30.6%)、「衛生管理(感染対策)等の緩和」(12.7%)、「家族等の面会条件の緩和」(6.9%)となっています。



④新型コロナウイルス感染症の5類感染症への位置づけに伴い、障害サービスの利用に変化はありましたか。

「特に変わりはない」(38.7%)、「利用量が増加した」(5.8%)となっています。

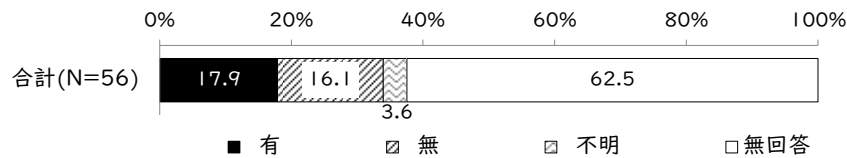


問11 現在、居宅介護、または短期入所を提供している事業所にお尋ねします。

緊急利用（居宅介護におけるケアプラン以外の対応など）について、①過去1年間の受け入れ実績の有無についてあてはまる番号1つだけに○を、②受け入れ実績がある場合は、その曜日及び時間帯についてはあてはまる番号すべてに○を③今後の緊急利用の対応について、あてはまる番号1つだけに○をつけてください。

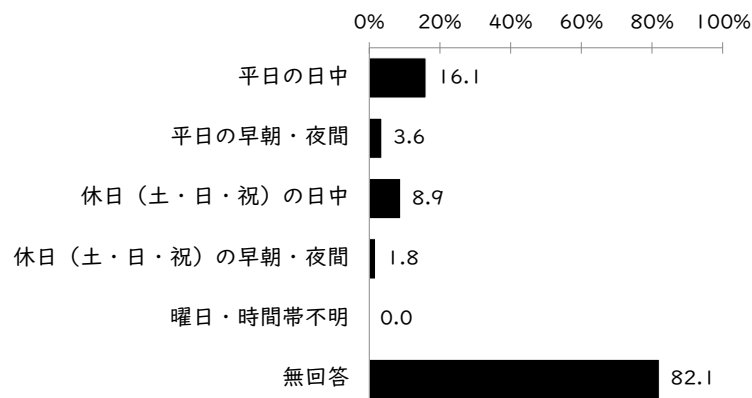
問11-1 居宅介護 ①有無

「有」（17.9%）、「無」（16.1%）となっています。



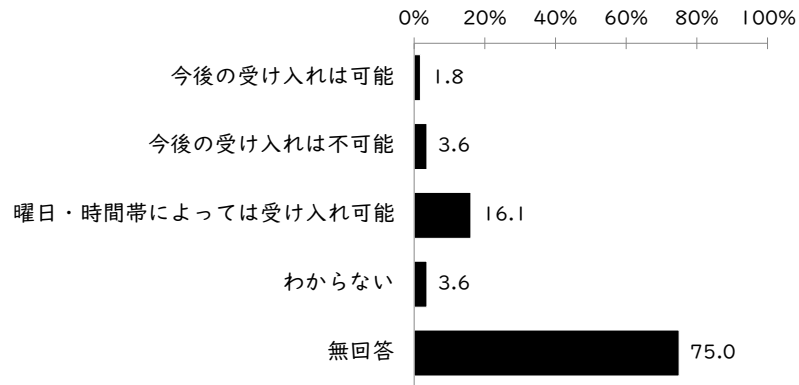
問11-1 居宅介護 ②受け入れた曜日及び時間帯（複数回答可）

「平日の日中」（16.1%）、「休日（土・日・祝）の日中」（8.9%）、「平日の早朝・夜間」（3.6%）となっています。



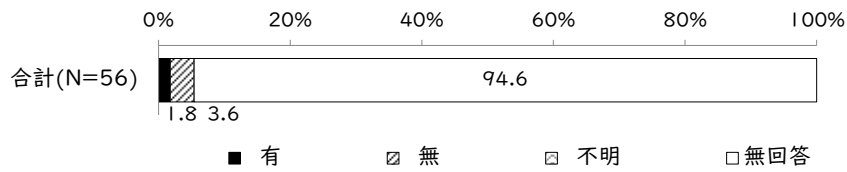
とい 問11-1 居宅介護 ③ 今後の緊急利用の対応

「曜日・時間帯によっては受け入れ可能」(16.1%)、「今後の受け入れは不可能」(3.6%)となっています。



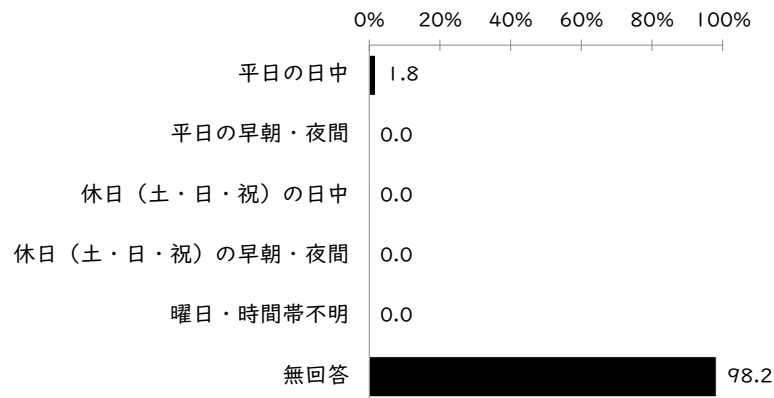
とい 問11-2 短期入所 ①有無

「有」(1.8%)、「無」(3.6%)となっています。



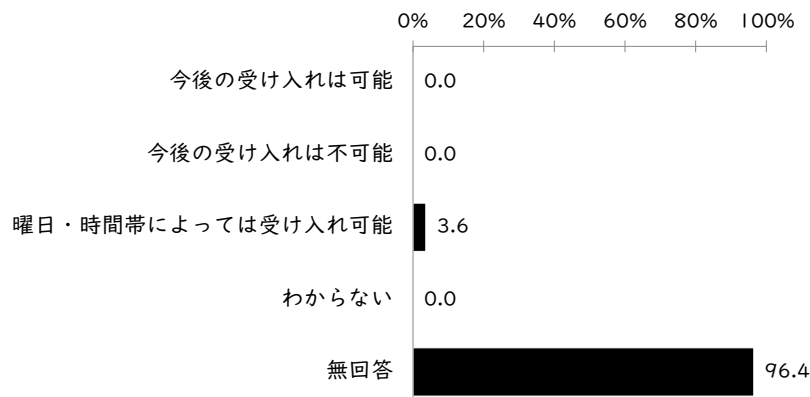
とい 問11-2 短期入所 ②受け入れた曜日及び時間帯 (複数回答可)

「平日の日中」(1.8%)となっています。



とい 問11-2 短期入所 ③今後の緊急利用の対応

「曜日・時間帯によっては受け入れ可能」(3.6%)となっています。

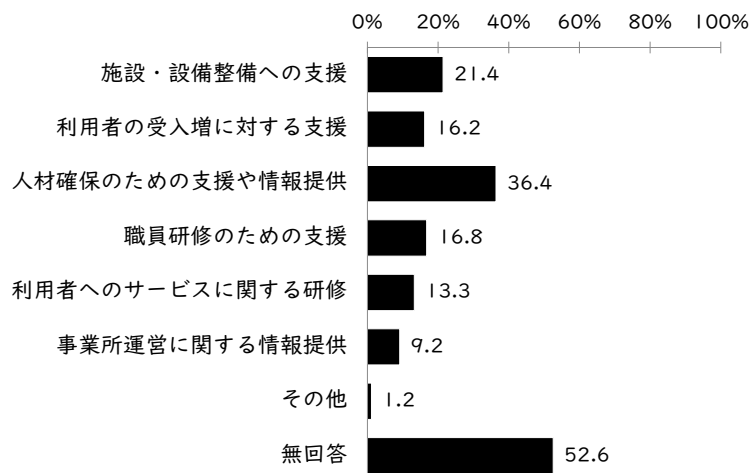


2 事業所の運営や支援について

問12 すべての事業所にお尋ねします。今後、利用者ニーズの増加等に対応していくための施策として、何が必要かつ効果的だと思いますか。

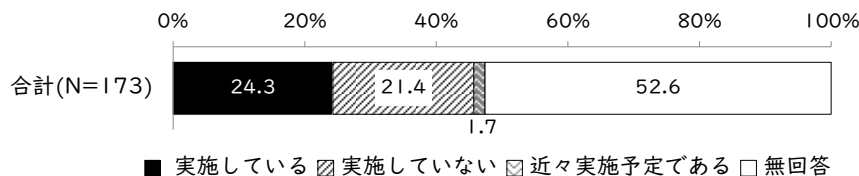
(あてはまる番号3つまで○)

「人材確保のための支援や情報提供」(36.4%)、「施設・設備整備への支援」(21.4%)、「職員研修のための支援」(16.8%)、「利用者の受入増に対する支援」(16.2%)、「利用者へのサービスに関する研修」(13.3%)、「利用者へのサービスに関する研修」(13.3%)となっています。



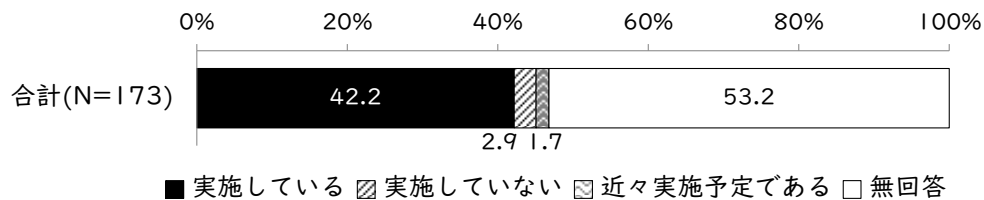
問13 すべての事業所にお尋ねします。障害者虐待防止等にかかる対策を検討する委員会の開催や、従業者に対する研修が令和4年度に義務化されましたが、他にも虐待防止に係る取り組みを実施していますか。(あてはまる番号1つだけに○)

「実施している」(24.3%)、「実施していない」(21.4%)、「近々実施予定である」(1.7%)となっています。



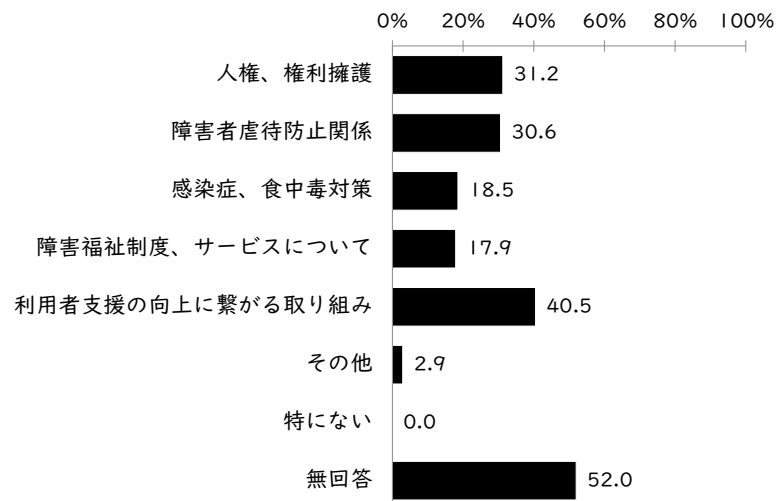
問14 すべての事業所にお尋ねします。事業所として利用者支援の質の向上に向けた取り組みを実施していますか。(あてはまる番号1つだけに○)

「実施している」(42.2%)、「実施していない」(2.9%)、「近々実施予定である」(1.7%)となっています。



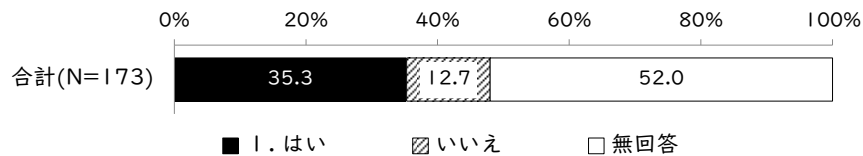
問15 すべての事業所にお尋ねします。従業者に対する研修で特に力を入れたと考えているものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

「利用者支援の向上に繋がる取り組み」(40.5%)、「人権、権利擁護」(31.2%)、「障害者虐待防止関係」(30.6%)、「感染症、食中毒対策」(18.5%)、「障害福祉制度、サービスについて」(17.9%)となっています。



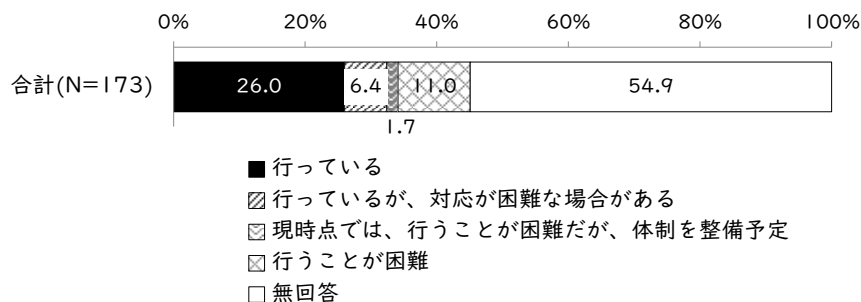
問16 全ての事業所にお尋ねします。障害者差別解消法において、令和6年4月1日から民間事業者にも「合理的配慮義務の提供」が義務化されますが、ご存じですか。

「はい」(35.3%)、「いいえ」(12.7%)となっています。



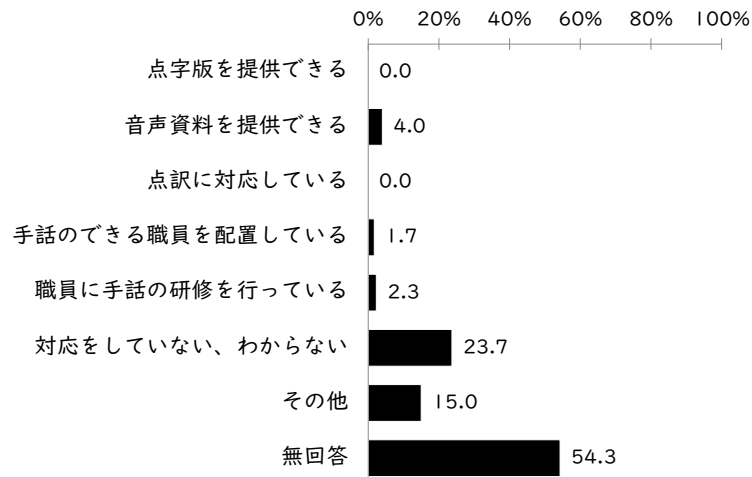
問17 全ての事業所にお尋ねします。入浴介助、排泄介助等で、同性介助を行っていますか。(あてはまる番号1つだけに○)

「行っている」(26.0%)、「行うことが困難」(11.0%)となっています。



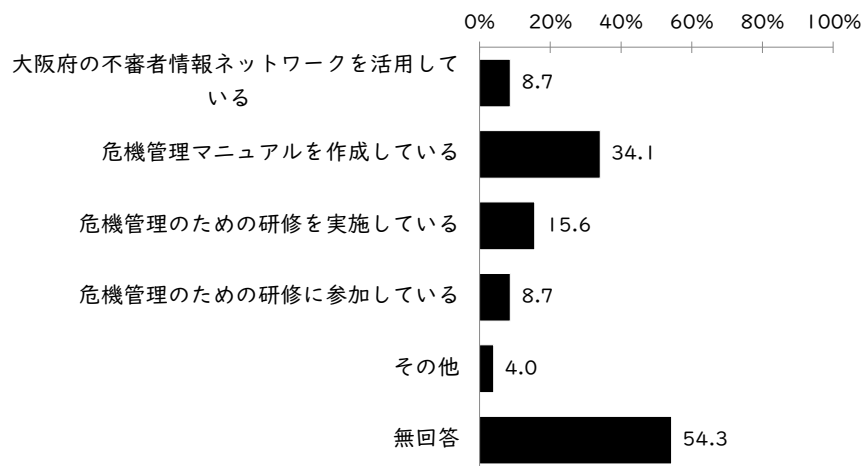
問18 すべての事業所にお尋ねします。事業所として、視覚障害者や聴覚障害者の方に適切な情報提供を行い、また、円滑なコミュニケーションを図るためにどのような対応をしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

「対応をしていない、わからない」(23.7%)、「その他」(15.0%)となっています。



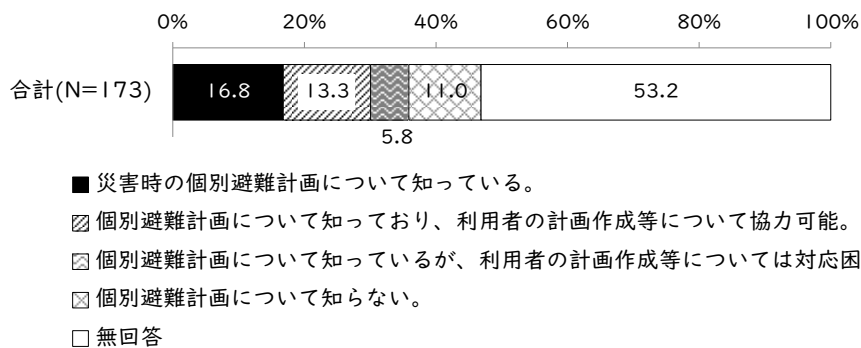
問19 すべての事業所にお尋ねします。安全や安心の確保のための対策、危機管理の対策としてどんな取り組みをしていますか。(あてはまる番号すべてに○)

「危機管理マニュアルを作成している」(34.1%)、「危機管理のための研修を実施している」(15.6%)となっています。



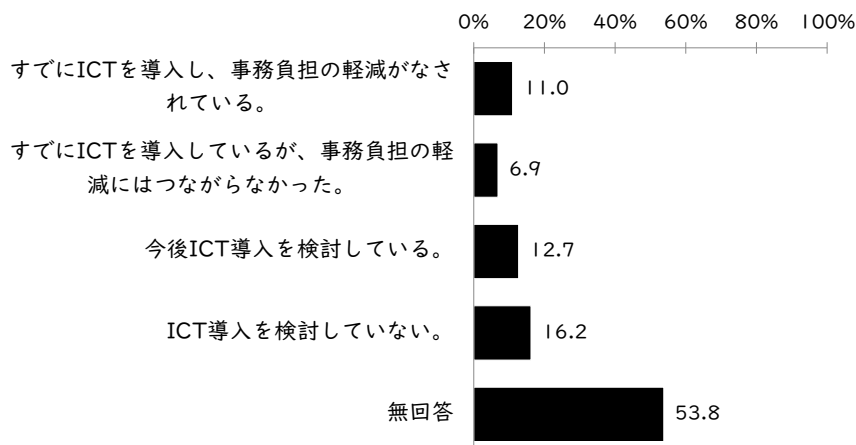
問20 すべての事業所にお尋ねします。令和3年の災害対策基本法の改正ともない、自ら避難することが困難な避難行動要支援者について、「個別避難計画」を作成することが市町村の努力義務とされましたが、「個別避難計画」を知っていますか。(あてはまる番号1つだけに○)

「災害時の個別避難計画について知っている。」(16.8%)、「個別避難計画について知り、利用者の計画作成等について協力可能。」(13.3%)、「個別避難計画について知らない。」(11.0%)、「個別避難計画について知っているが、利用者の計画作成等については対応困難。」(5.8%)となっています。



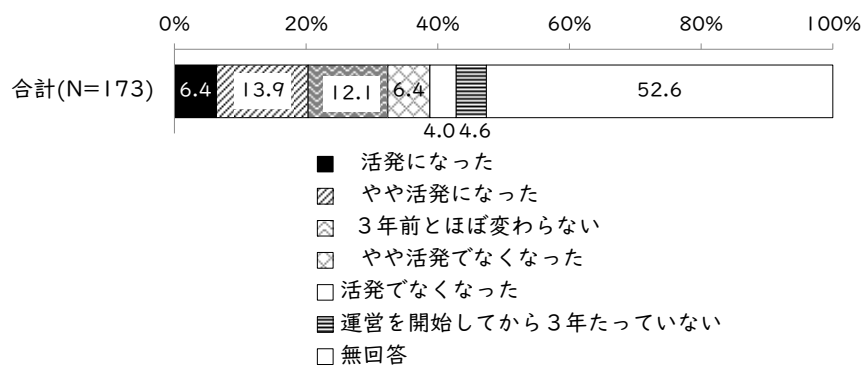
問21 すべての事業所にお尋ねします。ICTを導入し、事務負担の軽減がなされていますか。(あてはまる番号すべてに○)

「ICT導入を検討していない。」(16.2%)、「今後ICT導入を検討している。」(12.7%)、「すでにICTを導入し、事務負担の軽減がなされている。」(11.0%)、「すでにICTを導入しているが、事務負担の軽減にはつながらなかった。」(6.9%)、「すでにICTを導入しているが、事務負担の軽減にはつながらなかった。」(6.9%)、となっています。



問22 すべての事業所にお尋ねします。3年前と比べて、全体として、貴事業所の運営状況はどのように変わりましたか。(あてはまる番号1つだけに○)

「活発になった」(6.4%)と「やや活発になった」(13.9%)を合わせた『活発になった』は20.3%、「3年前とほぼ変わらない」は12.1%、「やや活発でなくなった」(6.4%)と「活発でなくなった」(4.0%)を合わせた『活発でなくなった』は10.4%となっています。



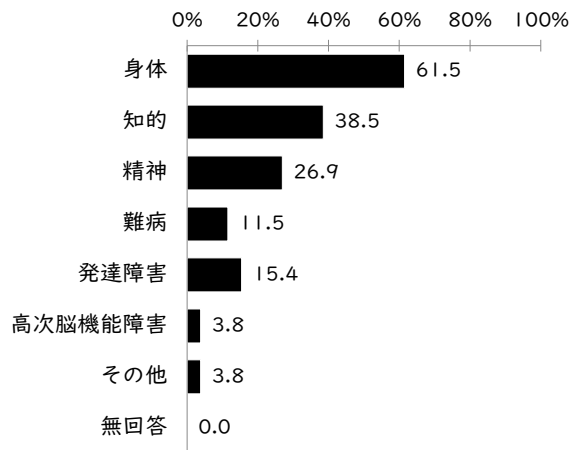
問23 すべての事業所にお尋ねします。枚方市の障害福祉施策やサービス事業所への支援に関して、ご意見がありましたら自由にお書きください。

だい 5 しょう しょうがいしゃだんたい ちょうさけっか
第5章 「障害者団体」調査結果

I 貴団体の概要

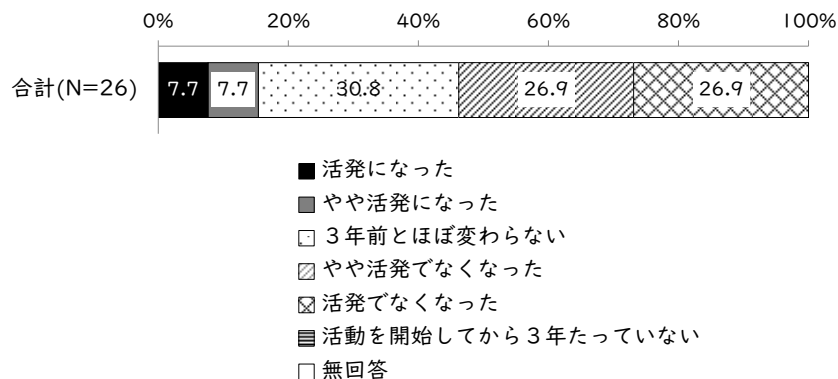
⑤ 主な障害種別

「**身体**」(61.5%)、「**知的**」(38.5%)、「**精神**」(26.9%)、「**発達障害**」(15.4%)、「**難病**」(11.5%)、「**高次脳機能障害**」(3.8%)となっています。



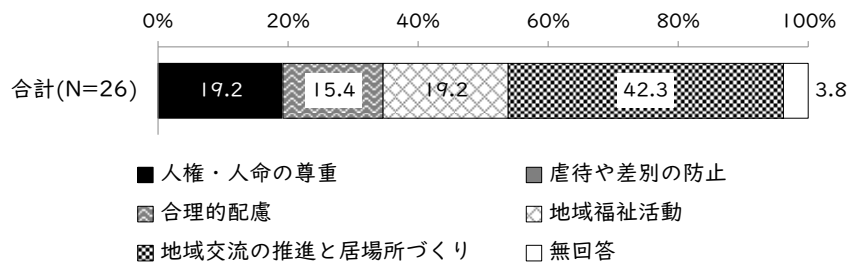
⑧ 3年前と比べて、貴団体の活動状況はどのように変わりましたか。

「**活発になった**」(7.7%)と「**やや活発になった**」(7.7%)を合わせた『**活発になった**』は15.4%、「**3年前とほぼ変わらない**」は30.8%、「**やや活発でなくなった**」(26.9%)と「**活発でなくなった**」(26.9%)を合わせた『**活発でなくなった**』は53.8%となっています。



問1-1 「市民啓発及び地域との交流の推進」で特に取り組むべき施策(〇は1つ)

「地域交流の推進と居場所づくり」(42.3%)、「人権・人命の尊重」(19.2%)、「地域福祉活動」(19.2%)、「合理的配慮」(15.4%)となっています。



団体の意見

問1-1 「市民啓発市民啓発及び地域との交流の推進」施策についての意見
聴力障害者への理解を深める啓発活動 手話条例の制定で、市民に理解を深めるためにイベントを開催したい。
地球の行事等にできるだけ参加しています。
地域の諸団体(障害者施設、高齢者関連団体、一般団体)に講習を行う。月一回他の福祉施設に通う障害者も来れるように、ラポールで障害者対象の体験講習を行う、等の取り組みを当団体として行っています。
昔より障害者への理解は進んでいますが、まだまだ足りません。障害者の方が出かけやすい環境作りや配慮。何より居場所が少ないので居場所をもっと増やして欲しい。唯一の安心して行けるラポールが空調等で長く行けないのが困る。早急に整備して居場所を整えてほしい。
世の中は寛容さが減っています。益々生きづらくなります。
心の病の当事者会である当会が、今後も地域に根を張った活動を維持できるようにしっかりサポートしていただきたいです。
私たちのような腎臓病患者を増やさないよう啓発広報活動を強化し、腎疾患総合対策の推進を願う。私たちは、患者や家族及び病院関係者を含めた学習会を市の施設(主にラポールひらかた)を利用して、年に数回行っています。近年ラポールの老朽化?によるのか、使用しづらくなっておりまます。施設の補修、点検を実施して欲しい。また、駐車場がなくなり、不便になりました。特に健常者の利用スペースがなく、相互交流がしづらくなりました。交流推進できる施設についてご検討願います。

今、ラ・ポールが使えなくなって、とても困っています。早く空調を直して下さいますように。
これは今年に限ったことですが。またラ・ポールのような施設にやはり駐車場は必要です。

基本的に高次脳機能障害の認知度が非常に低いと感じている。これを高めるための施策が欲しい。

(市役所の障害に関わっていただいている方、一般職員の方の理解はどの程度なのかも知ってみたい)

元々1970年代からあった合理的配慮、やっと2006年の国連総会で採択が挙げられ、合理的配慮を拒否し受け入れないことが障害を理由とした差別に当たると考えます。この合理的配慮されしっかり受け入れられていれば、何の問題も起きていなかったはずと思っています。障害のある人が日常生活や社会生活を送る上で妨げとなる社会的障壁を取り除くために、状況に応じて行われる配慮。筆談や読み上げる意思の疎通、車椅子での移動の手助け、学校公共施設等のバリアフリー化など、提供されるべきと考えます。

ひきこもりの方のお話をよく伺います。社会との接点を持てるように行政が働きかけてください。

そもそも「合理的配慮」という言葉すら普及していないし、浸透していないと感じます。(学校の先生も全員は理解されていないように感じています)市で具体的な事例を紹介する講演会を開催したり、ポスター、SNS等を利用して「行政にしか出来ない、よく目にする」啓発などをしてほしい。事例については、「教育の現場編」「お店編」など具体的に紹介している連載すると、いろいろな事例を知ってもらえるのではないかと思います。

コロナでマスク社会が定着してしまっ、相手の表情や口元(読話)が見えず、声も聞き取りにくい。「筆談します」と表示されていても面倒がられる。ゆっくりはつきり話してもらえるとわかりやすい。

コロナで、できていませんが、作業所のお祭りに地域の方との交流を目指しています。

関係作業所を支援する家族会であり、直接当事者の働きには関与していない

本会は参加者の高齢化と運動神経細胞減少により、体が思うように動かず、一人で動く転倒で、頭、手、足、腰の骨折が心配されます。患者様の福祉支援センターに年3回位同伴の支援があれば助かります。(ラポール枚方集合場所)

・市立ひらかた病院をはじめ、各病院に手話で話せる職員が欲しい。

・夜間などのタブレットを活用した遠隔手話通訳制度を作って欲しい。

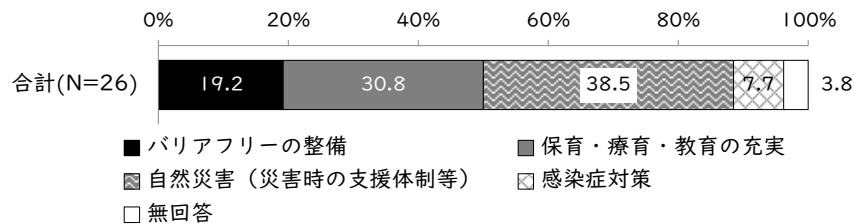
・立派な基本理念が活かされる取り組みを行って欲しい。(当事者を無視しない計画をやってほしい)

じんけん じんめいそんちやう かんが はばひろ しみん けいはつ しさく すす ほ
「人権・人命尊重」考 えて幅 広く市民 へ啓 発 できる よう 施策 を進 めて 欲しい。

しゃかいせいかつ しかくしょうがいしゃ ただ りかい しみん
「社会生活 において 視 覚 障 害 者 とは？」の 正 しい 理 解 が 市 民 に 未 だ 未 だ さ れ て い な い た め、
しみがわ ふう ごうりてきはいりよ かん しかくしょうがいしゃ
市 民 側 と ど う い う 風 に 合 理 的 配 慮 す べ き か が わ か ら な い よ う に 感 じ る。ま た 視 覚 障 害 者 も、ど
う い う 合 理 的 配 慮 を 求 め る か を 伝 え ら れ て い な い こ と も あ る と 思 う。

問1-2 「障害者(児)が安心できるまちづくり」で特に取り組むべき施策
(〇は1つ)

「自然災害(災害時の支援体制等)」(38.5%)、「保育・療育・教育の充実」
(30.8%)、「バリアフリーの整備」(19.2%)、「感染症対策」(7.7%)となっ
ています。



■ 団体の意見

問1-2 「障害者(児)が安心できるまちづくり」施策についての意見
避難所に行っても、簡単な手話で対応できる体制を作りたい。
避難所での生活では難しいので、障害者用の施設を作って欲しい。
道路・駅舎・施設内で視覚障害者がどんな不自由さがあるかを当事者に聞いて、バリアフリー化をしてほしい。
透視患者は感染症に弱く、死亡率も高いです。コロナ等感染症に罹患した場合に、できるだけ通院入院を含めて、市内ですべき対策整備を望みます。
・ワクチン接種を安価で定期継続できるようにして欲しい
・週3回通院が必要な私たちにとって、交通機関による通院支援をご検討願いたいです。
・災害時における避難方法や病状に伴う食事等不安事項への対応を切にお願いします
障害があっても安心して子育てができること。
発達保障を守るための環境を充実させたいと思います。
自治会(地域)では戸別世帯台帳を作成して保管しているが、体の不自由な個人への情報共有が住んでいるかは不明。
個別の障害者の状況(過去においてもそのときの現状)を市として(具体的にはケースワーカーさんでしょうか?)きちんと把握していただくことが一番もとなると考えます。

近いうちに起こると言われている南海トラフや近年の異常な気象。万が一でも避難所に行く選択肢がない。(無理)大きな声出したりすることもあり、今でも気兼ねしてラポール以外はなかなか行く気にならない。

そのラポールが過ごしにくい環境です。

この猛暑ではヘルパーと散歩もできず、人混みが苦手な人は行き場所がない。ラポールの会議室1つを開放してプレイルームみたいなものが欲しい(居場所)

学校の先生の特別支援教育に関する知識や意識が低い方や、そのレベルがバラバラで、教師が変わる度にきちんと引き継ぎされていない。障害当事者やその保護者などの話を聞く機会を大阪府ペアレントメンター等を使って、目の前の生徒への支援について考えてほしいです。不登校にならないと利用できない等、機関や施設があっても融通が効かなかったり、その存在が知られていなかったりするので、市は広報や保護者への周知をもっと考えてほしいと思います。

まだまだバリアフリーの整備が充分であるとは言い難いです。

それぞれの子供さんのニーズに合った保育、療育、教育を要望します。

スーパー、コンビニなどで聞こえにくい人のためにできることを啓発してほしい。簡単な絵の表示やすぐに筆談など

インクルーシブ教育の充実を。

・手話で挨拶はできても会話にならない。もっと手話講習会のレベルアップを。

・単独で乗車する場合、片道101キロ以上で5割引

ろう者はほとんど単独行動なので101キロ以上の制限があると、実態として割引制度は意味をなさない。

高速道路割引は、レンタカーや知人の車であっても利用できる。

JRや私鉄もバリアフリー化に向けて101キロ以上の制限を撤廃すべき時期になっている。

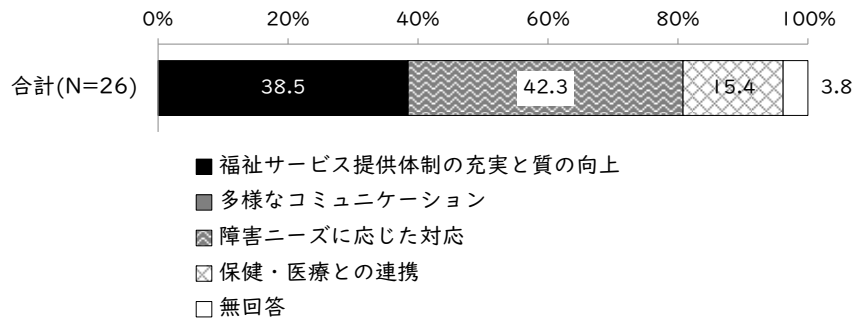
・コミュニケーションのバリアがなくなるよ障害の種別に合わせての施策を望む

・誰もがわかるツールの活用化

医療的ケアの必要な高齢者や障害児者への対応
 枚方市災害医療対策議会の中で福祉専門家同士が協力して、福祉と防災の一体化
 2021年5月の改正災害対策基本法が施行され災害時の避難方法を事前に決める
 個別避難計画の作成が市町村の努力義務となりましたが、枚方市として義務化
 避難所となるところの環境整備を災害時並べない人も、自治体や大きな施設の多くは、避難
 計画に「弱者への配慮」を盛り込み、具体的な手順を定めること
 混乱時でも一人ひとりのニーズに応じた支援体制や配慮が必要である。障害者は避難所で
 の生活は困難で、健康面での影響も大きく「他人に迷惑をかける」と自宅に引き返す声も多
 く、ルール作りが必要。開設場所など周知が不十分で気がつかない方が多い。

問1-3 「安心して生活できるサービスの確保と提供」で特に取り組むべき施策（○は1つ）

「障害ニーズに応じた対応」（42.3%）、「福祉サービス提供体制の充実と質の向上」（38.5%）、「保健・医療との連携」（15.4%）となっています。



■団体の意見

問1-3 「安心して生活できるサービスの確保と提供」施策についての意見
福祉サービスの利用に際して、現在、枚方市においては「計画相談」の利用が極めて困難な状況にあります。この状況を改善していただきたいです。
日常生活用具の製品項目と限度額や貸与年数の見直しをお願いしたい。
難病患者の会員としては、保健、医療は重要と思っています。本会では会員様にアンケートを時々して、回答をもらっています。パーキンソン病の会員様にも、保健所から連絡をさせていただきますか。私は代表ですが、パーキンソン病ではありません。
働き場所も充実。
障害のニーズを引き出す力が必要 聞こえない障害は多種多様であり、当事者に合わせたサービスの提供をお願いしたい。

障害のニーズに合わせた配慮が必要である。教育の現場その子のレベルに合わせて、療育の必要な子には療育の充実、医療ケアの必要な子に医療ケアの充実を求めます。

障害ニーズに応じた対応もしてほしいですが、福祉サービスの質の向上に期待します。専門的な知識を学ぶ機会を提供していただきたいと思えます。相談支援事業の周知、利用しやすい環境も希望します。介護福祉におけるケアマネージャーのような方が、学校、事務所等のつなぎ役になれば親の負担も減るのでは?と思えます。

実際に最近経験した話として、利用中の方で1事業所より、5月末のお昼ごろにいきなり明日6時1日より事業を閉め休止しますとのメール連絡が入り、突然翌日から使用できなくなった。すぐに計画、相談支援を計画している事業所より、市役所にどうにかならないのか、市役所としては何か対応してもらえないか、と問い合わせを入れてもらったが、事業所より閉所の申請を行っていないため、常識に考えてこの対応はありえない。との考えに共感するものの、私からの指導の対象になる、との見解があった。

親子ともに不安の日々を送り、対応すべく精神的にかなり疲弊するという経験をした。事業所に対して、事前通告なくて閉所をすることを、決めることなく、突然時間的余裕もなく、利用者をおせきに放り出すことなどを、厳しく監視する、もしくは基準が行った際に対応するためのルール作り等をお願いしたい。

他に、

- ・日中一時支援の事業所の充実
- ・放課後等デイサービスで年代別の特色を活かした事業所があるとありがたい
(近隣の他市にはあるが枚方市には中高生向け、もしくは就労準備型のデイのような事業所が少ない)
- ・福祉専攻科事業所の充実

孤立化を防ぐための居場所づくり

(高次脳機能障害の症状は幅広く居場所に困っている人も多い)

現在の特定健康診査の制度になる以前は作業所として(利用者、スタッフ20名位)保健センターで健康診断をやってもらい、結果に基づいて保健師さんが作業所に向いて保健指導していただき、受診につなげたり、経過を見守って下さったり、いろいろ相談に乗って下さったりして、大変心強かったです。そのような制度なり体制がまた復活することを望みます。

軽度の人には比較的選択肢ありますが、最重度の人は選択肢が全くない。

ニーズはあるのに、体制や受け入れが(細かい?)整っていません。最重度の人の方がサービス必要なのに。

ヘルパーさんを増やしてほしい。

さまざまに障害に適したサービスを要望します。

・保健、医療、関係者と手話で話せない。筆談だと、ろう者が言いたいことを上手に書けず、話が正しく伝わらない。

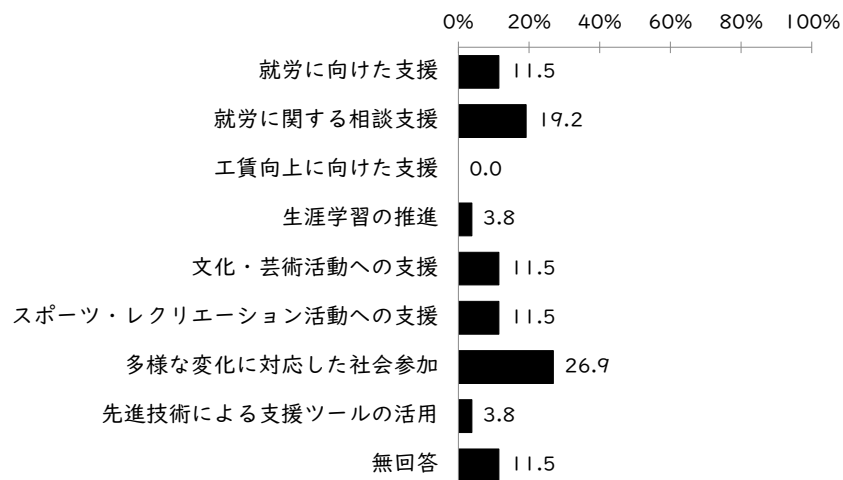
・デイサービス、ショートステイなどの利用時も手話通訳者を準備してほしい。

・施設職員のための手話講座を作るべきだ。

「障害者医療費助成事業について現行の制度を継続」を願い守るため、関係団体を通じて毎年1回国会請願、府議会請願、署名活動と枚方市への要望書提出活動を行っています。年々、医療費、自己負担が増加してきています。これ以上の負担が増えないことを切に願います。

問1-4 「自分らしい生き方を見つける・選ぶ」特に取り組むべき施策(〇は1つ)

「多様な変化に対応した社会参加」(26.9%)、「就労に関する相談支援」(19.2%)、「就労に向けた支援」(11.5%)、文化・芸術活動への支援」(11.5%)、「スポーツ・レクリエーション活動への支援」(11.5%)となっています。



■ 団体の意見

問1-4 「自分らしい生き方を見つける・選ぶ」施策についての意見
卒業後の就労に向けた支援は大事なことで、一人ひとりの個性を生かした取り組みが必要です。
障害に理解のある職場を増やしてほしい。
障害があってもできることは多いと思う。雇用主の理解と配慮でできる。
最重度の人が参加しやすい余暇活動や障害の人に寄り添えるような社会参加や周りの理解への啓発など。
高校を卒業して児童デイサービスが終了すると、計画相談を受けることもできなくなり、支援が届きません。就労移行支援のを知ることができない人もたくさんいます。 大学の就職課に行けば理解はありますが、アドバイスをくれるだけで、実際就活を進めていくのは難しいです。
当団体で、発達障害に特化した就労移行支援事業所の方に来てもらって講演会をしたり、紹介などをしたことで繋がった方もいますが、ぜひ市でもこのような情報提供や企画をしてほしいです。
義務教育を終了すると障害者はケースワーカーから離れ、各事業所が個人個人を見ていく状況になっている。 保護者や本人に“嫌ならやめる”のではなく、続けていく、目標を持って努力していく姿勢がなくなっているように思う。
既存のサービスを当てはめる(いやな表現ですが)、つなげる、選択するだけでなく、自由な発想を当事者の皆さんが持てるよう、支援する側も枠を取り払う必要があるように思います。 支援者も、気楽に発想できるような自由さが欲しい。
もっと、文化・芸術活動への支援をお願いします。
スマートフォン使用の視覚障害者向けの研修会を継続的に開催してほしい。
スポーツをする体力は会員にはありません。レクリエーション程度の活動支援があると大変助かります。 卓球をされているパーキンソン病の会もあります。
就職一致も様々な問題が起きたときの支援の充実をお願いしたいです。
この障害に対する企業側、他の従業員の認知度が低いことから離職率が高いと思われる。 理解していた上司が転勤、転籍より居ずらくなった例も多いのではないかと。(認知度が低いことによるもので企業側を単に責めている訳ではない)

・ 市の出前講座を頼むと、手話通訳者は主催者が用意するとのルール。これは明確なろう
者差別です。

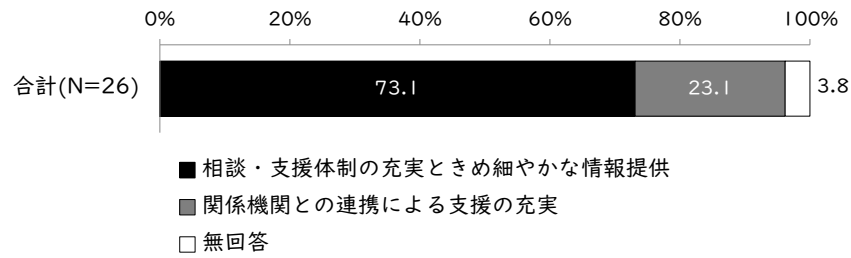
・ 市職員が手話できなければ、手話のできる職員を帯同すべきだ。

・ IT技術も日々進歩しており、障害者に合わせた柔軟な取り組みを望む

・ 自動文字化、手話化等

問1-5 「身近な相談窓口の充実ときめ細やかな情報提供」特に取り組むべき施策（〇は1つ）

相談・支援体制の充実ときめ細やかな情報提供（73.1%）、関係機関との連携による支援の充実（23.1%）となっています。



■ 団体の意見

<p>問1-5 「身近な相談窓口の充実ときめ細やかな情報提供」施策についての意見</p>
<p>枚方市は保護者によるセルフプラン作成を可としているが、児童のうちから生涯に渡って支援が連携していくためには、障害児の計画相談支援が必要。実際に障害相談を看板に掲げていても実施されていない事業所もあり、児童から相談できる人や機関をもっと増やしていかないと、問題が起こってから路頭に迷う本人や家族を減らすことなどできないと思います。</p>
<p>難病の会会員のため、会員は不安を持っていると思われます。しかし、会員の能力では適切に回答できない。</p>
<p>相談に行っても、一覧表を渡されるだけ もったときめ細かいサポートが欲しい。(施設側と交渉間に入って入ってくれるなど)</p>
<p>相談・支援体制の充実ときめ細やかな情報提供を希望します。</p>
<p>手話で話せる職員が必要だ。手話通訳も大切だが、本来は直接相談者と手話で話せる体制を作って欲しい。</p>
<p>私たちは毎年、自治体要望を兼ねた活動しておりますので、今後も情報提供等よろしくお願いたします。</p>
<p>公的相談支援窓口、相談支援施設、医療機関、就業支援施設、地域、当事者家族会等の連携が必要と考えます。</p>
<p>現在多種多様な考えがありまた、相談機関がどのくらいの資源を持ち各関係機関との連携による支援に繋がるのか、相談機関の強化</p>
<p>ピアカウンセラーの養成等、手話で相談できるスキルを持った相談員がいて、気軽に相談できる場所を増やしてほしい。</p>
<p>できることに限りがある「関係機関」が連携しても、必ずしも問題解決につながらないケースをたくさん経験しています。その時核になる人(ケースワーカー?)が必要です。個々が対応していくのは無理です。</p>
<p>ショートステイ利用など緊急時にも対応できる施設を作っていただきたいです。</p>
<p>きめ細やかな情報提供が視覚障害者にはまだまだ不十分だと感じている。</p>

質問 2 (自由意見)
質問A 人材の確保

質問A 人材の確保	
福祉学科や美術系の大学生等、若い活気のあるボランティアを市が派遣して頂き、作業所内の活性化をはかるとともに新鮮なアイデア等の助言を頂きたいです。	
大阪府の全身性ガイドの講習を実施しています。また、求人に応募して下さった方に向けて、よりその方のニーズや条件に合った求人の情報提供をすることはあります。人材の確保よりさらに育成が課題です。通常勤務のみでもキャンパシティーオーバーで、学ぶ機会を作り出すことが非常に難しい。	
体移動、転倒のリスクが高い〇病なので、外出時のサポート(支援)を希望しているが、有償ボランティアならかろうじて接点があつたが、基本的に無償で支援してくれる人材が欲しい。希望する人材の確保は全く見通しがたっていない。	
障害の人たちを理解してもらったり、現状を知ってもらったり、物心つく前から障害の人たちが身近な環境を作ることが大事。(経験上)大人になってからでは固定観念あり難しい。あたり前(みんな違って)の教育。	
取組み→手話講習会等での手話で指導できるろう者の育成 課題→手話は言語であり、指導者育成には長期展望が必要。市の継続的支援、理解が必要。	
事務所職員の維持、確保	
私自身児童福祉の分野で働いていますが、子どもを預かっていただけの時間内になります(知的障害が重度で、一人でのお留守番等は難しい)。 放課後等デイサービスの預かり時間が短くなっており、働きたいのに時間がという声を時々聞きます。	
高齢化社会の中で、何処もが人材不足で悩んでいるところです。	
会員の高齢化が進み、基礎体力が低くなり、運動しないと難病が進行するので、次第に出席者が減少する。早く病気を発見し運動と薬を飲めば治るので若い会員を募集している。	
会員の拡大及び病院に関する学習会を行う事により、意識改革と社会生活への参加を促している。交流施設として利用している「ラポール枚方」の整備と駐車場確保。	
わが団体は障害が顕在化するのが50代以上と高齢のため、役員のみならず手不足と高齢化が問題。	

ボランティアで支援、協力頂く方が増えているが、交通費すら支給できない状況(家族年2000円の会費では、室料、通信費、消耗品費、役員の交通費等の経費負担が限度(社協からの交付金で継続できている現状で先行きに懸念)

本会は当事者の支援などを担う人材を確保するために、他団体、わかちあう会、ふきのとうの会との連携を話し合っている。

質問B 支援の届きにくい人たちの把握

質問B 支援の届きにくい人

難病の病気について理解してもらえる様に講習会などを企画している。

当事業所だけのつながりだけでは支援が届かないことは明白です。いかに他の団体、自治会、関係機関とのつながりを持っているかがカギとなるように思います。そして、相談員自身が出かけて、顔の見える関係づくりを心がけることも必要と思います。まず、依存症や引きこもりが何かが。実例を含めて、私達相談員が知る事ができる場、機会が欲しい。外からは分かりづらい方々です。知らずして何をしたらよいか自覚がわからない。

地域や個々の資質でバラつきのある民生委員さんが然るべき役割を果たすことが必要だと思います。こんな重要な仕事を担っているのに無償という問題だと思います。

地域の民生児童委員さんと連携していく。

成人の引きこもりの方の中には不登校から引きこもりへ移行するケースやアスペルガーや高機能自閉症の割合も多いと思いますので、学校の協力を得て、不登校や不登校気味の方、アスペルガーや高機能自閉症の方の追跡調査を行うなど、教育と福祉とで連携し情報共有ができるようなシステム作りがあってもいいのではと思います。

また、何か送る前に小さい頃からどこかと繋がられるような、気軽な相談窓口の充実が必要だと思います

取組み→ブログ・FB等で情報発信

課題→災害時の支援体制(例:どの避難所に通訳者や文字情報の提供が必要かの把握)

自治体の中に、高齢者や障害者又、一人暮らしの方々が何処に住んでいるかの調査が必要に思われます。プライバシー保護の問題もありますが、命を守ることを考えれば、多少の犠牲を伴うことを覚悟しなければなりません。高齢者医療又障害者医療証を市が把握しているのであれば、アンケート調査ができるのでは。

現在、ホームページの作成を急いでいます。

やはり、地域レベルで他人に興味をもつことが大事。誰一人取り残されることのない環境は理想。

ほぼ出来ていない。例えば市の広報による障害の紹介記事の掲載等をお願いしたい。支援施設、就業支援施設、医師との連携が必要。

ヒアリングカウンセリングや定期的な集いで、話せる環境作り

パーキンソン病の患者が利用できる制度がある事も知らない人が(本人の家族も)が多いので、会に入会している方には、勉強会をしたりサービス提供する側にコンタクトをとって、支援体制を整えてもらえないか。連絡する等。

質問C 新型コロナウイルス感染症の影響と今後の活動の変化について

質問C 新型コロナウイルス感染症の影響	
<p>約3年間あまり新型コロナウイルス感染の予防体操対策として自宅待機の情報が、外出による運動療法ができなくなり、パーキンソン病特有の運動神経が悪化して、外出ができなくなりました。</p>	
<p>当団体は活動できるようになってからは会員さんも集まり、話してほっとすることができています。ラポールひらかたの空調が故障したため、集まりにくい状況が続いています。コロナ自粛中人と話す、交流する機会が奪われるのはかなりストレスだったと思います。</p>	
<p>取組み→市の遠隔手話通訳サービスの支援 課題→各支所等のタブレットが活用されていない</p>	
<p>主に活動するラポールひらかたの人数制限や部屋閉鎖で、予定の行事が中止、またガイドヘルパーの利用制限で外に出られなくなり、精神的に辛くなったという会員</p>	
<p>自粛生活が長期間だったため、その間に体力低下、歩行困難度が悪化した人が多く、活動に参加できなくなる人が近くに居て、集団活動がほとんど出来なくなった。</p>	
<p>私達透析患者は基礎疾患を持ち、重症化しやすい人の筆頭でもあります。5類に移行するまでは対面活動はほぼ中止でした。広報活動が唯一できることですが、それもラポール印刷室利用停止の影響で一時的に何もできず、会員へのアプローチも減り、新規会員も見込めず縮小しています。ただ、今年から対面活動も少しずつ復活しており、元の活動に戻りつつありますが、まだまだ感染症は発生しており活動も手探りです。</p>	
<p>三年間の空白で、障がいの重度化(活動場所が制限された事により)と会員の親の高齢化などで、活動が難しくなった。</p>	
<p>マスク社会になり、人と話すことが減って話が聞き取りにくいので社会に出づらくなった。若い人たちはネット、SNSなどで活躍。会員が高齢化、活動も減っている。</p>	
<p>コロナ前と考えが変化しているように思う。(リセットがかかった状態に感じる) 疎遠になる関係も多く、活動しにくくなった。</p>	
<p>コロナ感染のため、縮小したプログラムも多く、地活に来所される方も少なくなっていました。少しづつ状況も変化し、来所の方々も増えプログラムも対策を行ったうえ再開や新しいことにも取り組んでいます。</p>	

ねんまえ いりようこうえんかい こうりゅうかい すべ かつどうていし かいいんすう へ
3年前、医療講演会も交流会も全て活動停止した。そのため、会員数がぐっと減った。
かいいん こうれいしゃたすう かんせんしやう き つか ちりやう じ こふたん じしゆてき
会員が高齢者多数のため、感染症には気を使う。これから治療の自己負担と、自主的な
じたくたいき しんやう かいごう おこな かんせんしやう ちゆうい つうじやう もど
自宅待機をどこまで信用して会合を行うか、感染症に注意しつつできるだけ通常に戻した
い。

ねんど ねんかいさい
2021年度はほぼ1年開催できなかった。
わりあい こうれいしゃ おお こんご かんせん どうこう けねん
割合として高齢者が多いことから今後の感染の動向を懸念している。

ほんかい かんけいせつない ながねんじぎやう えいぎやう きやくあし げんしやう ほかもろもろ
本会は関係施設内で長年事業を営業していましたが、コロナによる客足の減少、その他諸々
の事情で、この3月で閉店を余儀なくされました。事業所の考えもあると思いますが、
りやうしゃ ちいき かわわ じぶん い ぼしやう うしな かぞくかい おも
利用者にとっては地域との関り、自分を生かす場所を失ったと家族会では思っています。
こんごじぎやう つちか よう い かだい おも
今後事業で培ったスキルをどの様に生かせるかが課題と思っています。

その他の意見

その他ご意見	
	<p>他の市を見た時、市が運営する喫茶業等、障害者が働く場所を提供しているところが沢山あります。施策基本目標に掲げられている「市民啓発及び地域との交流の推進」の意味合いからも、市が積極的に活動を援助し市民との交流の場を設けるべきだと思います。</p>
	<p>数年前、学校で支援学級に在籍する児童は普段過ごす学級の児童としてカウントされないと聞きました。人として扱われないような気分になったと怒っておられました。私も同じようにおもいました。</p> <p>昨年<small>の</small>支援級、通級指導<small>の</small>新制度の件でも、大混乱していました。</p> <p>個々が抱えている問題やニーズに対応しやすい制度、配慮があれば、障がいのある子どもでもない子ども、過ごしやすいのではないのでしょうか？</p> <p>夏休み期間中は自由になる時間が短く、アンケートの回答期間も短かったので、意見があるけど時間がなくて書けない方もいらっしゃるかと思います。アンケート送付の時期や期間は検討していただきたいと思っています。</p>
	<p>障害者が社会の一員として生活していくには、今のような人的、金銭的制度等々、無償支援をあたりまえとする環境では無理です。まずは、障害者の金銭感覚ですが、例えば工賃が上がったとしてもその給料の使い方を知らない。一般人はそのお金が好きなものを買って遊びに行き、創作活動をするが、知的、精神の障害があってもその感覚を教えねばならないと思います。障害者やその保護者は支援される立場だけでなく、消費する立場であることを自覚できれば自然に社会に取り込める考えます。</p>
	<p>縦の繋がり横と繋がりをもっと充実させてほしい。現在、重層的な考え方を進められていますが、期待しています。</p>
	<p>市内の課題がどうなっているか。今いる事業所として求められる役割を認識し、支援するためには、全体像を知る機会を作りたいところです。そうでなければ、そのための資金確保も人材確保も惰性になる。課題に取り組む意識も生まれません。反省です。</p>
	<p>国レベルでも、役所レベルでも当事者の声を拾ってほしい。</p> <p>制度が一人歩きして、当事者のニーズに合わないことが多い。</p> <p>何がなんでもがまんがらめではなく、個々にあったファジーな部分も必要。</p>
	<p>現在の枚方市の福祉サービスの状況には、大変不満を持っております。</p> <p>この一言において、アンケート②の回答をさせていただきます。</p>
	<p>会の役員の高齢化と、財源不足が課題</p>

ラポールの予約時、会館が中止になりなったりすると予約のためだけに来館せねばならないのがコロナ禍の折、3~4ヶ月位の予約が一度に取れると助かります。

パーキンソン病はマニュアル通りには治療しにくい。

出来るだけ多くの患者さんの意見が必要。

全国のパーキンソン病友の会は会員5000人集まるため、色々参考になる会員の情報をパソコンや情報紙で調べて、役に立ちそうなら、会員に案内をしています。大阪支部は京都大学のIPS治療を支援している様です。

この会は大阪府高次脳機能障がい地域支援ネットワーク事業の委託事業である北河内高次脳機能障がい地域支援ネットワーク事業(2018年3月終了)の当事者家族会を継承したものであります。しかし人的、財政的支援がない中、継続に懸念があります。

現在大阪府福祉部及び大阪府障がい者自立相談支援センターを中心に「いかにしてこの障がいの理解を深めるか」の啓発活動に取り組んで頂いていますが、各市との連携がどう行われているか見えません。

今回のアンケート調査に感謝いたします。

毎年枚方市に「透析患者の医療と暮らしに関わる要望書」「大規模災害発生時における透析患者の医療の確保と暮らしに関わる要望書」を提出しています。それらを熟考して頂き、施策を講じて頂けることを切に願います。

・福祉の手引きが分かりづらいです。イラストやチャートの活用でもう少し、見やすく読みやすくなるとありがたいです。

・知的遅れのない発達障害時が、乳幼児健診で発見されない場合がある。進学後に不登校など問題が起きてから発覚することが多い。乳幼児健診でも知的遅れのない発達障害を発見できるような対策や、小・中学校などと連携し不登校などの問題が起きる前に早期に発見するシステムを構築してほしい。(保護者から学校の担任へ相談するも、結局不登校となってから発達障害と判明するケースがあった)

・発達障害の診断が下りていなくても、学校がしんどい小・中学生が、少人数で教育が受けられるような居場所を作って欲しい。学校に居場所がない子供たちにも、教育を受ける権利があり、その子供たちへのフォローは十分でないと感じる。(通級指導教室や支援学級の利用だけでは不十分)

現場では民間のフリースクールを利用するのが現実的な対応だと思われるが、フリースクールは月に3~5万円かかり、費用面で利用できない人もいる。フリースクールを公費で賄い、利用者は1割負担にするなどの対策も行って欲しい。

・新型コロナウイルス感染が5類感染症になり、やっと活動を再開できるようになってきたのに、主な活動場所であるラポール枚方の利用はできないことが残念。また、ラポールの代わりにの場所を登録することになったが、このように市で「障害者団体」と把握してくれているにもかかわらず、生涯学習センターや枚方総合芸術センター別館の登録の際、改めて別々に申請し許可をもらうまでに時間を費やしたことが大変でした。一括したシステムにしてもらえるとありがたいと思いました。

・アンケートに回答するまでの期間が短いのもっと長くして欲しいです。(予告だけでも助かります)

団体なのでスタッフで話し合う時間や、会員さんからの回答をまとめたりと日数が必要なことを理解してほしいです。また、手書きで回答しないで、回答用紙を枚方市のホームページなどにPDFで添付してほしいと思いました。

・作業所での人材が不足していると感じる(人材の育成)

・株式会社の作業所は沢山あるが、(自由すぎるやり方が多く感じられる)市でやって頂きたい。

2 障害者福祉サービスについて

障害福祉サービスの「不満な点や利用しづらい点」「こんなサービスがあればよいと思うこと」「その他の補足意見」

①訪問系サービスa 不満な点
訪問サービスを受けると看護職員のモニタリングがセットされてポイントが上がり、障害者の負担が多くなる。 内容的には話し相手程度。
同行援護事業については、ガイドヘルパーの現状が社会参加を妨げ出してきた。市民に対してガイドヘルパーの養成の啓発をお願いしたい。
手話で話せる職員が少ない。
事業所が多すぎ、選択に困る。 利用者本位ではないのではないかな。 障害者家族で親の支援時間、子の支援時間と決められて食事、支援も別々と聞きましたが、トータルな考え方はできないのか？
行動援護の利用が介助者2名となっている方も、支援内容によっては一人でも可能なことがある。場面によって一人でも可能となるような柔軟な対応できないのか。 精神の分類(身体なし)で居宅介護(家事)イコール並行援助は早論。ケースバイケースで相談したい。
一人暮らしのろう老人がデイサービスを利用しづらい。
ヘルパー不足(特に精神)によるものだと思いますが、ガイドヘルパーのサービスが受けられない。
これも人員不足に感じる 今はギリギリ来てくれる人はいるけど、ヘルパーに何かあればたちまち対応に困る。
65歳以上になると介護保険サービスの適用を受けるようになるが、障害の特性に応じた専門性の高い対応を、必ずしもケアマネージャーができるわけではない。

①訪問系サービスb こんなサービス
入浴は何故全てのサービスに合わせて週3回なのか。Dr意見書があれば、と言われるが、そもそも市役所の窓口職員の皆様は、週3回日入浴されているのか。 「枚方市障害者計画」での基本理念とかけ離れていませんか。そこに制限をかけていない

<p>市町村もあります。周辺他市のブームと合わせたい気持ちもわからないことではありませんが、本末転倒では？</p>
<p>大阪府内の聴覚障害者がつくった聴覚障害をもつ高齢者のための施設であると聞きました。当初、聴覚障害の高齢者のみを対象としていましたが、現在は他の障害をもつ高齢者が多いのだとも。高齢になれば多かれ少なかれ障害をもつことになるから同じという安易な考えでなく、様々な障害の特性に対応したサービスを提供できる高齢者施設、訪問系サービス、ケアマネージャーが必要だと思えます。</p>
<p>視覚障害者のグループホームを考えてもよいのではないかと。</p>
<p>困った時には対応してくれる施設があれば助かります。(断られることなく)</p>
<p>現在中心的なサービスは生活介護事業所が中心で、就労移行Bなどは運営に苦慮している。日中系サービスは事業所も多くて、利用者の取り合いと職員の離職率の高さ。</p>
<p>・図書館に行きづらいので、リクエスト本や返却本の配達サービスがほしい。EX. 三田市などは在る。</p> <p>・タクシー券がほしい。軽度でも下肢障害にはありがたい。</p>

<p>①訪問系サービスc 補足意見</p>
<p>訪問看護師さんと1対1の時間となるので満足できる時間です。(言語聴覚士)</p>
<p>補装具・日常生活用品の品目と貸与年数の見直しを!</p>
<p>高次機能障がいのある方で実際にサービスを利用している事例は把握できていないが、身体障がいはなく(もしくは軽度)認知機能の障がいが主な方が必要性を理解されず、サービスを利用できない状況になってないか懸念する。</p>
<p>てんかんや発作を起こす可能性のある方への同行援護の充実(医療サービスとの連携など)</p>
<p>いわゆる“枚方市独自のルールの場合、ルールと異なる場合にDr意見書を求められるが、大半が1通数千円かかるものであり、認定調査時は利用者負担がないのに整合性がないように思う。他市では本人や支援者の理由書のみの場合もある。</p> <p>必要がないのに「支給してくれ」や不正は論外だが、実情を把握する方法も再検討してほしい。</p>

② 日中活動系サービス a 不満な点

<p>職員配置が十分でなく現場であらゆる障がいの方に丁寧な対応をする余裕がない。 B型作業所工賃の改善(交通費もカバーできない現状です?)</p>
<p>就労系の事業所(特にA型)が生活面、精神面でのフォローに手が回らないのか(役割ではないと考えているのか?)他の機関にお任せのようなことがある。就労を継続するにあたっては、関係することではないのかと思ってしまう。</p>
<p>就Bだと送迎のない事業所が多い。</p>
<p>作業内容が画一的で何か工夫はないかと考えます。</p>
<p>区分によって報酬が違うが微妙な差なので、例えば区分6の人と区分5とかなり差をつけてくれなくてはまた楽な区分5を優先で、区分6は取り残されていく。</p>
<p>☆生活介護について ・利用時間をもっと長くして欲しい(学生時より帰ってくるのが早い) ☆就労継続支援B型について ・工賃が低すぎて、当事者のモチベーションが上がらない。</p>

② 日中活動系サービス b こんなサービス

<p>定期的に包括センターなどで場所をとらない口の体操とかの教室をして欲しい。</p>
<p>単体の施設では解決できないことや負担が大きいことがあるため、現場の職員が対応事例を共有できる環境を作って欲しい 居場所づくり(場所の提供または費用補助)</p>
<p>杖(金額補助を望む)や、買い物カート(EX. スワニー)の補助がほしい。</p>
<p>ショートステイは、事業所が設置、その事業所利用者が優先となり、緊急事態に利用したい方については、遠方の施設しか空いていない状況。24時間利用できる事業所がほしい。</p>

③ 日中活動系サービス c 補足意見

<p>言動の虐待(心理的)が疑われる例、(給与遅配もあった)事業所や実習先(外部企業等)でも同様の対応や人員不足の補充としか思えない言動を受けたという相談者もいる。就Aに多いが、指定を出した市のチェック機能はいかがでしょうか。外国人技能実習とトラブルと似た話にも思えます。</p>
--

③ 居住系サービス a 不満な点

また、グループホームは、医療ケアの必要な障害者は利用し難い。親の同伴での通院で土、日は帰宅する終のすみかではない。

入所できるか不安です。

家庭に近い、落ち着ける環境なのか、気になります。

短期入所を利用していますが、宿泊人数の関係から急に利用したい時に、しずらい面もある様に思います。

手話で話せる職員の情報が無い。

社会的行動障がい、またはそこまではなくても感情抑制が難しい等の理由で他の利用者とのコミュニケーションがうまくいかず、利用できない、あちこちで断られてしまう事例も聞く

ろう者専用の老人ホームがあったら入所しやすいと思う。

ショートステイが全然足りない。

(グループ)はもちろん。

受け入れも最重度は断られがち。こちらの都合で利用できない状態。

週一利用したとしても月2回のみや、こちらで日を決めることができない状態。

このサービスが機能していない困っている人が多数いる。

④ 居住系サービス b こんなサービス

入所施設は、これから特に必要と考えます。

8050でなく今、9060時代となっています。

親亡き後、グループホームでは生活できません。

岸和田の入所施設では、待機者が122人待ちと聞きました。枚方市としてのお考えをお聞かせください。

単体の施設では解決できないことや負担が大きいこともあるため、現場の職員が対応事例を共有できる環境を作りたい

身体障害のある方が利用できるショートステイ事業所が少ない。体験施設があれば、相談者に提案したいが市内にない現実的でない。

最重度の人も気軽に利用したい。

本当に必要な時に利用したい。

将来が不安なので親亡き後も安心できる体制がほしい。

③ 居住系サービスc 補足意見

親なき後の利用者はグループホームでの生活、施設入所での生活となりますが、施設そのものが少なく又支援員の数も足りていない。障害に応じた施設の充実を願いたい。

手厚い対応してくれる施設ほど大変(運営)最重度の人を受け入れる施設にもっと対応してほしい(金銭的補助)人件費を補填してほしい。

公的施設がほしい(ショートステイも含め)(どんな人も受け入れてくれる最後のかけこみ寺的な)

施設入所の支援員の方々が地域で暮らしている障害者のことや関わる支援事業所のことなど知れる機会がもっとあってもいいのではないか。いろいろな立場の支援者が場を同じくして検討できる機会が作れることで、それぞれの役割が見えてくるのではないかと思います。施設内での支援だけでは情報を得る機会少ない。余計に閉鎖的な印象になってしまう。

この様な施設で働く職員向けの手話講習会を開催してほしい。

直接、手話で話せてこそ、本当の会話(コミュニケーション)だ。

⑤ 地域生活支援事業a 不満な点

利用を希望しても、人がいない等スムーズに利用できない。

日中一時支援の存在は知っているが、事業所の存在を知らない。

相談支援の認知度が低い。相談支援を利用していない場合、主たる介護者が直接事業所を探すので負担が大きい。

地域活動支援事業は、全部付け足してできた制度の様に思います。もっと内容を把握して充実した事業としてほしい。ただ、預ければお金になるから内容はと聞かれると、親は預かって貰っていると、思っている所が見受けられる。

相談員(計画)の事業所が少ない。

通学ガイドの受け入れ先がない。

母体との兼務でしか運営が成り立たないため、相談業務に専念しづらい面はあるのではないかな。

看板だけ掲げている事業所もある。

杖購入費の全額補助

買い物カート(スワニー)の補助金

介護タクシーを利用しやすいように、値段が高い。

手話が分かる職員が居るか。

どこも人員不足

人員確保必要。利用者が多すぎて断られることが多い。特に最重度の人は。

☆相談支援について

相談支援事業所の充実を望みます。

相談支援事業の計画相談ができる事業所が少なすぎる。

支援学校卒業前に相談支援事務所とつながることを勧められたが、実際には受け入れてもらえるところがほとんどなかった。

セルフプランでは情報がなさすぎる。

セルフプランだと、何かあった場合、家庭だけでは対応しきれないのが現実。

セルフプランだと孤立しがち。個人で自分に合った福祉サービスを探すことが困難だと感じる。障害のある人が必ず相談支援事業所繋がり、できるだけ安心して暮らせるようになってほしい。

高校を卒業し大学や専門学校へ進学すると、児童デイサービスは終了し、相談支援も終了となり、支援が届かない。

☆移動支援について

移動支援を使いたくても、発達障害にありがちなこだわりで、初めての人の初めての行動パターンに対応することが苦手だったりするので、担当者が変わる移動支援は、ずっと利用できないままである。

支援区分が5だが、療育手帳BIだと本人の交通費、ヘルパーさんの交通費とも割引がないため費用費用負担が大きく、つらい。

☆地域活動センターについて

何カ所もあることは知っているか、どんなところなのか何をやっているかわからないので利用しにくい。

もっと障害がある人のいる家庭に情報は届くように広報してほしい。

発達障害のことをどれくらい理解してくれているのか不安。それぞれの地域活動支援センターに特色がある事は聞いているが、発達障害に詳しい地域活動支援センターを作って(増やして)欲しい。

⑥ 地域生活支援事業b こんなサービス

日中一時支援の時に調理実習など一人で生活していくのに必要なことを、教えてもらえるとありがたいです。

地域活動の支援センターの可能性は広いです。
 依存症や引きこもりの方など、市がアンケートにも書いて下さっている方々にも、居場所として利用していただける可能性は高いです。(実際あります)
 只、センターの人員の養成、確保(お金も含め)にサポートいただけると助かります。
 市内では地域自治会、高齢者施設、企業発の居場所もあります。つながることができたら。

高次機能障がい者の啓発を行いたいが、市としての協力(アイデアの提供を含む)をお願いしたい。

ガイドヘルパーとどこかに行く時、親がその場所まで送迎しているので(うちは電車バスは苦手)結局、親は身動きがとれずなので、こんな場合、格安で手配するとガイドヘルパーが本人と移動できるシステムがあれば助かります。(福祉タクシーは高い)

- ・障害福祉サービスを利用していなくても、障害と診断された方全員が相談支援事業所を利用できるようにしてほしい。使える福祉サービスがあるのに気づくことができない。
- ・移動支援について、療育手帳の判定がB1、B2でも支援区分が4~6の方への費用負担軽減措置をしてほしい。
- ・移動支援を利用して福祉サービス事業所への送迎の場合、枚方市では、ヘルパーさんの交通費は往復とも利用負担者負担となるが、加算等があり往復とも利用者負担ではない市町村もあると聞いた。枚方市でも利用者負担軽減のための検討してほしい。
- ・障害者は的確な状況説明がしたいので、家族は当事者の健康状態の把握が困難。
 今後年齢が上がっていけば、さらに健康管理が難しくなる不安がある。
 発達障害に起因するこだわり等で、一般的な市民検診も来ることが難しい方のための独自のサービスがあればありがたい。

④ 地域生活支援事業c 補足意見

相談支援については、ご本人のその後の生活を左右する最初の窓口になる。高次機能障害は、既存の制度ではカバーできない事例が多く、当事者家族は少しでもよりよい情報を集めるためには、支援者の関わりがないとからかなり遠回りをして疲弊してしまう方も多。
 孤立を防ぐために具体的支援につながらないとしても関係をつなげておく、複数の相談先を提案するなどの対応をお願いしたい。

相談の内容を金額で表現できるものではないが、数十年変わらぬ金額で委託を受託し、相談内容は多様化し、困難割合はさらに増加傾向にある。相談事業からの撤退を行っている法人もあると聞かすが、行政側として相談事業の今後の在り様をどのように捉えているのか知りたい。

ヘルパーと行く場所が少ないので、(人混みきらい)近所散歩も多い。こんな暑いと居場所にこまる。

日陰場所を含め、公園に水遊びできたらうれしい。

・検診の機会は、障害者にも平等に会あって欲しい。

⑤障害児支援a 不満な点

放課後等デイサービスの制度が変わったためか、急に時間の短縮を求められて困った。

当日に「今日は開所できない」と言われた方もいました。

支援者の質の向上を望む

現在成人なので。ただ児童の支援は昔より進歩しているみたいだが(放課後デイなど)、成人の支援が乱雑に感じる。

⑤障害児支援b こんなサービス

放課後等デイサービスの時間延長(別途有料でよいので)

・不正受給など金銭面の監査だけでなく、利用者に対するサービス、支援者などの従事者に対する待遇についても監査してほしい。

・利用する保護者の声、意見を直接吸い上げられる窓口を作る、または、現在そのような場所が存在するのであれば、もっと広く利用する保護者に知らしめるアナウンスが必要だと思う。

⑤障害児支援c 補足意見

障害がある子どもの兄弟児に対するサポート。

保護者の負担を軽くするという視点でも早期に利用できたらいいと思う。

児に特化してサポートされている事業所以外は、ケース数が少なく、経験も少なくなります。

一方で、成人期のサポートへの移行は、保護者、ご家族が悩まれることが多いと感じます。

枚方にはサポートブックはありますが、できれば移行時の課題について、自立支援協議会で話し合えたら。共有(現場レベル)

げんじてん しょうがいじ そうだんじれい こうつうじ かなど どうじしゃかぞく おも
現時点では障害児の相談事例はないが、交通事故等での当事者家族がおられると思う。

げんざいせいじん
現在成人

じぎょうしょ とつぜん きゅうし けいけん しょうがいじそうだんしえん ひつようせい つうせつ かん
・事業所の突然の休止を経験し、障害児相談支援の必要性を痛切に感じた。
ひらかたし りようしゃ たいはん みみ こんかい じれい ばあい こじん
枚方市はセルフプランの利用者が大半だと耳にするが、今回のような事例の場合、個人です
ぐにたいおう する ことが とても 難い ことを 実感 した。
し じどう む けいかく そうだん しえん じぎょう しょ せつち すいしょう せつち しえん おこな しょうがいじ
・市としても、児童向け計画相談支援事業所設置の推奨、設置支援を行い、障害児の
ほごしゃ せきよくてき りよう うなが ひつよう
保護者への積極的な利用を促す必要があるのではないだろうか。
じぜん つうこく じどう は たつ し えん ほう か ご とう きゅうしよ へいしよ
・事前通告なく、いきなり児童発達支援、放課後等デイサービス等を休所もしくは閉所するこ
とのないよう管理監督して欲しい。休所または閉所するといった場合、次の行き場を見つける
サポート 行う 事を 義務 づける 等の 対策 して 欲しい。いきなり 休所 もしくは 閉所 する と言っ
た 事案 が 起こった 場合、市 として 速やか に対応 するための ルール 作り 等 を お願い したい。

⑦ 障害児受入れa 不満な点

ははおや しょう こうせいにゆういん しゅじゅつ よ ご こ ほうくしよにゆうえん きんきゆうてき う
母親が障がいのための更生入院・手術、その予後に子どもの保育所入園を緊急的に受け
入れてほしかった。

しりつ ほういそく しょうがい しょうがい とう い ことわ にゆうえん
私立保育園では障害があるというだけで受け入れを断られたり、入園できたとしても
ほうくし しょうがい たい きょういく ごうりてきはいりよ
保育士に障害児に対する教育をされていないため、合理的配慮がされていない。(理解して
もらえない)と感じる。公立保育所が民営化されていく中、安心して子どもを預けて働いてい
る場所がなくなっていくのではと不安を感じる。運動会等の行事に不参加を要請する園もあ
るそうです。
きょうだい おな ほういそく えん う い
兄弟と同じ保育所(園)で受け入れてほしい。

⑥ 障害児受入れb こんなサービス

しりつ ほういそく ほういそく ほういそく けんしゅう かなら う しょうがいじ う い たいせい
私立保育所でも加配の保育士に研修を必ず受けてもらうなど、障害児を受け入れる体制を
どとの 整えてほしい。
う ざら ふ ようしやうき きょういく ちから い
受け皿を増やしていただき、幼少期からインクルーシブ教育に力を入れていただきたい。
こうりつ しりつ と しせいたいせい ちが かん かはいとう ふじゅうぶん
公立、私立問わず、姿勢体制に違いがあるのかなと感じます。加配等のみでは不十分という
か、家族、支援者、保育所が連携しやすくなれば、あと全体的に家族支援の視点を持ちたい
ところ です。どうしても、子どもに焦点が当たりやすいですが。
けんしゅう こうりゅう ば
研修&交流の場がほしい。

⑥障害見受け入れc 補足意見

記入が多いのでアンケートに答えることが大変!パソコンとかで簡単に答えられるよう改善してほしい。

質問もアバウトでなく、細かく答えやすいよう☑だけ入れたらよいか、工夫してほしい!集計もその方がやりやすいのでは?

☆このアンケートの設問そのものが、ろう者の生活を理解していない。

しみん ちょうさ しょうがいしゃ しゅうけいけっか がいよう 市民アンケート調査（障害者）集計結果の概要

しゅうけいほうほう □ 集計方法

- ・ 障害者手帳種別に基づく区分によりクロス集計を行った。
- ・ 「身体障害者手帳を所持」、「療育手帳を所持」、「精神障害者保健福祉手帳を所持」、「複数手帳を所持」、「手帳を所持していない」の5区分である。「無回答」は表示していないが、「合計」には含まれる。

ぞくせい 1. 属性

- ・ 合計では7割が「本人」ですが、療育・複数は「本人」4割、「家族」5割となっています。
- ・ 身体は高齢者の割合が高く、療育は若年層の割合が高くなっています。

しょうがいじょうきょう 2. 障害状況

- ・ 療育の5割が発達障害と診断されています。手帳取得年齢「18歳未満」が6割となっています。
- ・ 強度行動障害と言われた方は、「身体」「複数」で2割程度あります。
- ・ 高次脳機能障害の診断は、各障害種別とも1割弱あります。
- ・ 難病罹患している方は、「身体」「複数」で2割あります。
- ・ 医療的ケアは「服薬管理」が中心ですが、「透析」「ストマ」なども一定数あります。

すまいや暮らし 3. 住まいや暮らし

- ・ 「家族と暮らしている」は8割、「一人暮らし」は1割となっています。
- ・ 同居者は、身体では「配偶者」が7割、療育では「母」8割、「父」7割となっています。
- ・ 日常における自身の身体的な行動は「一人でできる」方が多いですが、療育、精神では、「お金の管理」「薬の管理」など複雑な行動では、「一人でできる」は3割以下となっています。
- ・ 介助者（複数回答）は、身体は「配偶者」、療育・精神・複数は「母」「父」が中心です。
- ・ 主な介助者は、療育・複数は「母」6割、身体は「配偶者」3割となっています。
- ・ 主な介助者の健康状態は、6割が「普通」ですが、「良くない」は2割あります。

→家族中心（母親）の介助から、福祉サービス等を活用して家族（母親）の負担軽減を図る

・一時的に介助ができなくなった場合の対応は、「他の家族」「知人」「短期入所サービス等」などや「一人でできる」で、6割は対応できますが、3割は「対応できず困る」となっています。

・「介助を受けているうえで困ること」は「精神的負担」「経済的負担」「介助者が少ない」が主ですが、身体・精神は「精神的負担」が2割あります。

→精神的負担とは何か、軽減する方策は

・暮らしの希望については、「家族と一緒に」が6割となっています。また、「一人で暮らしたい」は身体・精神・複数は2割ですが、療育は1割となっています。

→一人暮らしは障害者の自立化の一歩と位置づけ、総合的な支援の推進

・「通院時や医療を受けるにあたって困っていることでは、「公共交通の利用」「医者や看護師とのコミュニケーション」ですが、特に療育では「医者や看護師とのコミュニケーション」が4割となっています。

→医者や看護師とのコミュニケーションの取り方の学びの必要性

・地域生活での支援としては、「経済的負担軽減」「相談対応等の充実」「在宅サービス利用」「障害者に適した住宅確保」が3割以上ですが、「情報の取得利用や意思疎通」が2割あります。

4. 日中活動や就労

・8割以上が週数回外出していますが、『外出しない』は1割あります。

・外出目的は「買物」「医療機関受診」「通園・通所・通学・通勤」などで

→外出機会増加への促進方法の検討

・外出での困りごとは、「困った時にどうすればいいのか心配」や「休憩できる場所が少ない」「道路や駅に階段や段差が多い」「列車やバスの乗り降りが困難」などの公共空間での困りごとが指摘されています。

→総合的なバリアフリーのまちづくり

→障害者参加型のまちづくり

- ・「平日の日中を主にどのように過ごす方」では、身体・精神は「自宅で過ごす」が5割、療育は「福祉施設や作業所への通い」が5割となっています。
- ・「会社勤めや、自営業、家業等で収入を得る仕事をしている」（全体の4割）方は、「正社員」は4割で、「パート・アルバイト等」非正規が5割となっています。
- ・仕事の見つけ先は、「自分自身で見つけた」が3割ですが、身体は5割となっています。療育では「障害者就業・生活支援センター」が3割となっています。
- ・就労期間は、「10年以上」は身体6割、療育割5割ですが、精神・複数は期間が短い方が多いです。
- ・退職理由は、自身の「体調悪化」が4割ですが、「仕事場の人間関係」「障害に対する周辺の理解や配慮不足」も指摘しています。
- ・就労支援としては、「職場の上司や同僚に障害の理解があること」「短時間勤務や勤務日数等の配慮」を中心として、多面的な支援を必要としています。
- ・余暇活動に必要なことでは、「いつでも気軽に立ち寄り、仲間達と過ごすことのできる場所」が3割あります。

5. 障害福祉サービス等の利用

- ・障害支援区分を受けている方は2割にとどまります。
- ・介護保険サービスを受けている方は、合計1割、身体2割となっています。
- ・介護サービスを受けている方（13.9%）の要介護度は、「要支援1、2」3割、「介護度1～3」4割、「介護度4～5」2割となっています。
- ・訪問系サービスを『利用している』は1割前後ですが満足度は高いです。『利用していない』は7割前後で、「今後も利用しない」方が多くなっています。
- ・日中活動系サービスを『利用している』は1割前後で、『利用していない』は6割前後となっています。
- ・居住系を『利用している』は1割未満で少ない。今後も利用しない理由は、「家族の支援があり、自宅で生活できるから」が5割あります。
- ・相談系サービスを『利用している』は1割前後で少なく、利用していない理由は「利用しなくても困らないから」となっています。
- ・移動支援サービスを『利用している』は1割で、利用していない理由は「自分ひとりで生活することができるから」となっています。
- ・日中一時支援事業を『利用している』は0.5割未満と少なく、利用していない理由

は「利用しなくてもあなた自身のことはあなた自身でできるから」となっています。

・意思疎通支援事業を『利用している』は0.5割未満と少なく、利用していない理由は「利用しなくても困らないから」となっています。

・地域活動支援センター事業を『利用している』は0.5割未満と少なく、利用していない理由は「どんなサービスが知らないから」となっています。

6. 相談相手

・相談相手は「家族や親せき」7割となっています。精神・複数は「かかりつけの医師や看護」4割となっています。

→医師や看護の重要性、家族内だけでなく外部の専門機関等への相談も促進

・福祉サービス等に関する情報の入手先は、「広報ひらかた」「インターネット」「家族は親せき、友人・知人」が3割となっています。精神・複数では、「かかりつけの医師や看護」3割となっています。

→高度情報機器等の使用に関する総合的な支援の必要性

・生活情報入手で困ることは、「物を買うときの契約などで申込書の内容がむずかしくわからない」が3割で、特に療育では6割となっています。

7. 権利擁護

- ・「嫌な思い」は4割が経験し、4割が経験していません。
 - ・「嫌な思い」をした場所については、「外出先・余暇を楽しむとき」「公共交通機関」「職場」「病院等の医療機関」「病院等の医療機関」の順となっています。
- 当該施設での啓発の充実

- ・「嫌な思い」の内容は、「じろじろ見られた」「不親切・冷たい態度をとられた」「障害に配慮してもらえなかった」「暴言や嫌味を言われる、暴力を受ける」などです。
 - ・成人後見人制度について「制度が良くわからない」は、合計3割、療育・精神・複数では4割、身体は2割となっています。
- 成人後見人制度の周知、長期的視点での対応の必要性を訴求、啓発活動

8. 災害時の避難等

- ・「地震等の災害時に一人で避難」については、「できる」は合計4割ですが、療育・精神は3割となっています。「できない」では、複数・療育は5割となっています。
- 重度障害者の避難方法と避難所の受け入れ体制の整備（人材、関係機関のネットワーク、設備・備品の備蓄）
- ・「避難時に助けてくれる人」が「いる」は2割、「いない」は4割となっています。
- 障害者避難支援者等に関する啓発
- ・「助けてくれる人」は「近所の人」4割、「友人・知人」3割となっています。療育は「ヘルパーなど事業所の職員」4割となっています。
 - ・災害時に避難する時や避難生活で困ること、不安に思うことでは、「投薬や治療が受けられない」5割、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」5割、「安全なところまで、迅速に避難することができない」4割となっています。
 - ・精神は「投薬や治療が受けられない」6割、療育は「周囲とコミュニケーションがとれない」6割となっています。
- 医療機関・薬局等との連携 →避難所でのコミュニケーションづくり
- ・災害時の避難先は、「避難所」4割、「わからない」2割となっています。
 - ・避難場所があれば、役に立つ、障害特性に配慮していると思われる品物については、合計は「自分だけの空間を作れる簡易な装置（段ボール箱の区切り等）」5割、「何らかの支援が必要なことがわかるカード、バンダナなど」2割、「騒音、

雑音を遮断する耳あて（イヤーマフ等）」2割となっています。前記以外では、身体は「車いすで使用できるトイレ」3割、療育は「避難所での連絡事項などが音声により伝えられる装置」3割となっています。

→障害内容や障害者の意向に対応した、避難所での設備・備品計画の作成

9. 新型コロナウイルス感染症流行の影響

- ・新型コロナウイルス感染症流行による生活の変化は、「外出ができなかった」4割、「介助者（家族やヘルパー）との感染対策」2割、「いつも行っているところ（会社や通所事業所など）に行くことができなかった」1割となっています。
- ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことによる変化は、「まだ少し、感染に対する不安があり、しばらく以前の生活には戻れないと思う」5割となっています。